

2023 年度

**大同大学
アセスメント調査
結果報告書**



自分が変わる、未来を変える。

大同大学アセスメント調査の実施および報告書の作成にあたって

大学評価委員会
委員長 棚橋 秀行

本学では 2022 年度より全学組織的な取り組みとして学生実態調査を実施しており、2023 年 12 月に学生実態調査のみを報告書として取り纏めた。その後、2024 年 4 月 1 日付で「アセスメント・ポリシー」および「アセスメント・プラン」が施行されたことを受け、今年度より学生の学修成果に関する他の調査結果も含め「大同大学アセスメント調査結果報告書」として取り纏めることとした。本報告書は以下に示すように 6 つの章により構成されている。

<目次>

第 1 章 アセスメント・ポリシーとアセスメント・プランについて	1
1. 1 アセスメント・ポリシー	2
1. 2 アセスメント・プラン	3
第 2 章 学生実態調査	6
2. 1 学生実態調査について	7
2. 2 報告書	8
第 3 章 学修成果の点検・検証の総括（2020 年度入学生）	51
3. 1 学修成果の点検・検証の総括	52
3. 2 各学科専攻の DP 一覧	62
3. 3 各学科専攻の 2020 年度入学生の DP ポイントグラフ	65
第 4 章 外部アセスメントテスト（GPS-A）	81
4. 1 外部アセスメントテスト（GPS-A）の分析結果報告	82
4. 2 GPS-A の分析表	83
4. 3 ベネッセ集計結果	85
第 5 章 DP 到達度調査	88
5. 1 DP 到達度調査の分析結果報告	89
5. 2 DP 到達度調査の分析表	90
第 6 章 まとめ	91

第1章 アセスメント・ポリシーとアセスメント・プランについて

1. 1 アセスメント・ポリシー

大同大学アセスメント・ポリシー

(2024 年 4 月 25 日 制定)

本アセスメント・ポリシーは、学生の学修成果の点検・評価に関する方針を定めるものです。

1. 点検・評価の方針

- 1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーを踏まえて、点検・評価を行う。
- 2) 点検・評価の尺度は大学全体で統一する。
- 3) 点検・評価にあたり客観的な視点として学外の意見を参考にする。
- 4) 点検・評価の結果は経年比較が可能な数値データを用いる。
- 5) 点検・評価の透明性を保つため、結果の概要は広く一般に公開する。
- 6) 点検・評価は毎年度行う。

2. 具体的実施方法

点検・評価の尺度と評価方法は「大同大学アセスメント・プラン」に定める。

附則

第1条 2024 年 4 月 1 日から施行する。

第2条 「大同大学学修成果に係るアセスメント・ポリシー」（平成 28 年 10 月 1 日制定）は、2024 年 3 月 31 日を以って、廃止する。

1. 2 アセスメント・プラン

大同大学アセスメント・プラン

(2024 年 4 月 25 日 制定)

1. 点検・評価の尺度

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下「DP」という。）に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長（卒業時に習得する具体的な能力）[図 1] を、大学全体レベル（全学）、学科・専攻レベル（学士課程）、授業科目レベル（授業担当者）の 3 つのレベルで検証を行う。

(1) 大学全体レベル（全学）

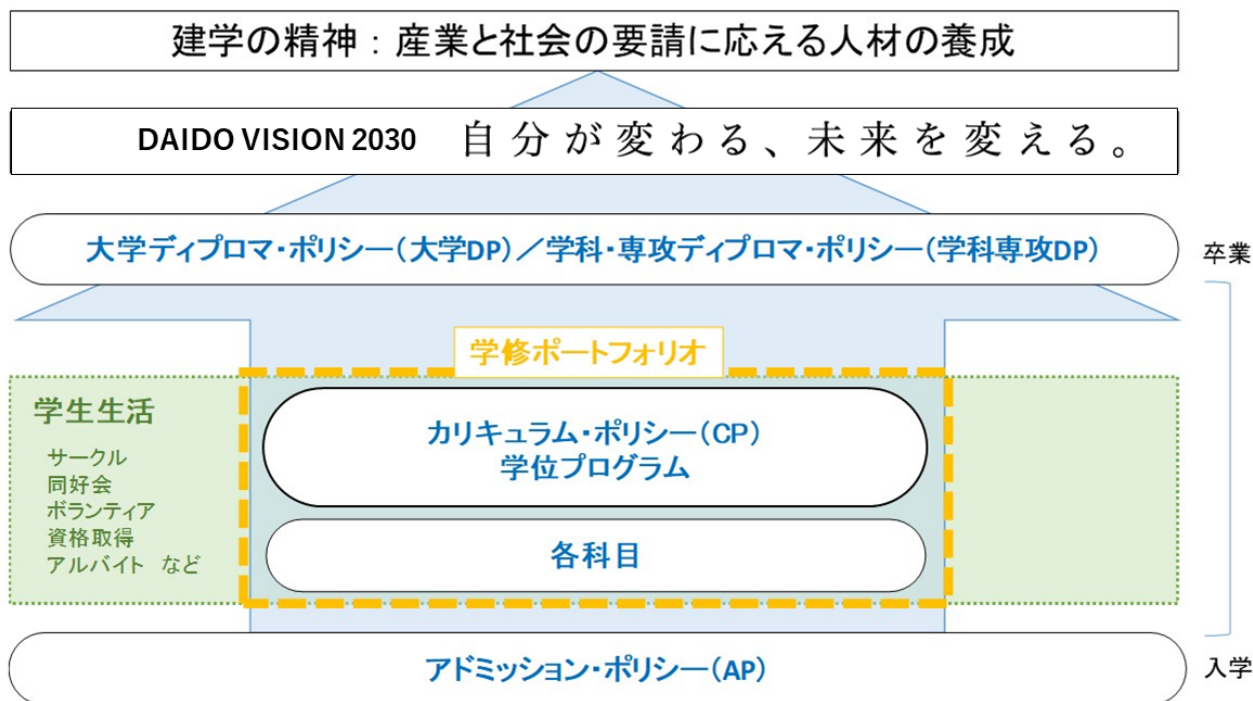
大学全体レベルでは、在学生・卒業生・企業からの評価結果を総合的に分析し、3 つの方針の整合性の確認、学修成果・教育成果の総括的な検証を行う。

(2) 学科・専攻レベル（学士課程）

学科・専攻レベルでは、カリキュラム・科目構成の検証、学修ポートフォリオによる学生の習得状況の検証、各科目の学修状況を基に、大学 DP ならびに学科・専攻 DP の達成状況について検証を行う。

(3) 授業科目レベル（授業担当者）

授業科目レベルは、カリキュラムマップの貢献度や大学 DP に繋がる能力について、授業評価アンケート等を活用して、授業方法の適切性について検証を行う。



[図 1]

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に求められる学生が卒業時に達成すべき質的水準を確保するための具体的な能力と習得場面を〔表 1〕に定義する。

〔表 1〕

大学 DP	具体的な能力		習得場面
a 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている	a 倫理観	社会をよりよくする活動を行う上で、守るべき法令や規則、規範・秩序などを理解し、責任感をもって誠実に行動する能力	ガイダンス、授業、キャリア支援、学内活動、学外活動、
	a 規律性	社会を構成する一員として、法令や規則などの明文化されたルールや、他者と交わした約束事を守り行動する能力	ガイダンス、授業、キャリア支援、学内活動、学外活動
	a 主体性	課題を認識し、目標を設定し、計画を立てる過程の中で、自身の考えを持ち、具体的な行動を起こす能力	授業、学内活動、学外活動
	a 協働性	社会・組織・クラスなどのコミュニティの中で、多様な価値観を理解した上で自分の役割を担い、協力しながら行動する能力	授業（特にアクティブラーニング）、学内活動、学外活動
	a 課題発見力	現状を把握し、目標を設定し、現状と目標とのギャップを認識する能力	授業、学内活動、キャリア支援
	a コミュニケーション力	相手を理解した上で、自分の意志を表現し、合意形成を図る能力	授業（特にアクティブラーニング）、学内活動、学外活動
b 豊かな教養を身につけている	b 豊かな教養	多角的に物事を考えるために、あらゆる物事に興味・関心をもって、歴史や文化、社会の仕組みなど幅広い知識を習得していること	授業、学内活動、学外活動
	b 他者理解	相手を尊重し、多様な価値観があることを理解していることと、身体的・精神的な特徴を理解していること	授業（特にアクティブラーニング）、学内活動、学外活動
c 確かな専門性を身につけている	c 専門知識・技能	社会のニーズや様々な課題の解決に向けて、自らの専門分野において身に付けるべき知識や技術とそれを活用する能力	授業、資格取得
	c 論理的思考力	課題解決や結論を導くために順序立てて考え、課題を認識し、集計分析や考察・提案する能力	授業
d 豊かな創造力を身につけている	d 創造力	社会のニーズに対して、自由な発想の下、独自に工夫や応用を重ね、新しい価値を創造する能力	授業、卒業研究

3. 評価方法

各レベルにおける評価方法を〔表 2〕に整理する。

〔表 2〕

レベル (実施主体)	評価指標【実施時期】	参考資料
大学全体レベル (全学)	・ DP ポイント (学修ポートフォリオ)【各期】 ・ 授業外活動状況 (学修ポートフォリオ)【各期】 ・ 外部アセスメント調査 (GPS-Academic) 【1 年次・2 年次・4 年次】 ・ DP 到達度調査【4 年次、卒業後 3 年、企業】 ・ 学生実態調査	・ 各種入学試験結果 ・ 入学前教育 ・ プレイスメントテスト ・ 休学・退学率 ・ 学生相談履歴 ・ 就職状況 ・ 資格取得状況 ・ 学生実態調査 ・ 授業批評
学科・専攻レベル (学士課程)	・ DP ポイント (学修ポートフォリオ)【各期】 ・ 授業外活動状況 (学修ポートフォリオ)【各期】 ・ 外部アセスメント調査 (GPS-Academic) 【1 年次・2 年次・4 年次】	
授業科目レベル (授業担当者)	・ 授業評価アンケート【各期】	・ プレイスメントテスト

第 2 章 学生実態調査

2024 年 10 月

学生実態調査の実施

大学評価委員会
委員長 棚橋 秀行

2020 年度の大学認証評価における実地審査で、学生実態調査が行われていないため学生の意見・要望をくみ上げる仕組みが十分でない旨の指摘を受けた。また、本学の教育に関する内部質保証の PDCA サイクルを効果的に機能させるためには、教学マネジメントを確立する必要がある。現在、学習成果（正課・学業成績）の点検・評価は実施しているが、学生生活・課外活動等を含めた学修成果を評価するための情報が不足していると思われる。

こうした背景を受け、2022 年度から新たに『学生実態調査』を実施することにより、学生の意見・要望をくみ上げる仕組みを構築することとした。質問項目には、大学認証評価（第 3 期の基準 2. 学生）の留意点として記されている項目を把握できる設問を含めるとともに、他大学との比較のために、日本私立大学連盟の「学生生活実態調査」の設問も参考にした。また、高い回答率を得るため、対面の環境で Web 入力させる方法で、かつ 15 分程度で回答できる内容とした。実施時期は対象者ごとに以下のように実施した。

○1～3 年生：次年度前期の履修ガイダンスにおいて、対面で行われる事務系ガイダンスの中で実施した（2024 年 3 月 26 日、27 日、28 日）。回答者数は 3 年生（21 生+過年度）571 名、2 年生（22 生）が 722 名、1 年生（23 生）が 666 名であった。

○4 年生：2024 年 1 月 22 日（月）～2 月 29 日（木）までの回答期間において、卒業研究発表会などの機会を活用し、各学科・専攻で適切な機会に実施していただいた。各研究室単位での実施でも可とした。回答者数（20 生+過年度）は 435 名であった。

○2024 年度新入生に対して

入学直後に対面で行われる事務系オリエンテーションで Web 入力させる方法で実施した。回答者数は 771 名であった。

得られた結果について、以下①②③の手順で分析・報告書の作成を行った。

①4 つの事務室（学生室、教務室、入試・広報室、キャリア支援室）が大学全体としての分析と改善・向上方策の検討を行う。これまであまり行われてこなかった他大学との比較を行い、本学の教学マネジメントとして知見を得る。

②設問区分「正課教育」（授業に関するもの）に関する回答結果について、各学科・専攻単位のグラフ等を作成する。これらのグラフ等について各学科・専攻からの分析を行う。

③事務局主担当の総務室にて、①②を取り纏めた学生実態調査報告書（案）を作成する。

上記①②③の工程の成果物である報告書（案）について、審議をへて取り纏められたものを以下 2. 2 報告書に示す。

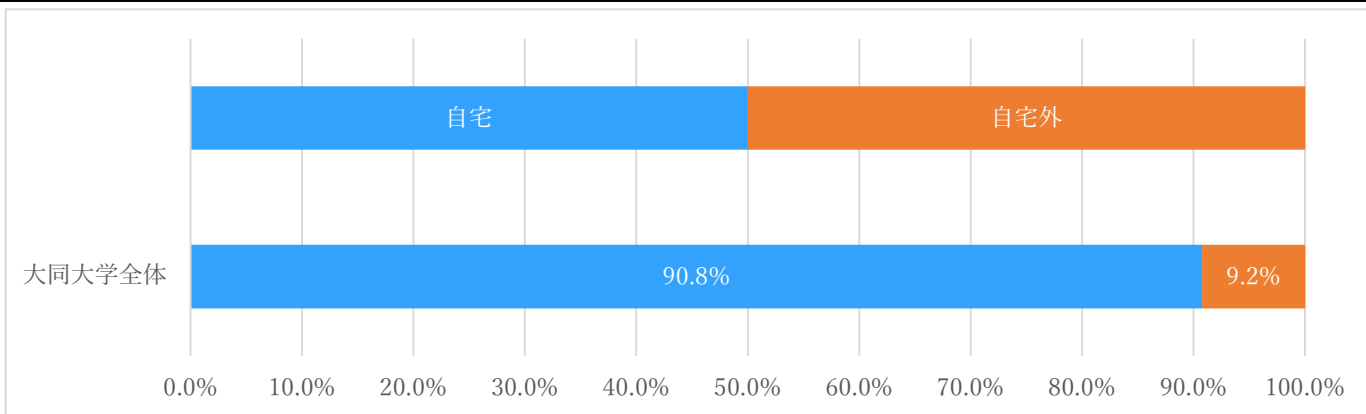
最後に、回答していただいた学生の皆さん、実施および分析にご協力をいただいた先生方、関係事務部署職員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

-以上-

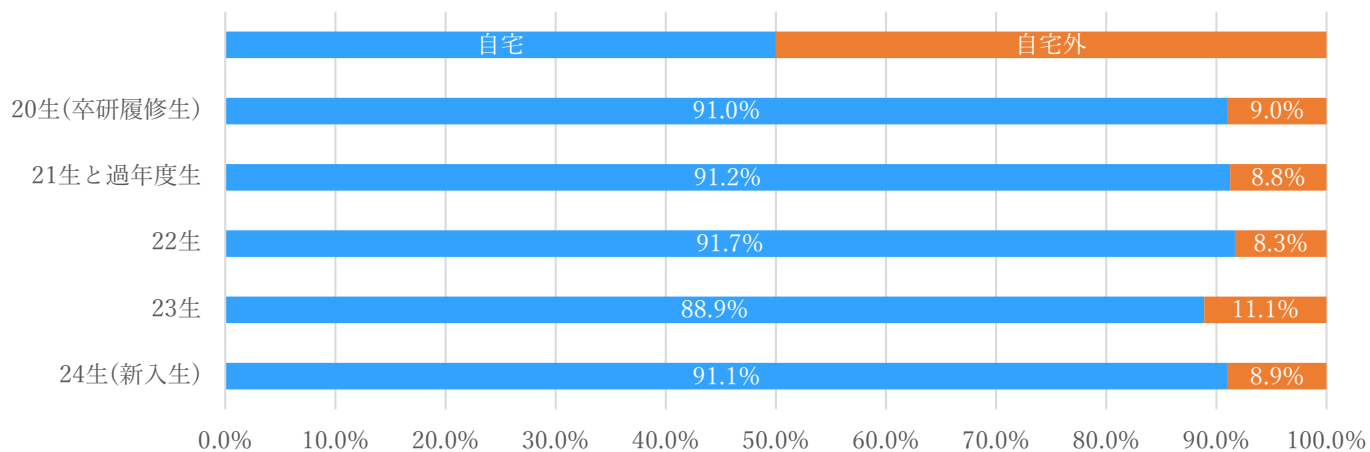
2. 2 報告書

回答属性						
(上段：回答人数 下段：対象人数)						
所属学科	20生	21生（含む過年度生）	22生	23生	24生	総計
2024年5月現在	卒業生	新4年生	新3年生	新2年生	新入学生	
機械工学科	60 (104)	77 (127)	127 (166)	95 (121)	99 (108)	458 (626)
機械システム工学科	64 (99)	71 (124)	110 (131)	76 (118)	104 (109)	425 (581)
電気電子工学科	37 (85)	64 (87)	77 (98)	73 (99)	81 (91)	332 (460)
建築学科 建築専攻 及び インテリアデザイン専攻	71 (118)	83 (135)	70 (120)	113 (134)	103 (115)	440 (622)
建築学科 かおりデザイン専攻	14 (21)	18 (25)	23 (26)	23 (25)	22 (27)	100 (124)
建築学科 土木・環境専攻 都市空間インフラ専攻	54 (54)	53 (63)	58 (63)	51 (61)	48 (53)	264 (294)
情報システム学科	69 (104)	78 (130)	97 (137)	80 (146)	124 (129)	448 (646)
情報デザイン学科	38 (118)	90 (134)	105 (122)	108 (123)	119 (122)	460 (619)
総合情報学科	28 (71)	37 (79)	55 (77)	47 (72)	71 (73)	238 (372)
総計	435 (774)	571 (904)	722 (940)	666 (899)	771 (827)	3165 (4344)

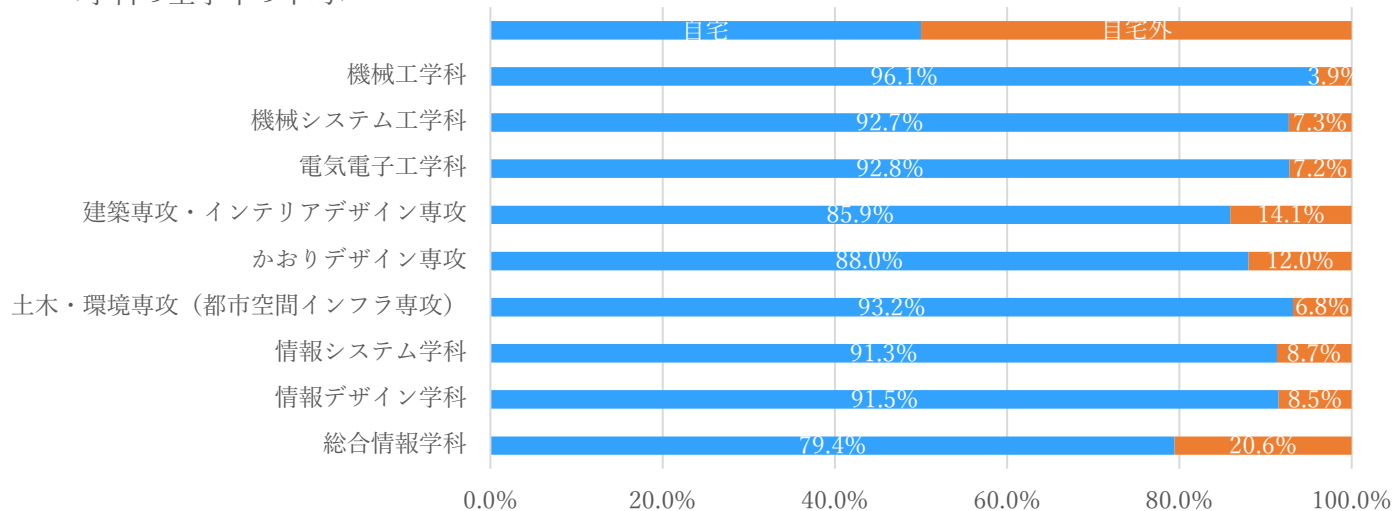
区分	20生	過年度,20生,21生,22生	24生	あなたの現在の住まいはどちらですか。
設問No.	1	1	1	



< 本学の各学年の平均 >



< 学科の全学年の平均 >

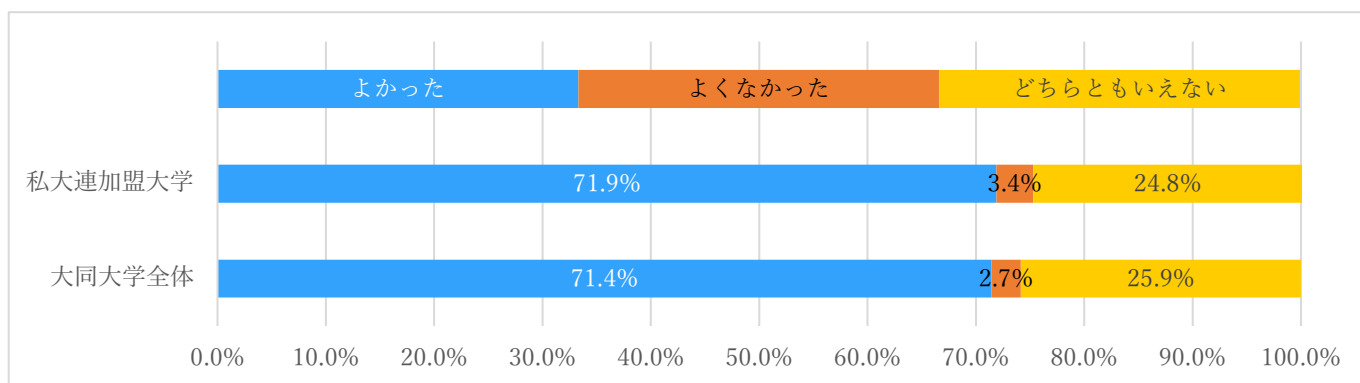


自宅通学学生が圧倒的多数

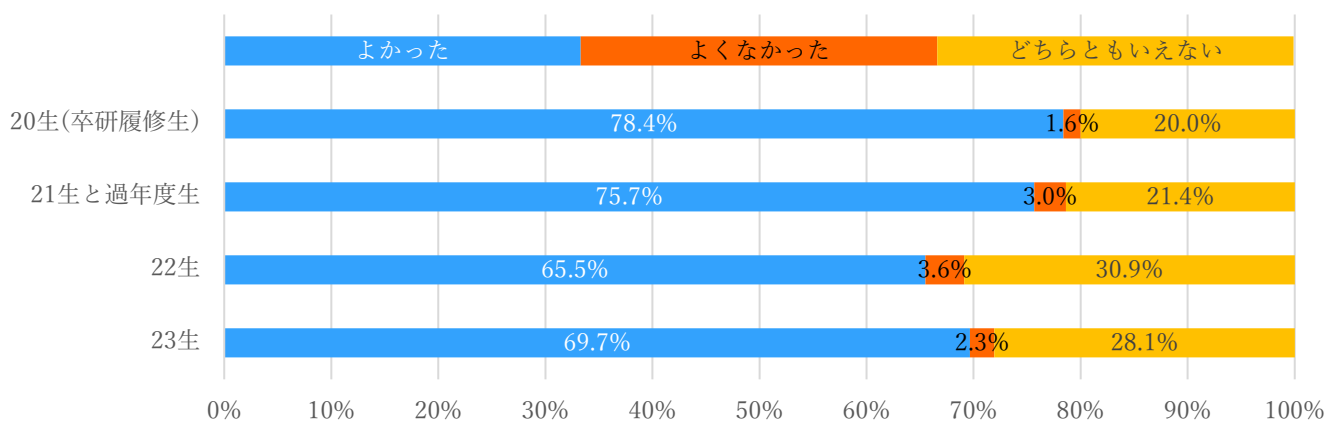
「自宅」と回答した割合が本学全体で 90.8%となっており、圧倒的多数を占める結果となった。

なお、学科・専攻別に見てみると、総合情報学科は「自宅外」と回答した割合が 20.6%と他に比べると高い結果となっている。当該学科にはクラブ推薦学生が多く、その多くが自宅外通学者である。

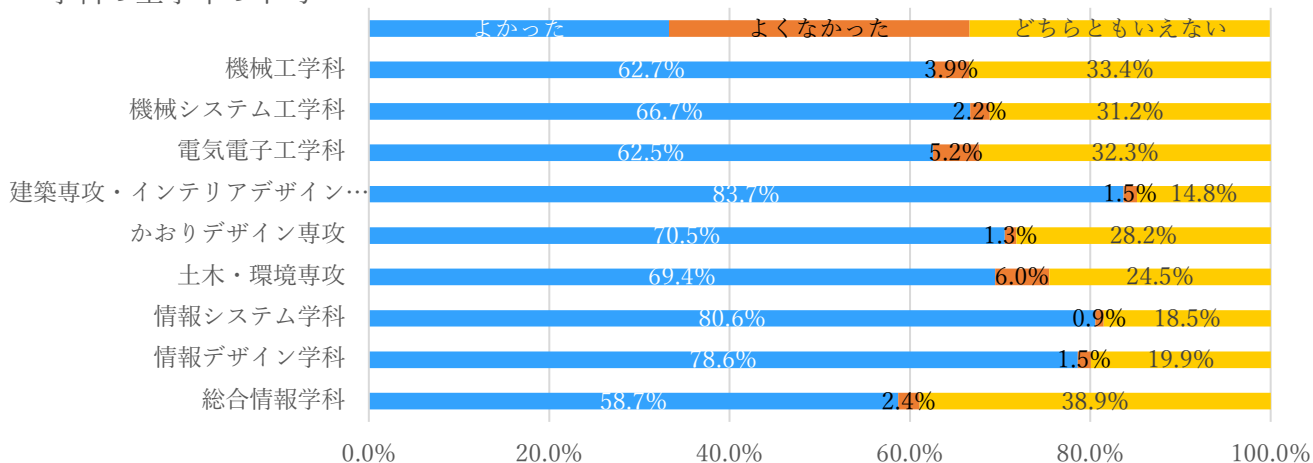
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	所属する学科・専攻に入学してよかったと思いますか。
設問No.	3	4	—	



<本学の各学年の平均>



<学科の全学年の平均>



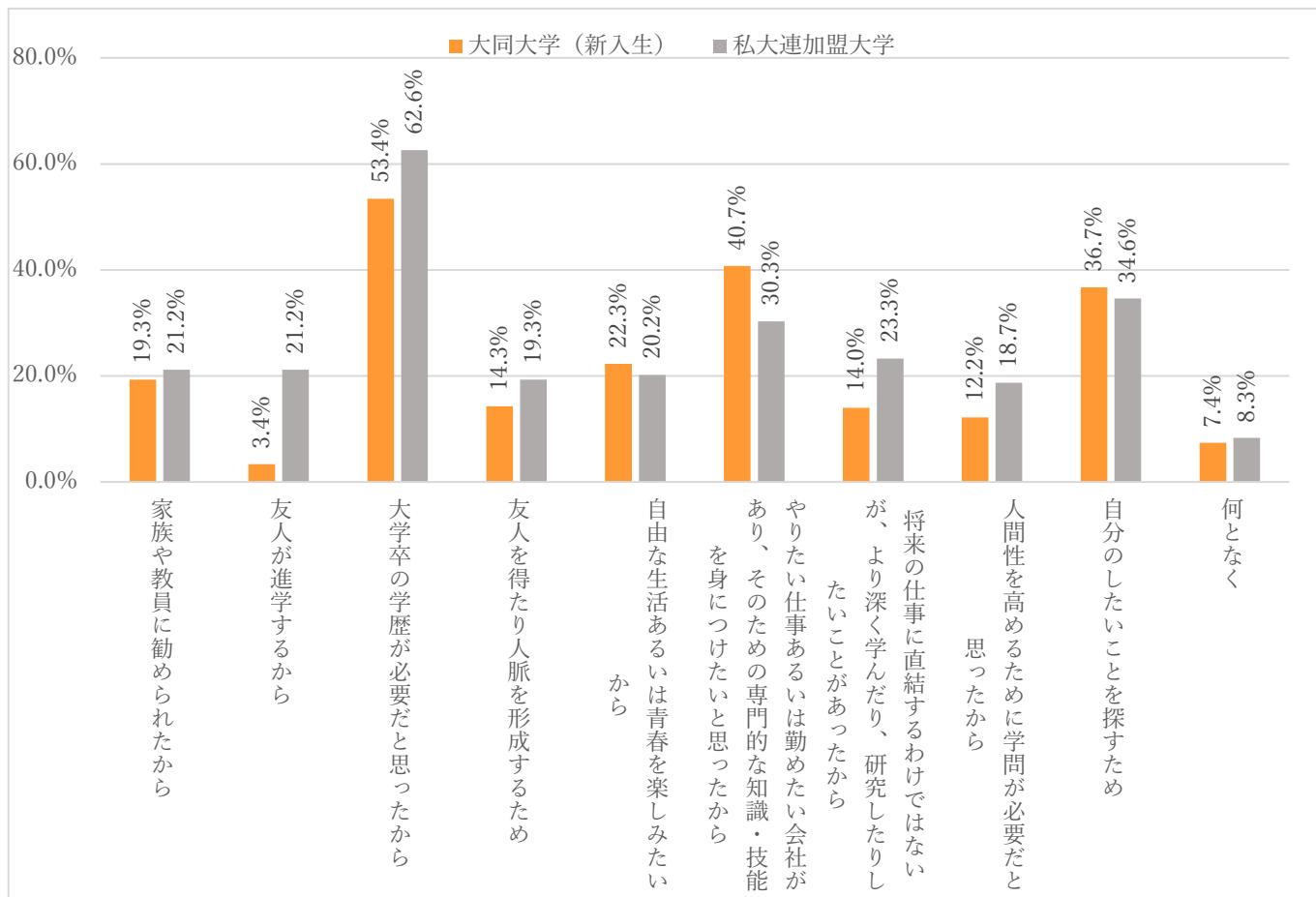
昨年度の調査結果より学生の学部・学科への満足度は上がっている

所属する学部・学科への満足度について調査した本項目で、「よかった」と回答した本学学生の割合は、20生以上(卒業時)が78.4%、21生及び過年度生(3年時末)が75.7%、22生(2年次末)が65.5%、23生(1年次末)が69.7%という結果となった。全国平均は71.9%で本学平均とほぼ同等である。

なお、昨年度の調査結果と比べると「よかった」と回答した各学生の割合は、すべての学年において上がっている。

また、学科・専攻別で見ると、建築専攻・インテリアデザイン専攻が最も高く、83.7%である。

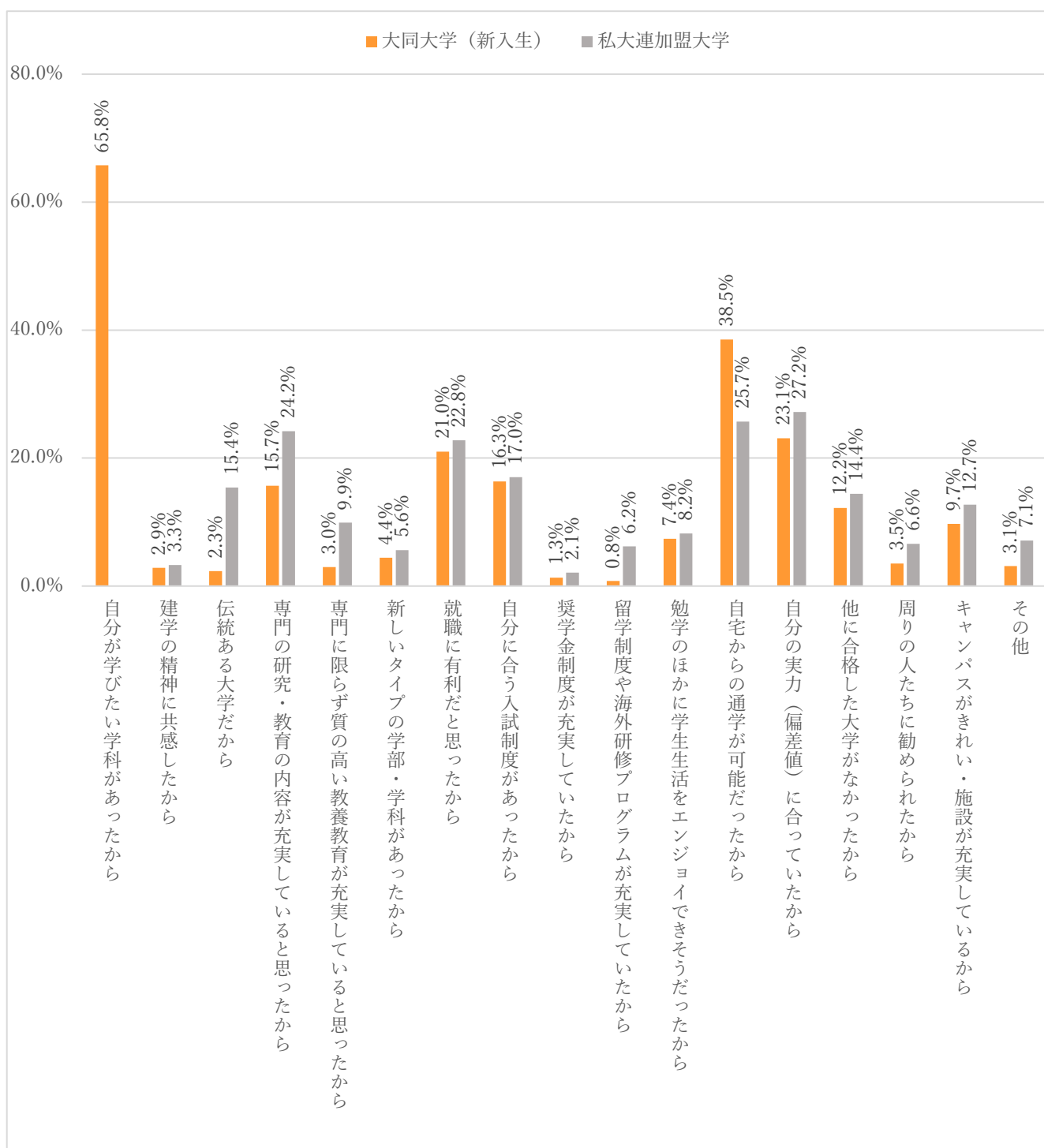
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	大学進学目的は何ですか。
設問No.	—	—	3	



「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が1位

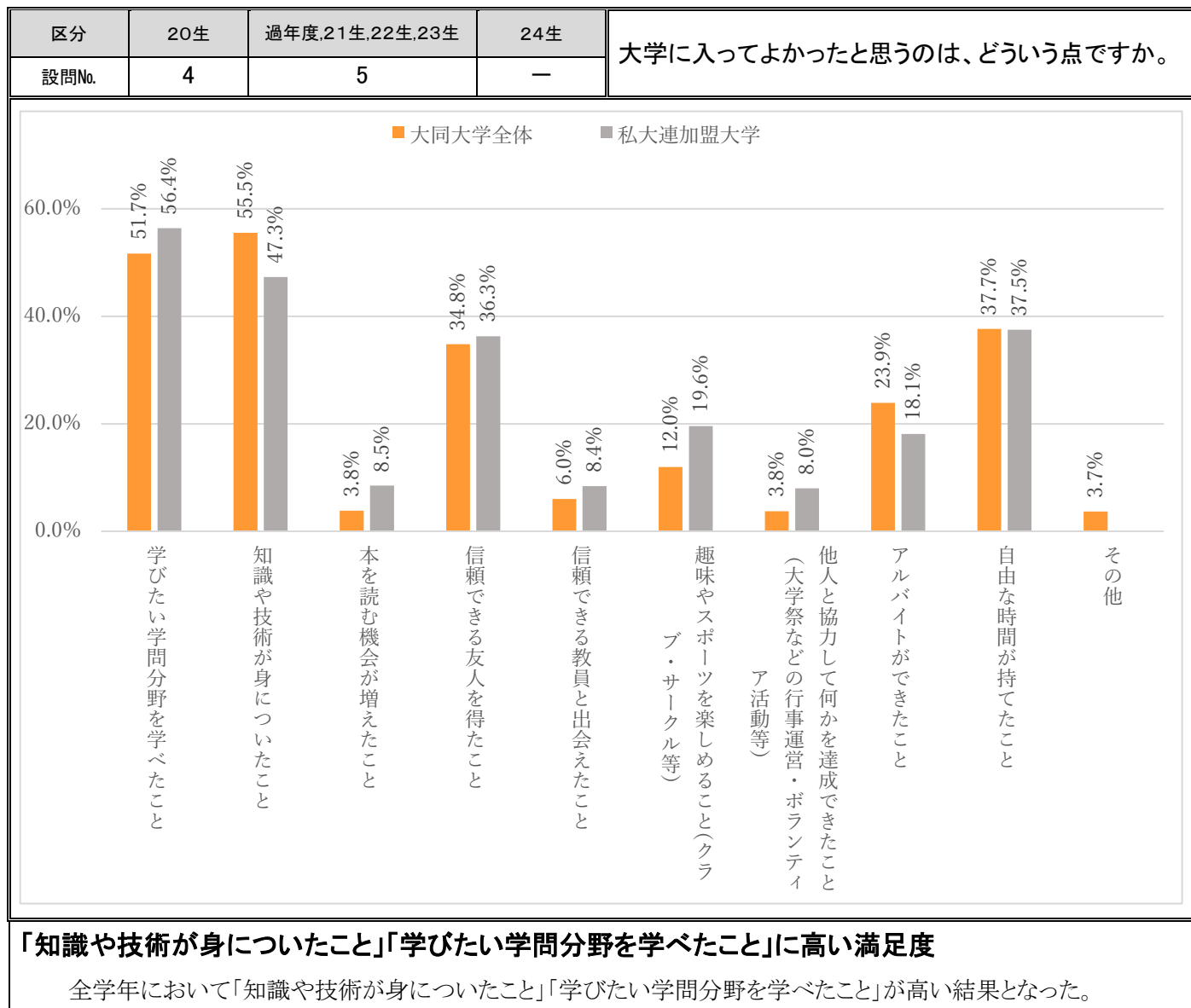
大学進学目的については、新入生全体では、「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が53.4%で最も高く、次いで「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が40.7%、「自分のしたいことを探すため」が36.7%であった。全国平均と比較すると「大学卒の学歴が必要だと思ったから」は9.2%低く、「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」は10.4%高いことから、明確な目的のもと本学へ進学する学生が多いことが伺える。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	大同大学を選択した理由は何ですか。
設問No.	—	—	4	

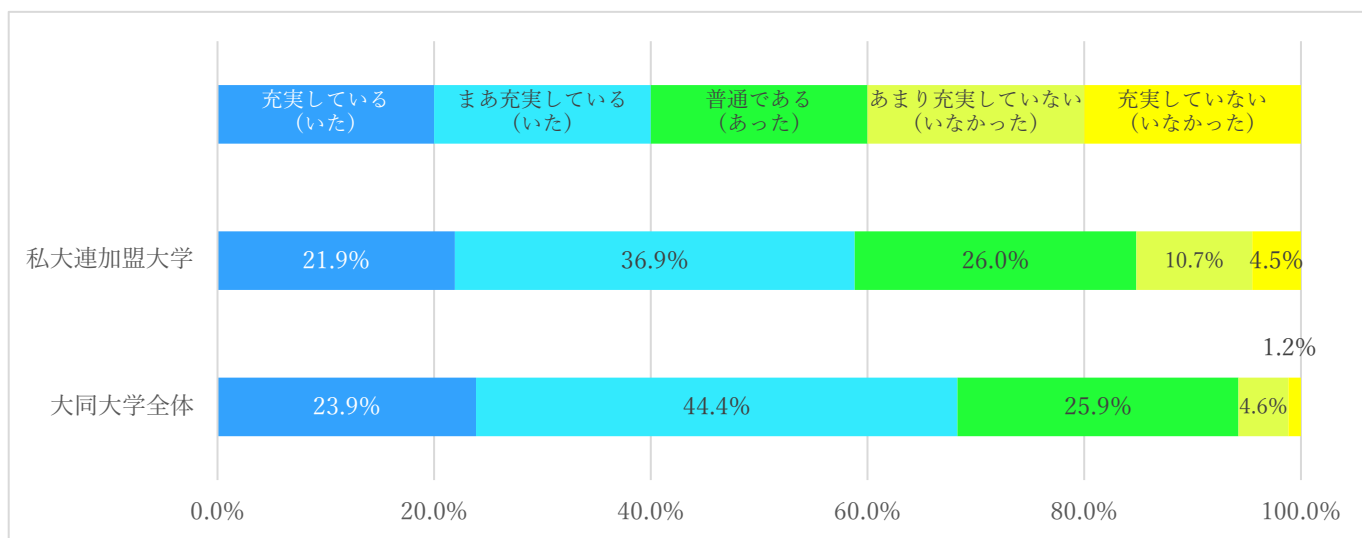


「学びたい学科」と「通学が可能」が高い

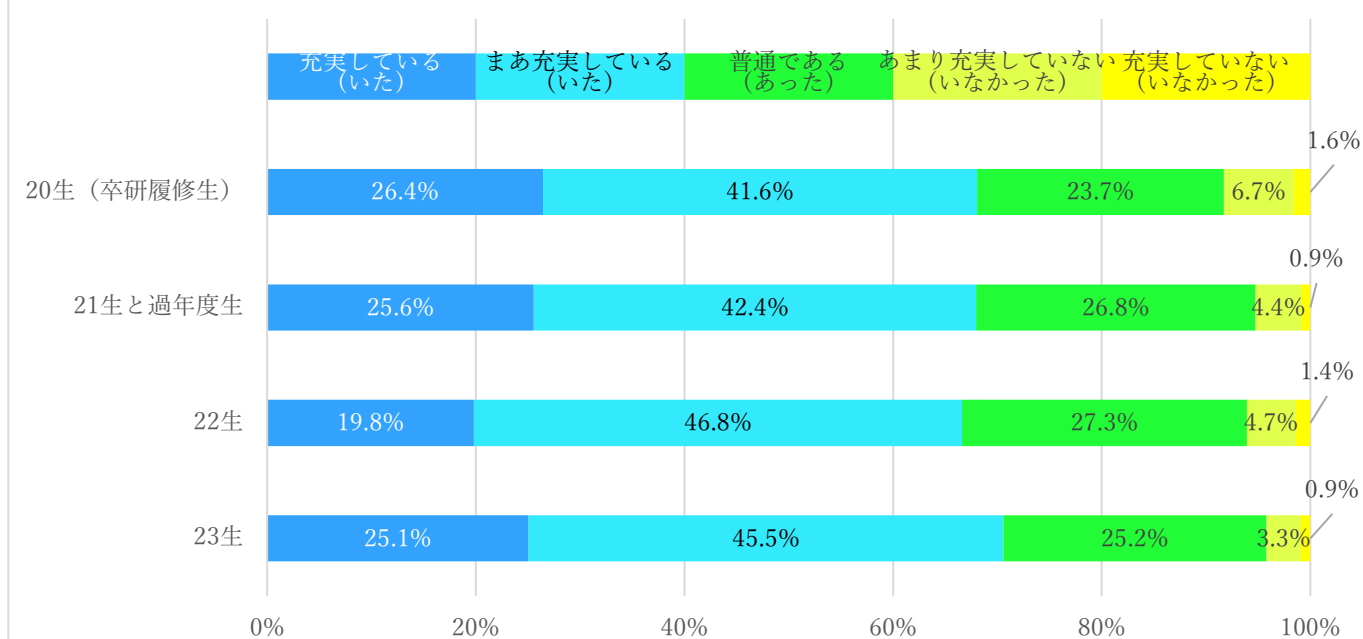
大同大学を選択した理由については、新入生全体では、「自分が学びたい学科があったから」が 65.8%で最も高く、次いで「自宅からの通学が可能だったから」が 38.5%、「自分の実力（偏差値）に合っていたから」が 23.1%であった。本学の学びとアクセスの良さに魅力を感じているようだ。



区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	あなたの学生生活は充実していましたか。
設問No.	5	6	—	



< 本学の各学年の平均 >

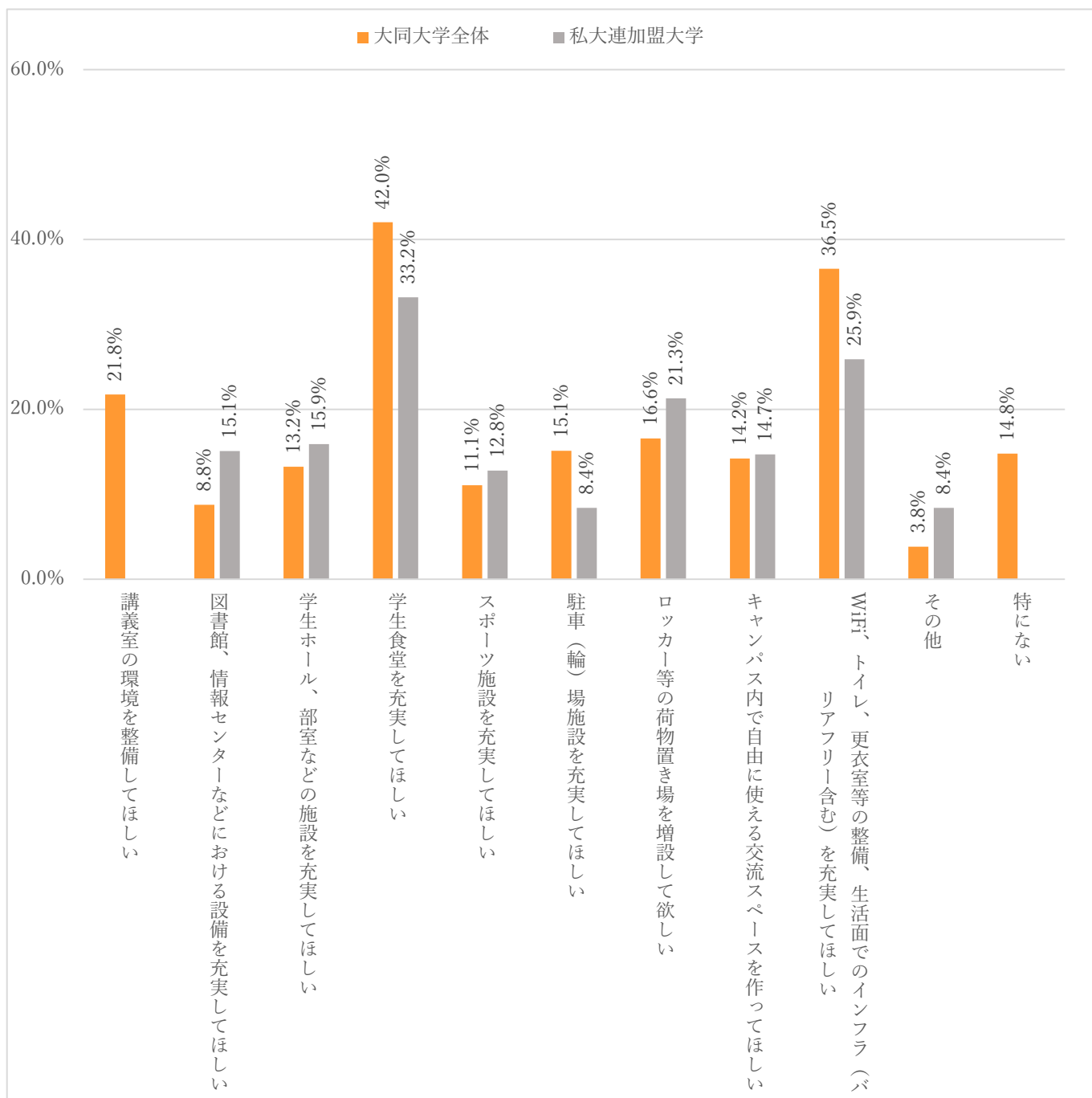


充実度は全国平均より高い

「充実している」「まあ充実している」を合計した「充実群」で見ると本学全体は、68.3%という結果となった。これは全国平均より9.5ポイント高い結果となっている。

なお、学科・専攻別で見ると、建築専攻・インテリアデザイン専攻が最も高く、77.5%である。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	大学の施設に対する要望にはどのようなものがありますか。
設問No.	6	7	ー	

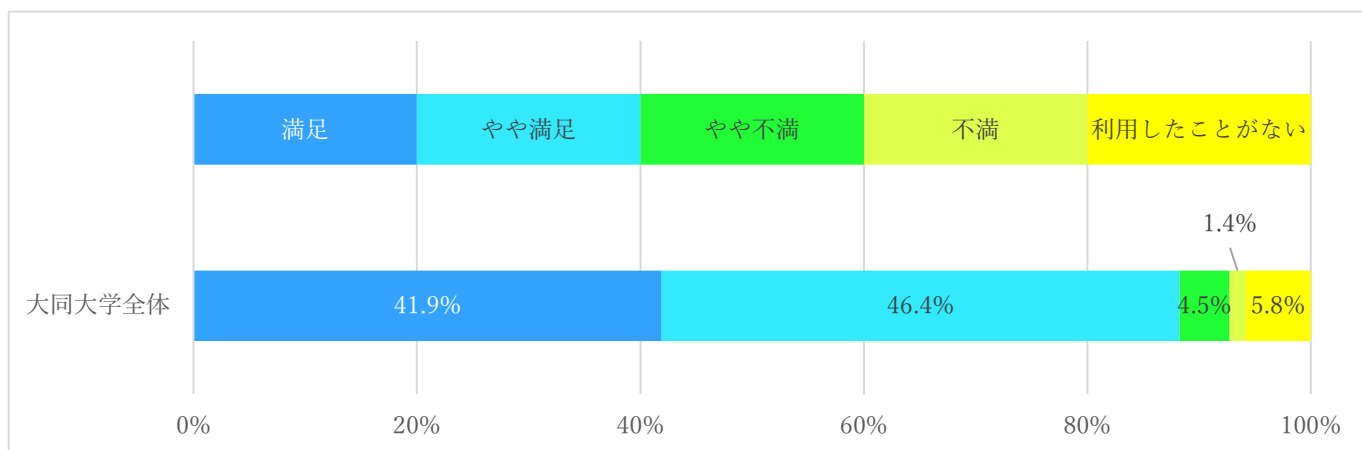


「学生食堂を充実してほしい」、「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」への要望が高い

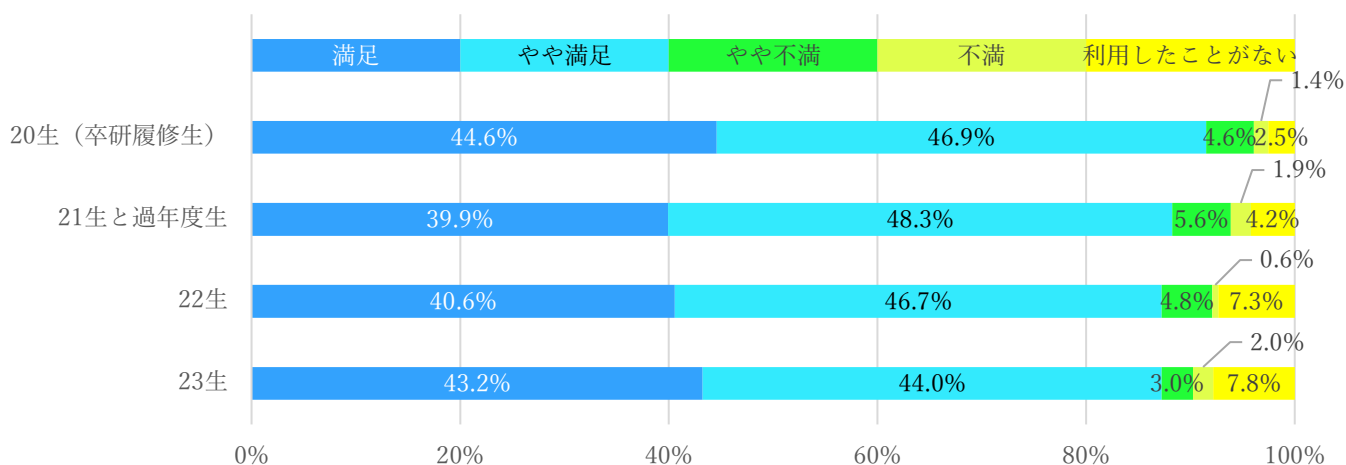
大学の施設に対する要望は「学生食堂を充実してほしい」、「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」が上位2項目となっている。

なお、全国の結果を見ても、同様の要望が上位となっている。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	職員の窓口対応(学生室・教務室・キャリア支援室など)について満足していますか。
設問No.	7	8	—	



＜本学の各学年の平均＞



満足度が 88.3%と高い

職員の窓口対応の満足度について、「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると、20 生以上(卒業時)が 91.5%、21 生及び過年度生(3 年時末)が 88.2%、22 生(2 年次末)が 87.3%、23 生(1 年次末)が 87.2%、本学全体で 88.3%と高い結果となった。

なお、昨年度の調査結果と比べると 4.2 ポイント高い結果となった。【学生室】

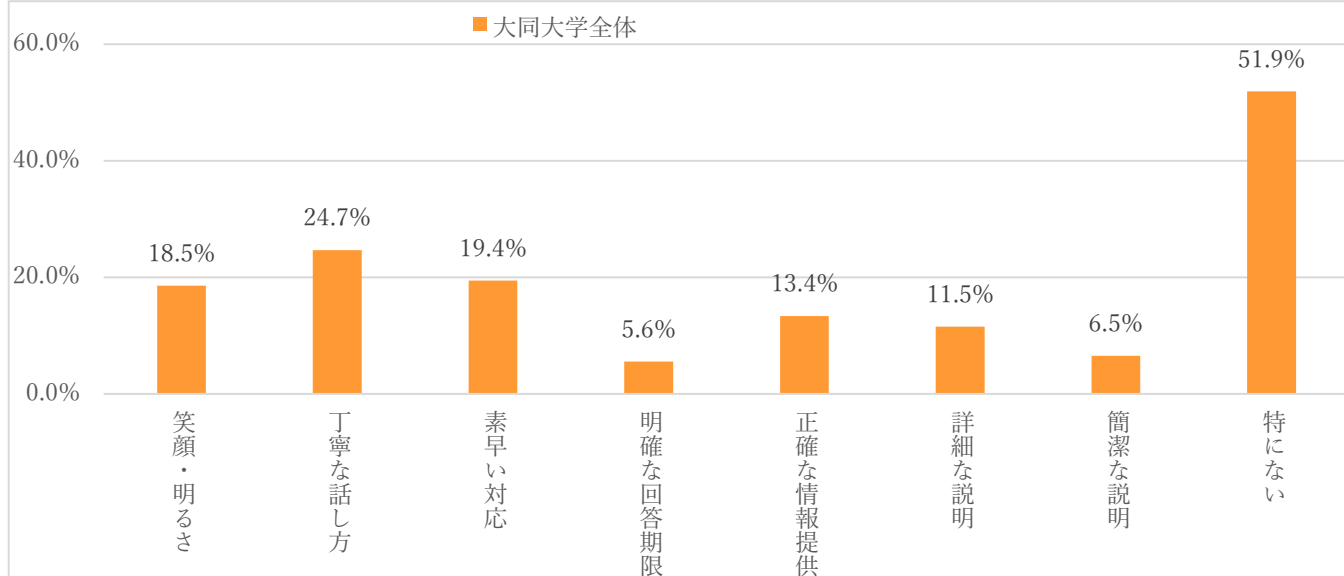
学生からの満足は得られている

大学全体で 88%の学生が満足回答をしている。本学の窓口対応として十分機能しているのではないかとと思われる。今後も引き続き次の設問「窓口対応の課題」を踏まえ、100%満足を目指し学生対応を継続していく。【教務室】

満足度を維持できる仕組み作りを

満足、やや満足の合計が約9割を超えており、大きな問題はないと思われる。新入生になるほど、利用をしていない学生がいるが、手続き等のオンライン化が影響していると思われるので、大きな心配をする必要はないと思われる。【キャリア支援室】

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	職員の窓口対応(学生室・教務室・キャリア支援室など)について、改善してほしい点を選択してください。
設問No.	8	9	—	



「特にない」が最も高い

職員の窓口対応についての改善要望は「特にない」の次に「丁寧な話し方」が上位となった。【学生室】

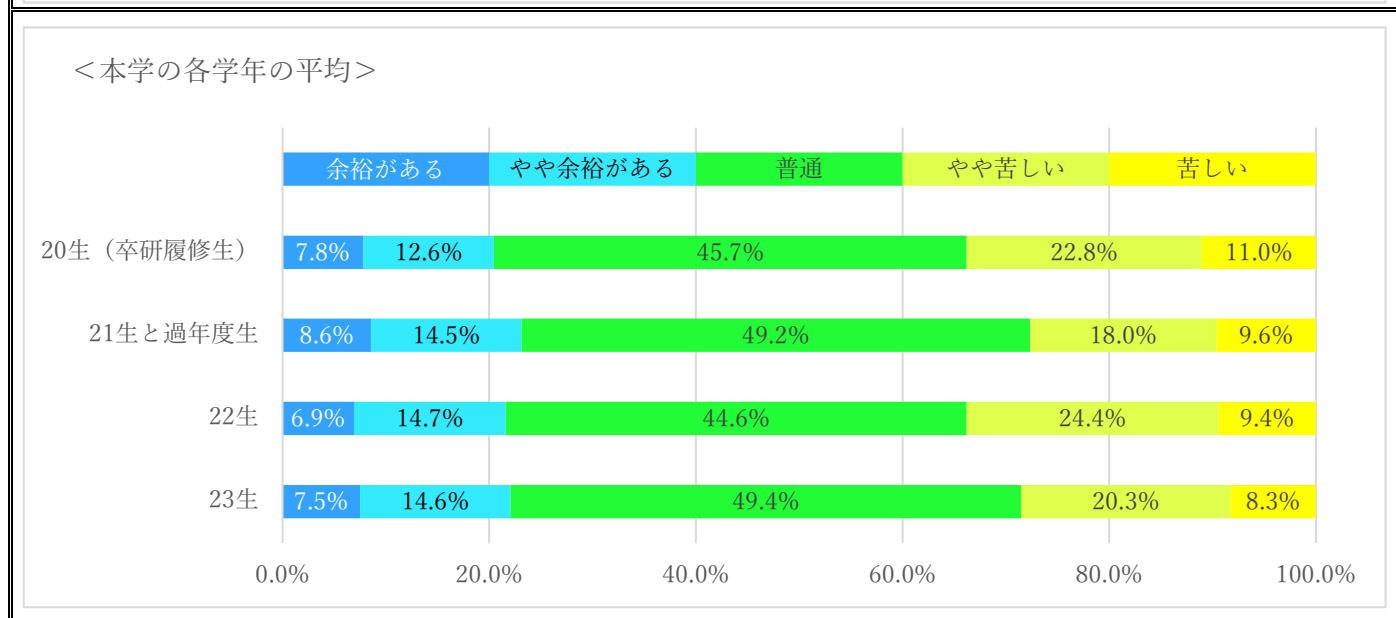
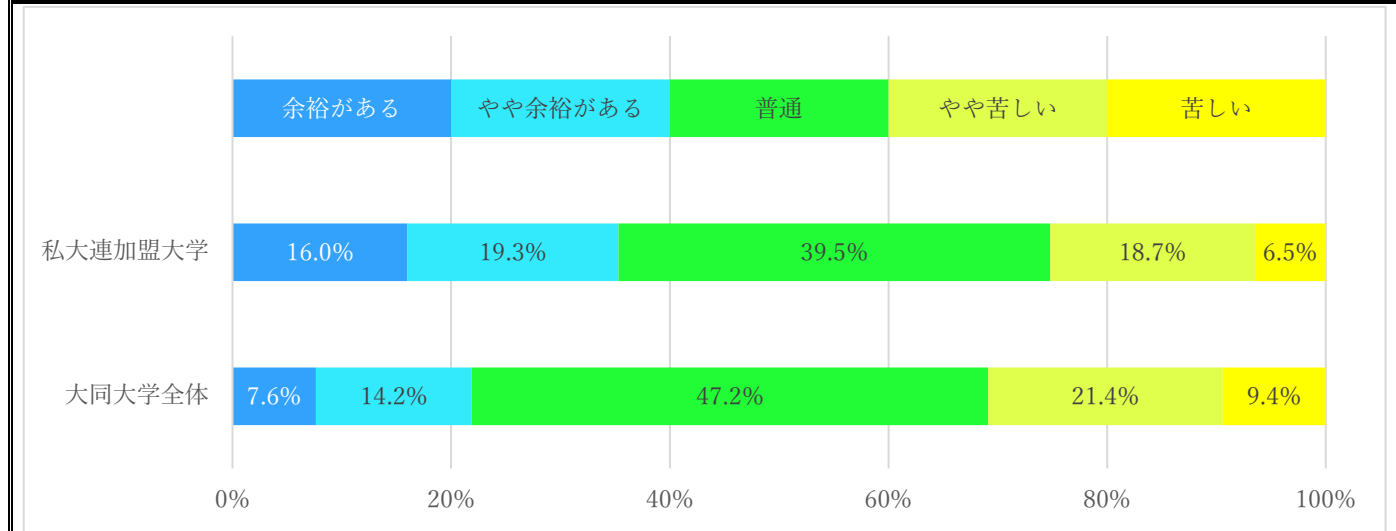
学生が利用しやすい環境を

「笑顔・明るさ」「丁寧な話し方」「素早い対応」の3点が求められている。どの内容も窓口業務に 必須事項のため、教務室として再度、心がける予定である。学生が利用しやすい環境を常に意識していきたい。【教務室】

改善傾向にはあるが、引き続き学生への話し方には注意が必要

昨年度対比で、全体的には数ポイント改善している傾向が見られるので、改善傾向にあると思われる。その中でも昨年度と同様に、「丁寧な話し方」が一番のポイントとなっているので、改善していくポイントであると思われる。【キャリア支援室】

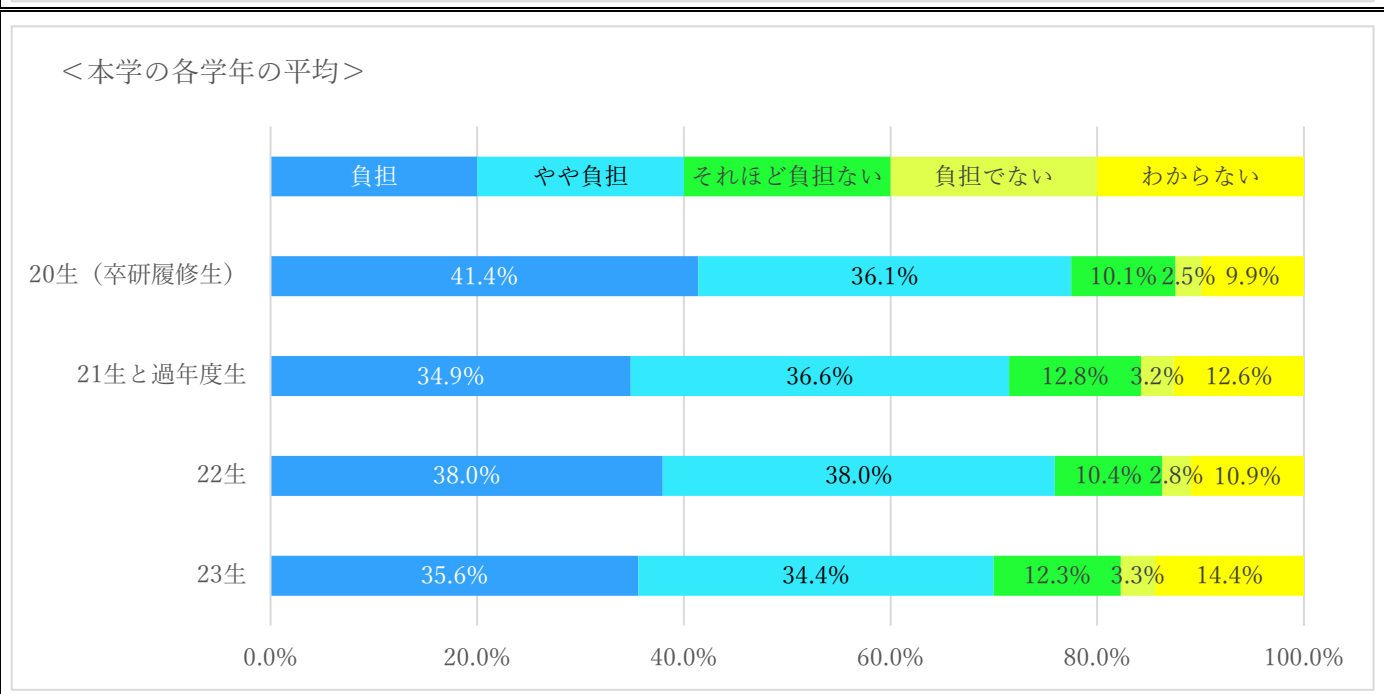
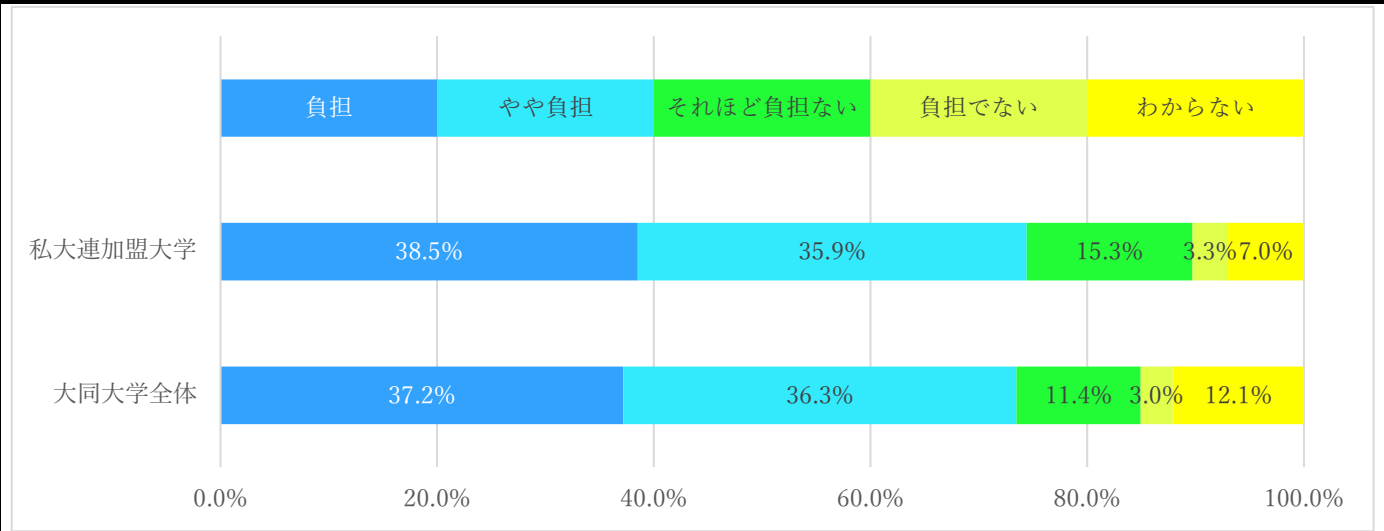
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。
設問No.	9	10	—	



経済状況が「やや苦しい」「苦しい」と回答した学生が全国平均より高い

本学全体では、「やや苦しい」「苦しい」と回答した合計で見ると30.8%で、全国平均の25.2%と比較すると高い結果となった。

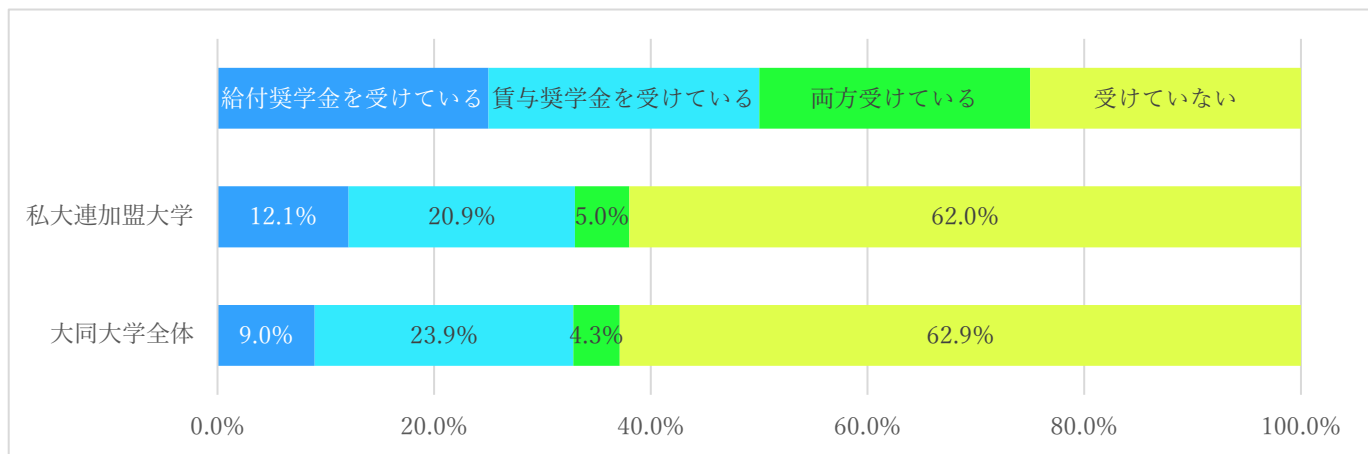
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	あなたの家の家計にとって、学費は負担になっている と思いますか。
設問No.	10	11	—	



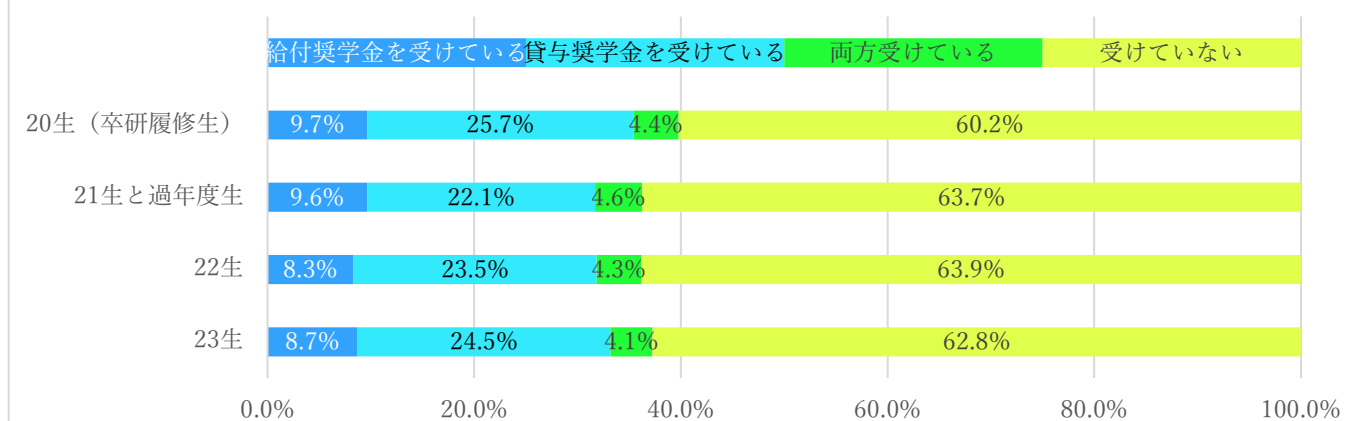
学費が家計の負担になっていると感じる学生が全国平均とほぼ同等

本学全体では、「負担になっている」「やや負担に」と回答した合計で見ると 73.5%で、全国平均の 74.4%とほぼ同等の結果となった。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	奨学金を受けていますか。
設問No.	11	12	—	

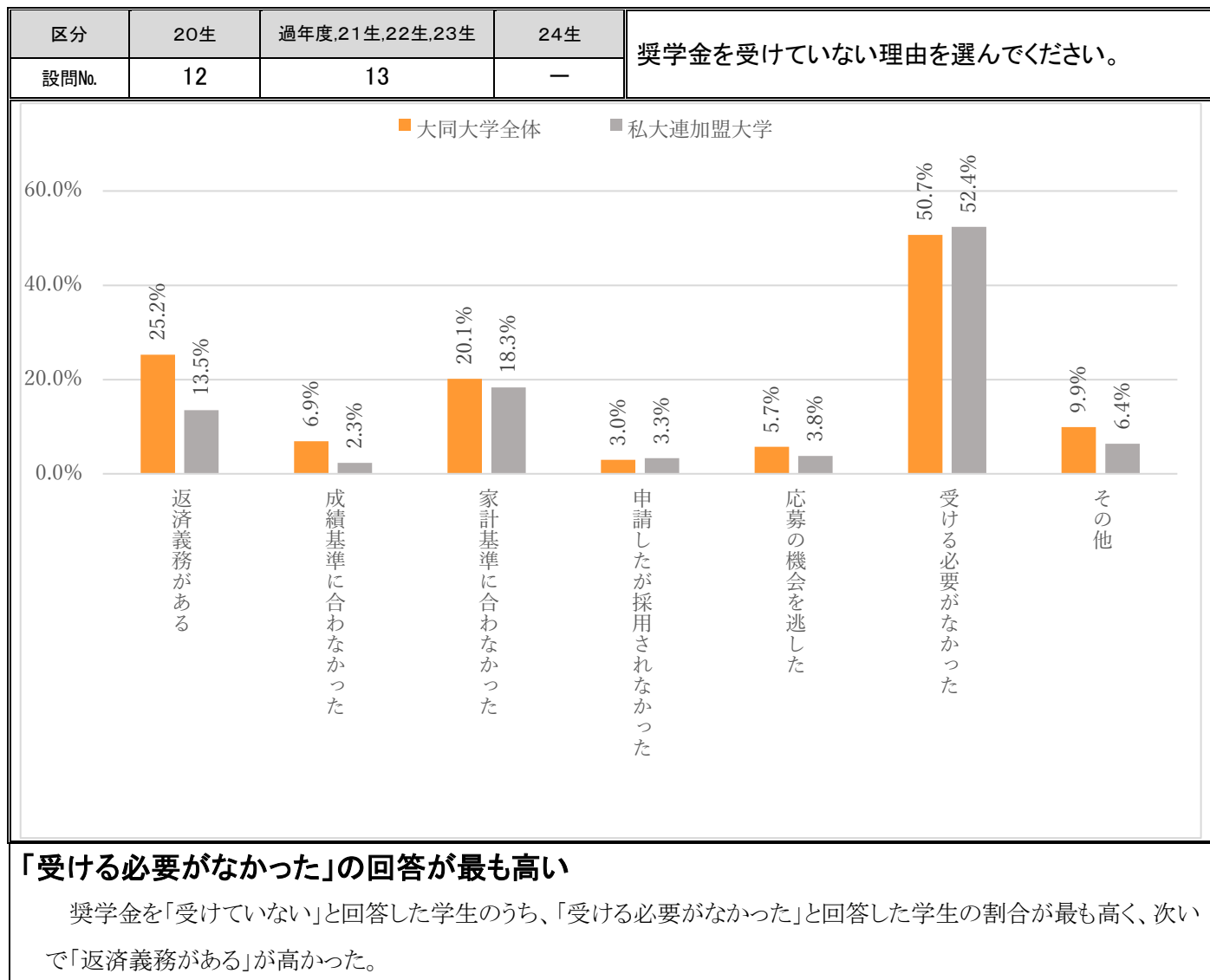


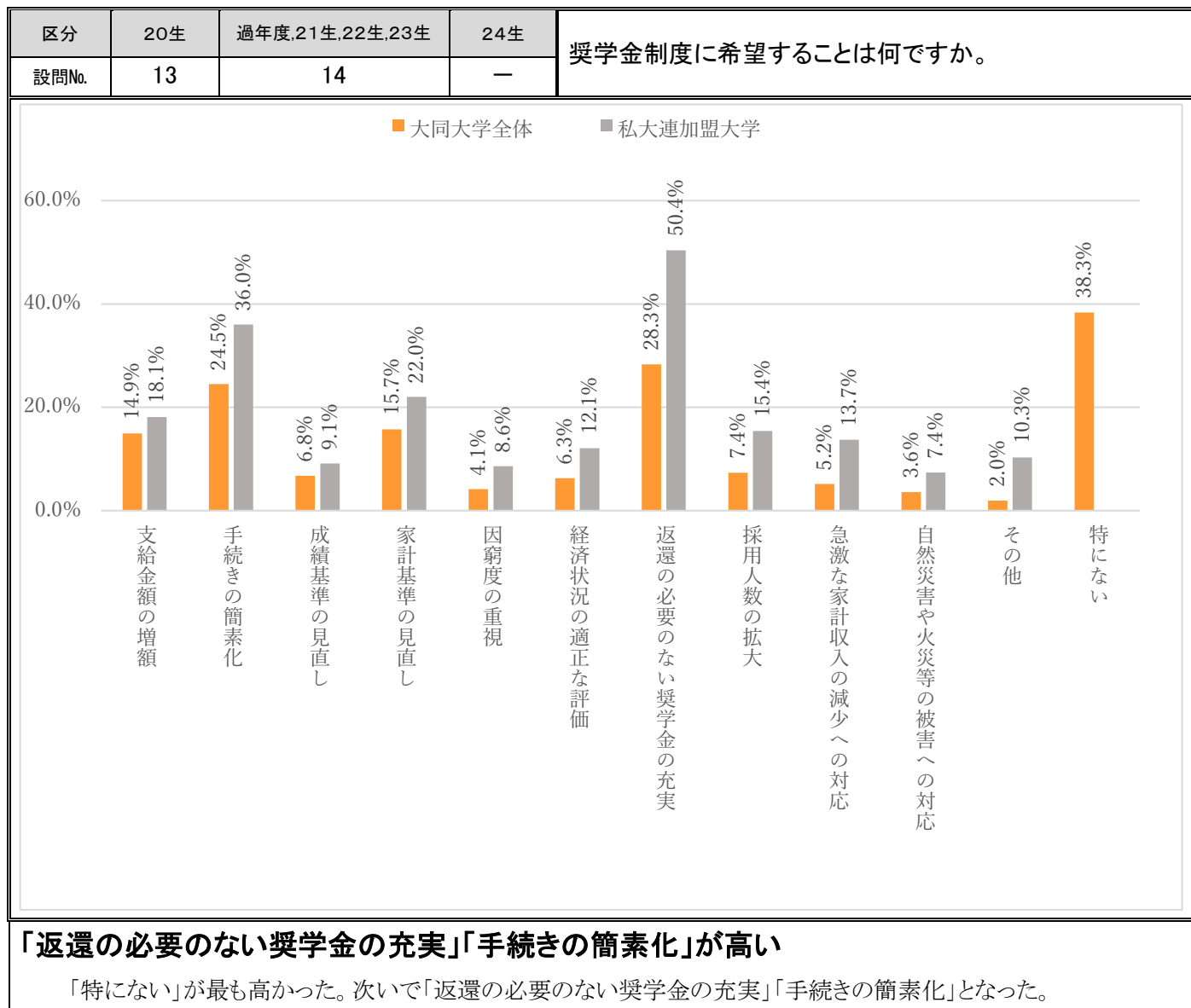
< 本学の各学年の平均 >



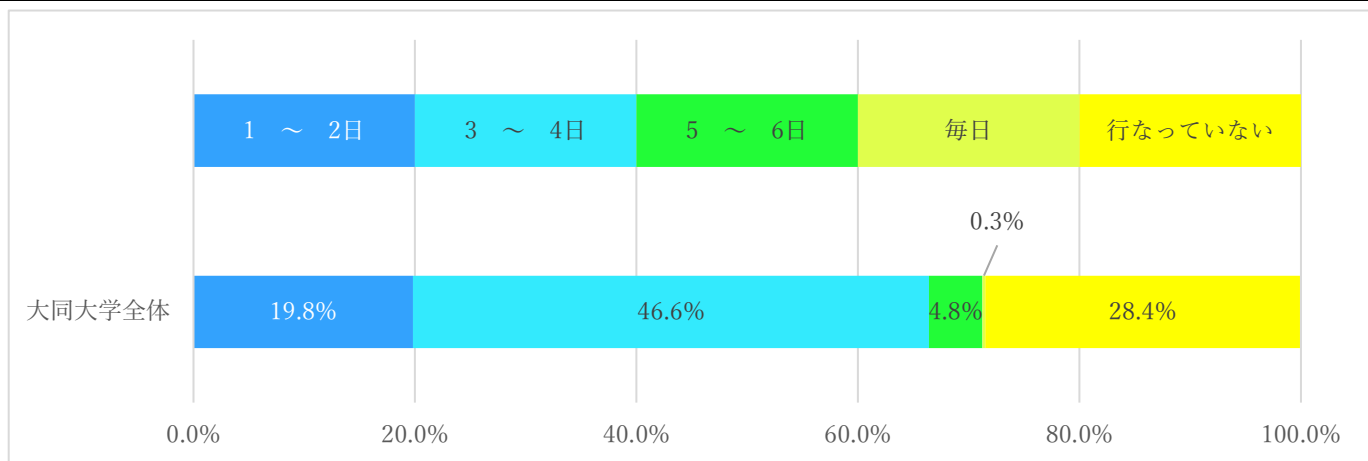
何らかの奨学金を受けている学生は全国平均とほぼ同等

何らかの奨学金を「受けている」と回答した学生の割合は37.2%で、全国平均の38.0%とほぼ同等の結果となっている。

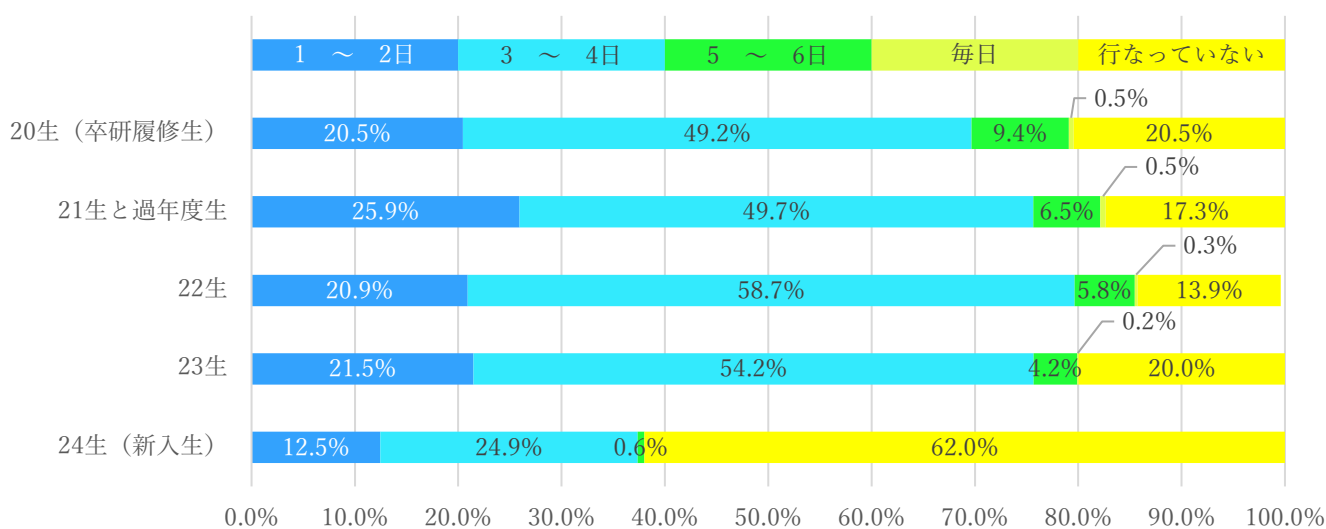




区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	アルバイトを週にどのくらい行なっていますか。
設問No.	14	15	5	



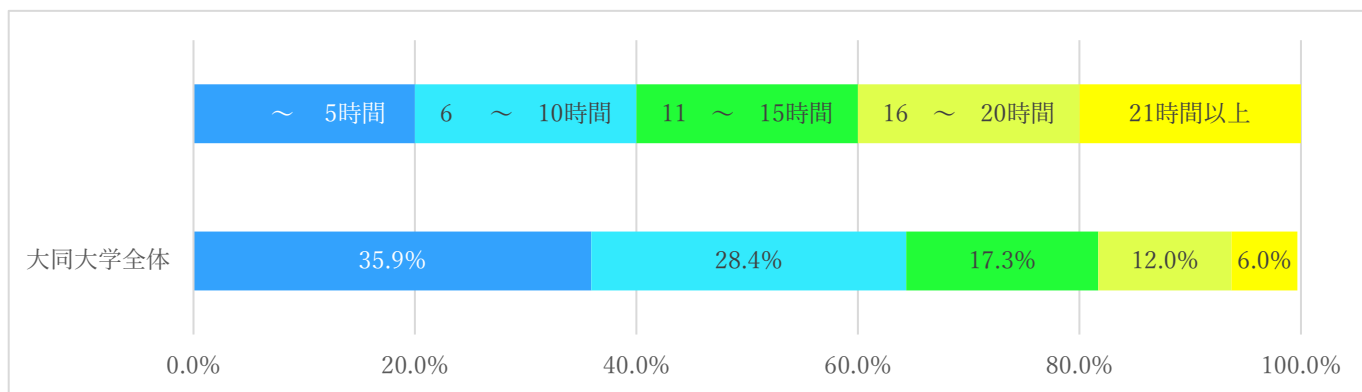
< 本学の各学年の平均 >



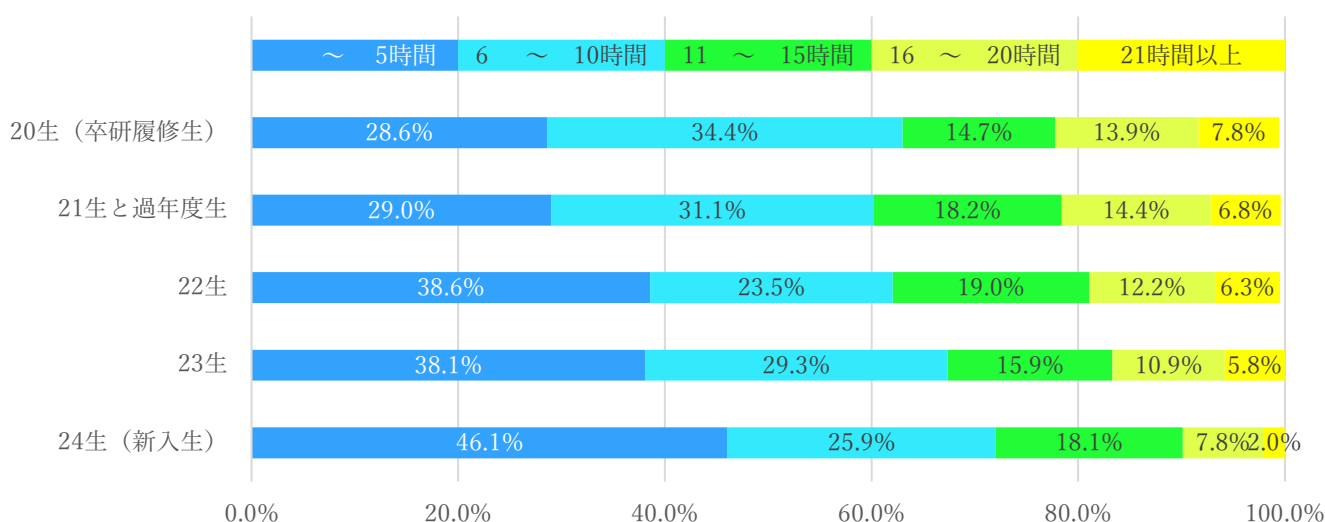
「3～4日」と回答した学生が最も多い

本学全体では、「3～4日」と回答した学生の割合が最も高く46.6%、次いで「行っていない」が高く28.4%であった。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	1週間のアルバイト時間を選択してください。
設問No.	15	16	6	

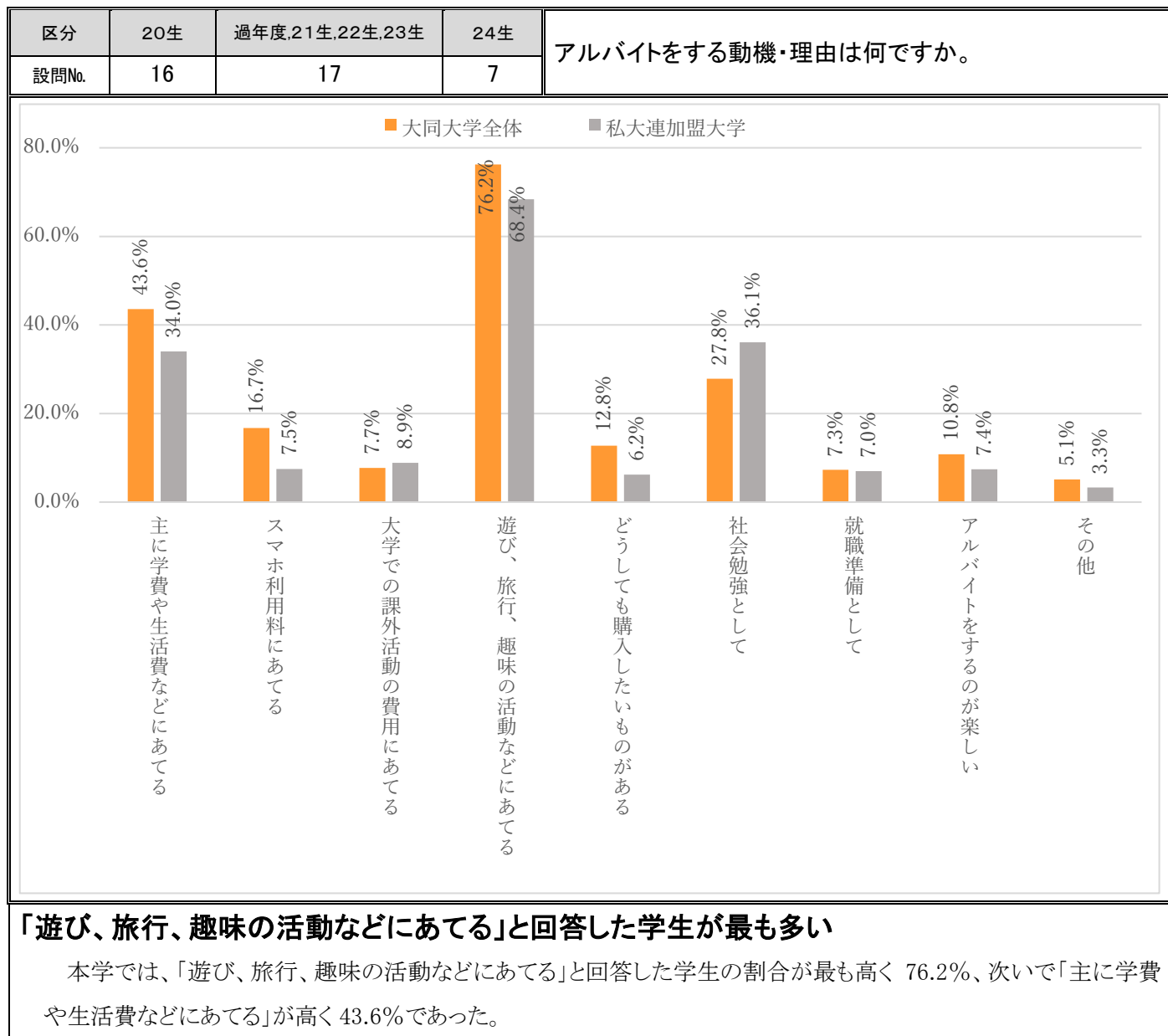


< 本学の各学年の平均 >

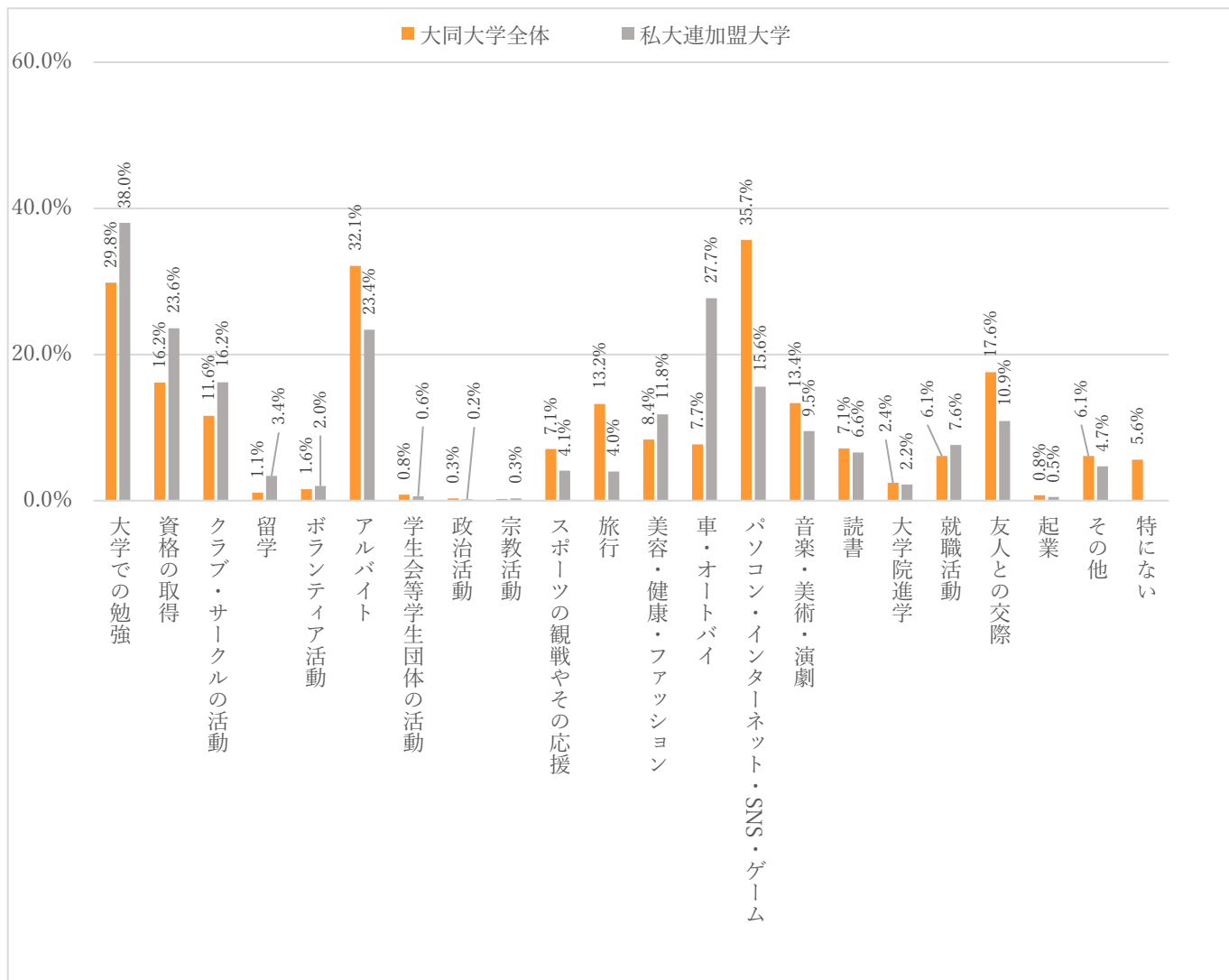


「～5 時間」と回答した学生が最も多い

本学全体では、「～5 時間」と回答した学生の割合が最も高く 35.9%、次いで「6～10 時間」が高く 28.4%であった。

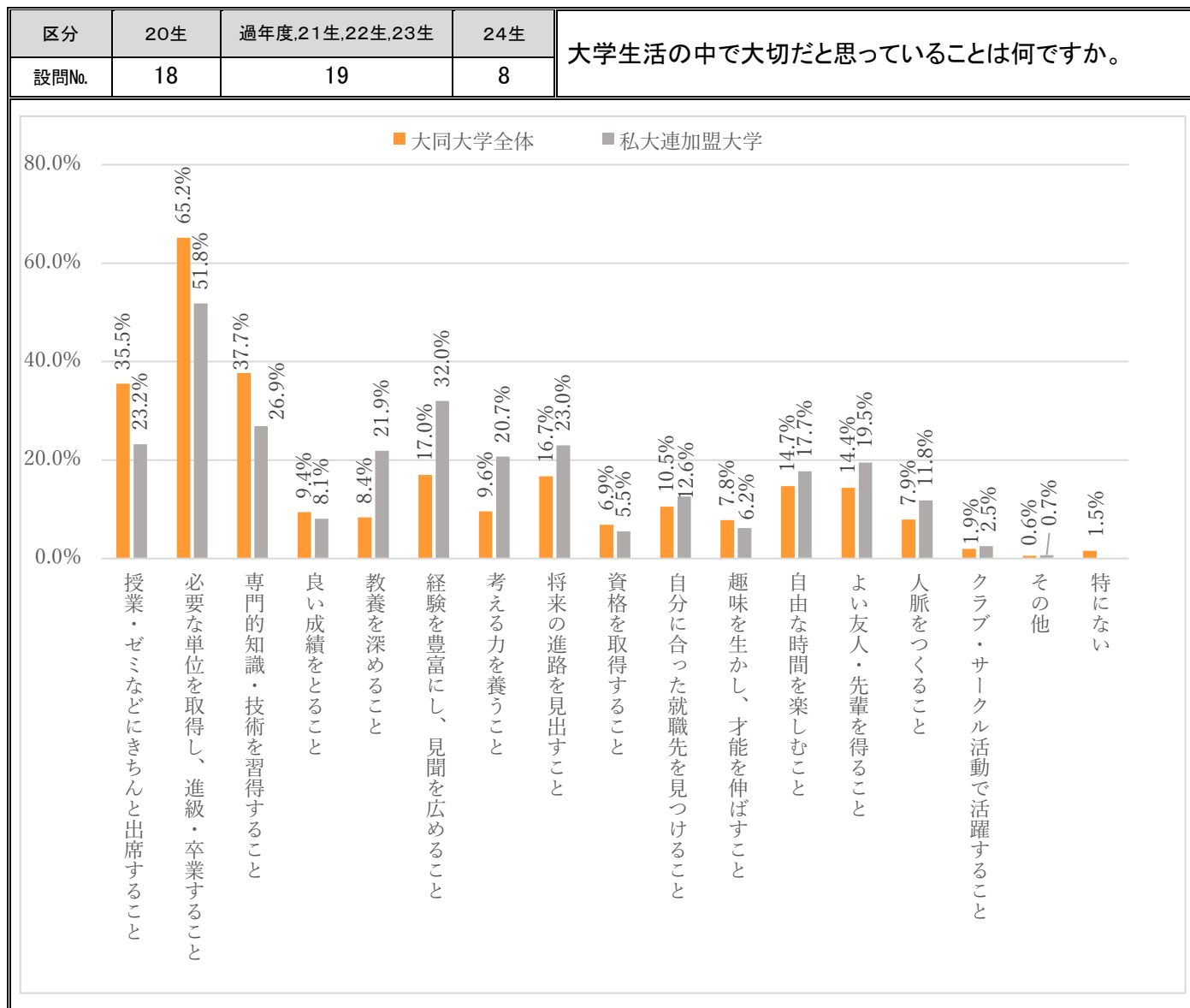


区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。
設問No.	17	18	—	



「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」と回答した学生が最も多い

「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」と回答した学生の割合が最も高く 35.7%となった。全国平均の 15.6%と比較すると、本学学生の「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」への興味・関心の高さがうかがえる結果となった。



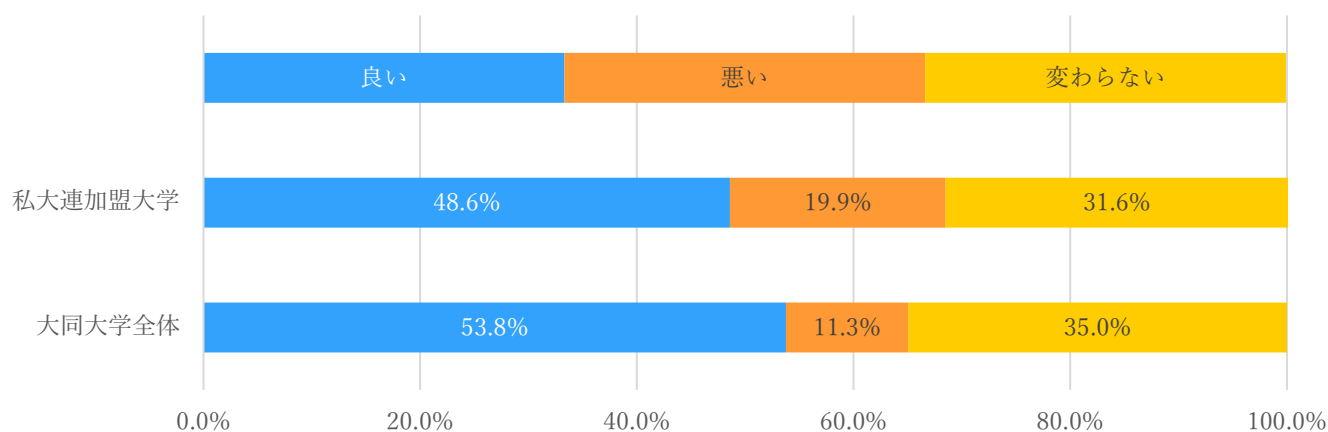
「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」と回答した学生が最も多い

「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」と回答した学生の割合が最も高く 65.2%で、全国平均を 13.4 ポイント上回った。

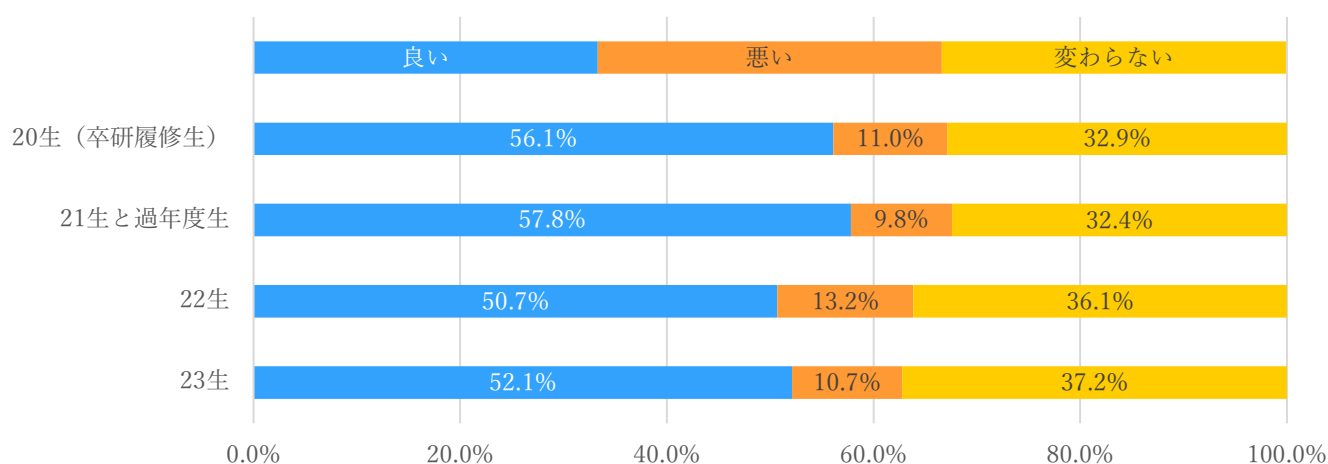
次いで「専門的知識・技術を習得すること」と回答した学生の割合が高く 37.7%で、全国平均を 10.8 ポイント上回った。

次いで「授業・ゼミなどにきちんと出席すること」と回答した学生の割合が高く 35.5%で、全国平均を 12.3 ポイント上回った。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	あなたは、大学生になってからの自分の心身の状態をどう感じていますか。
設問No.	19	20	—	



<本学の各学年の平均>

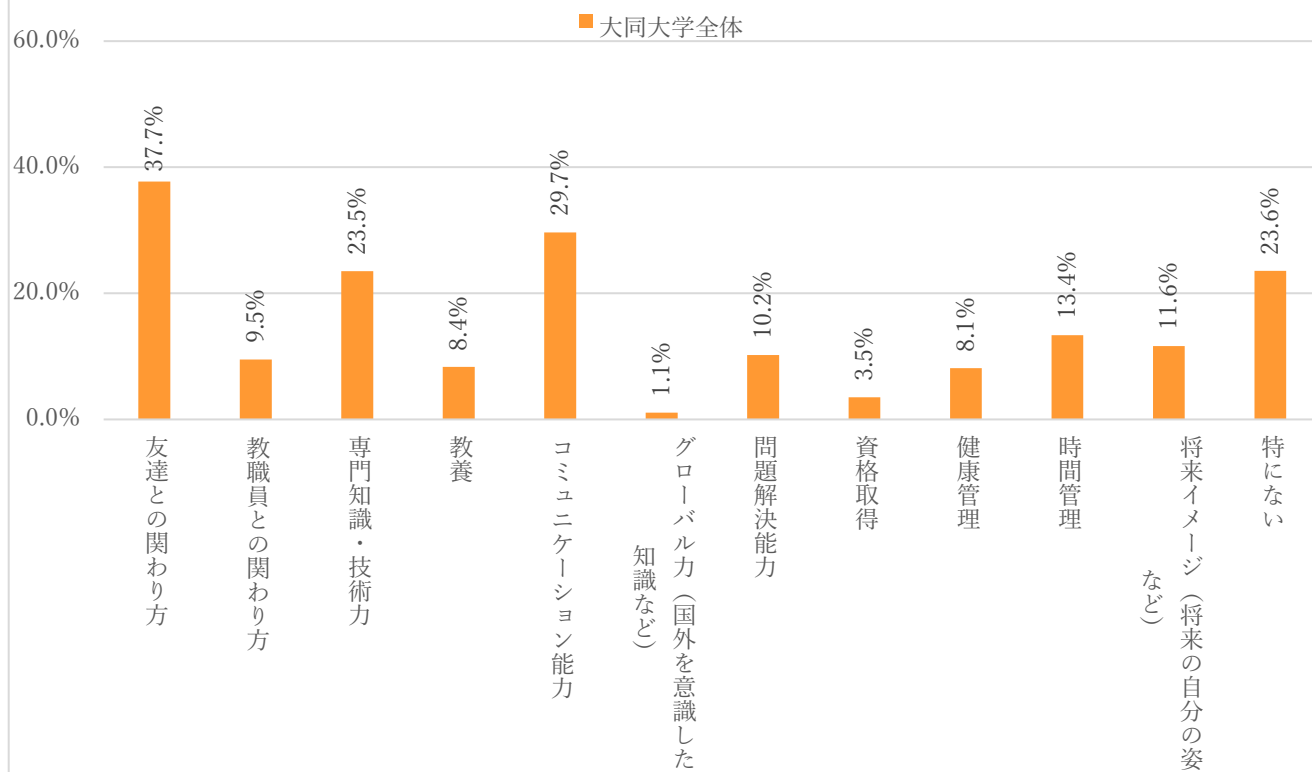


「良い」が全国平均を上回る

自身の心身の状態について「良い」と回答した学生の割合は53,8%で、全国平均を5.2ポイント上回った。

「悪い」と回答した割合は11.3%で、全国平均より8.6ポイント低い。

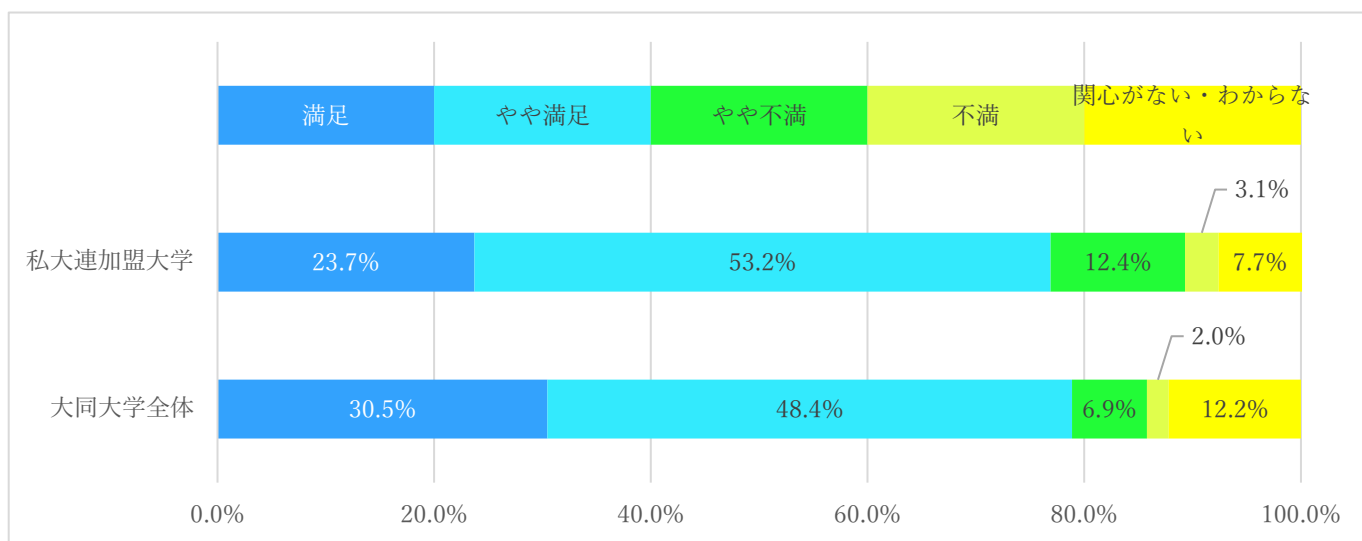
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	昨年と比べて自信が持てるようになったのは何ですか。
設問No.	20	21	—	



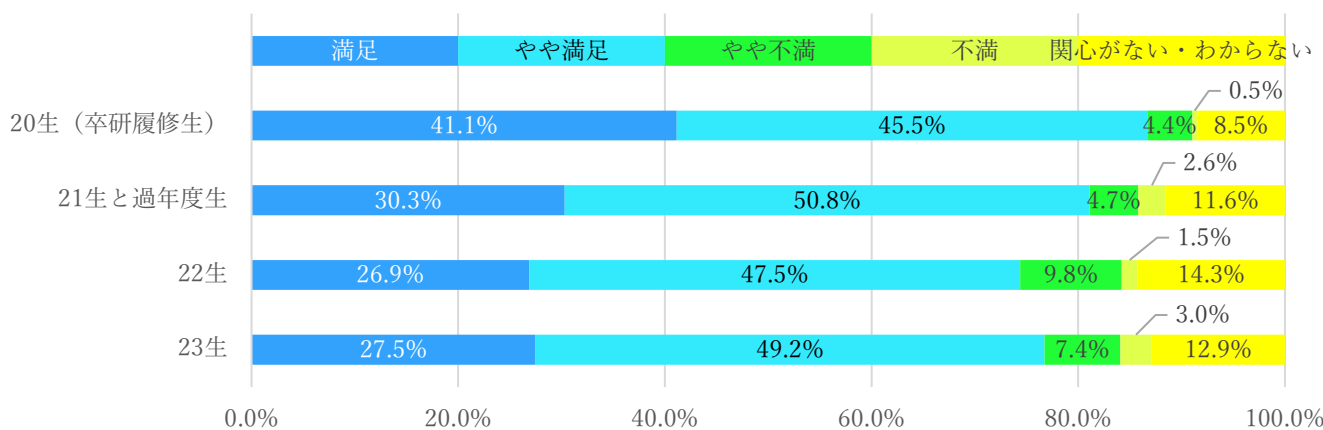
大学全体で 20%以上超えているものは「友達との関わり方」「専門知識・技術力」「コミュニケーション能力」

大学全体で「友達との関わり方」「専門知識・技術力」「コミュニケーション能力」に昨年と比べて自信をもてるようになった学生が多い。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【学科・専攻の教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	21	22	—	



<本学の各学年の平均>

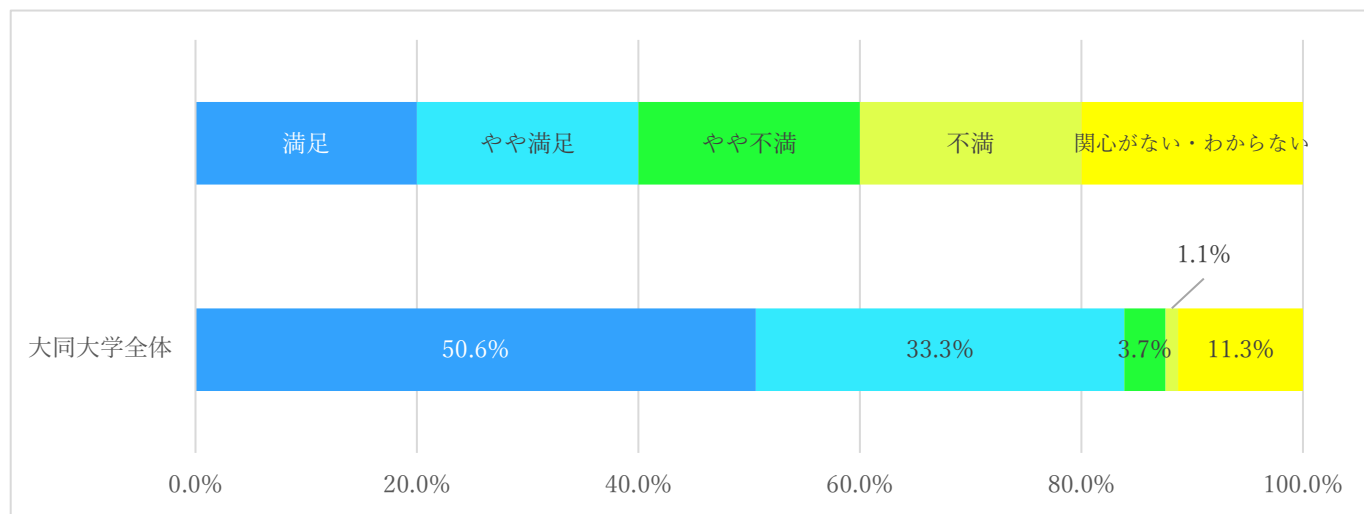


満足度は全国平均より高い

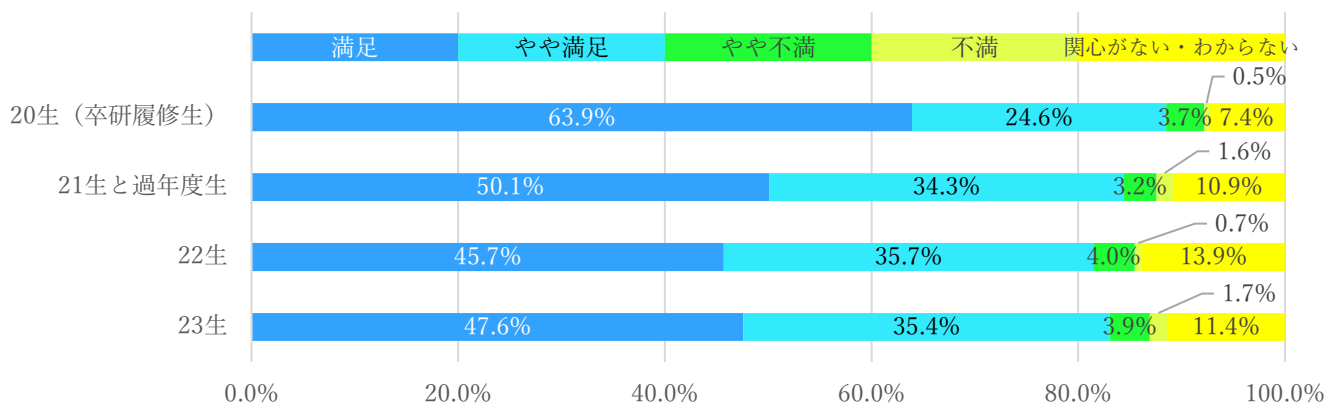
「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると本学全体は78.9%で、全国平均を2.0ポイント上回った。なお、学年別で見ると、20生 (卒研履修生) が最も高く、86.6%である。

また、学科・専攻別で見ると、建築専攻・インテリアデザイン専攻が最も高く、87.6%である。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【主指導教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	22	23	—	



< 本学の各学年の平均 >



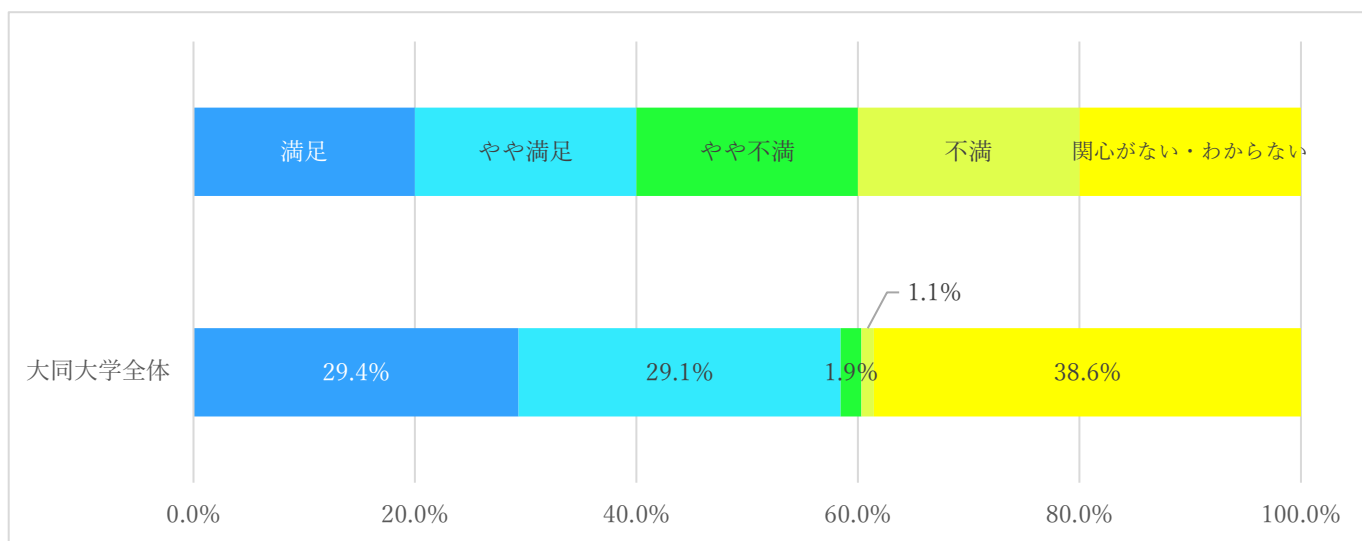
満足度が高い

「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると本学全体は 83.9%と高い。

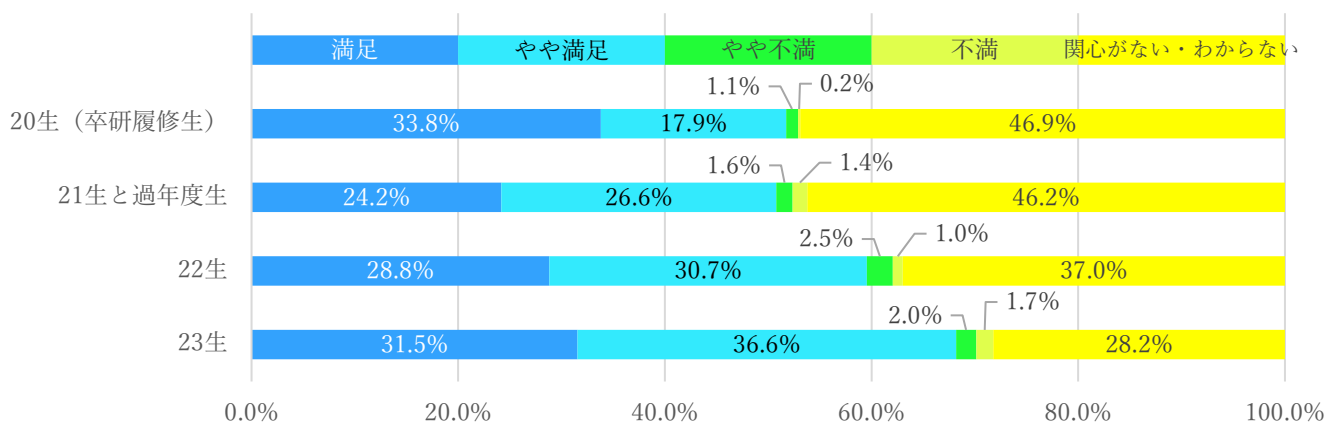
なお、学年別で見ると、20 生 (卒研履修生) が最も高く、88.5%である。

また、学科・専攻別で見ると、情報デザイン学科が最も高く、89.4%で、次いで建築専攻・インテリアデザイン専攻が、87.3%である。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【副指導教員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	23	24	—	



< 本学の各学年の平均 >

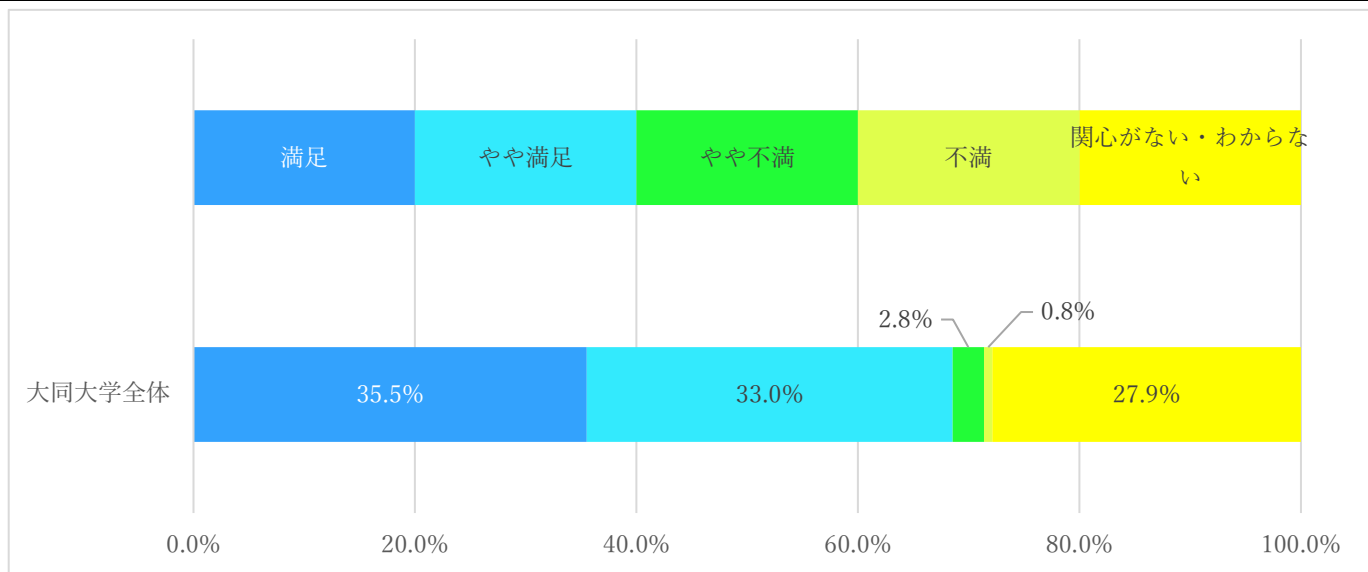


「関心がない・わからない」が最も高い

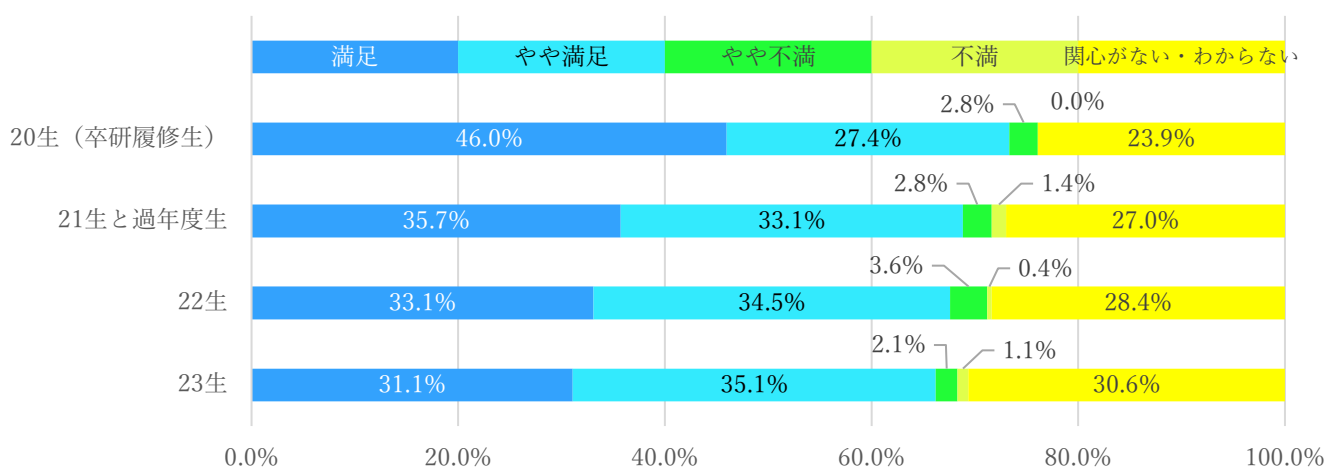
「満足」「やや満足」を合計した「満足群」で見ると本学全体は 58.5%で、「関心がない・わからない」と回答した割合が 38.6%となった。

なお、学年別で「満足度」を見ると、23 生が最も高く、68.1%である。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【技術補助員】に対する満足度を教えてください。
設問No.	24	25	—	



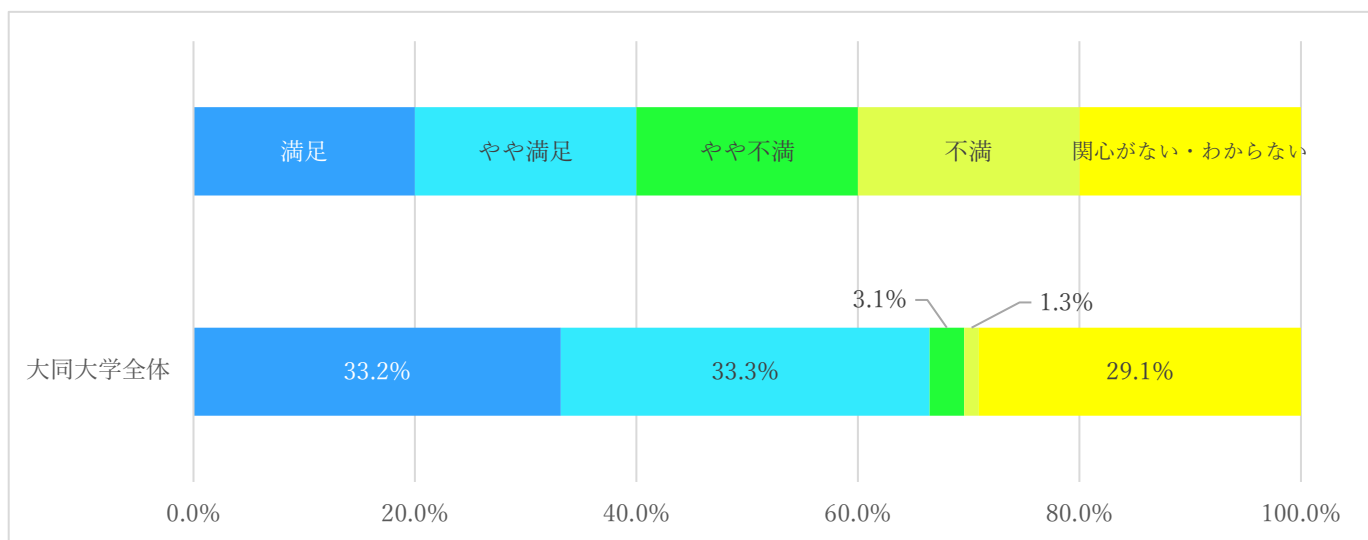
<本学の各学年の平均>



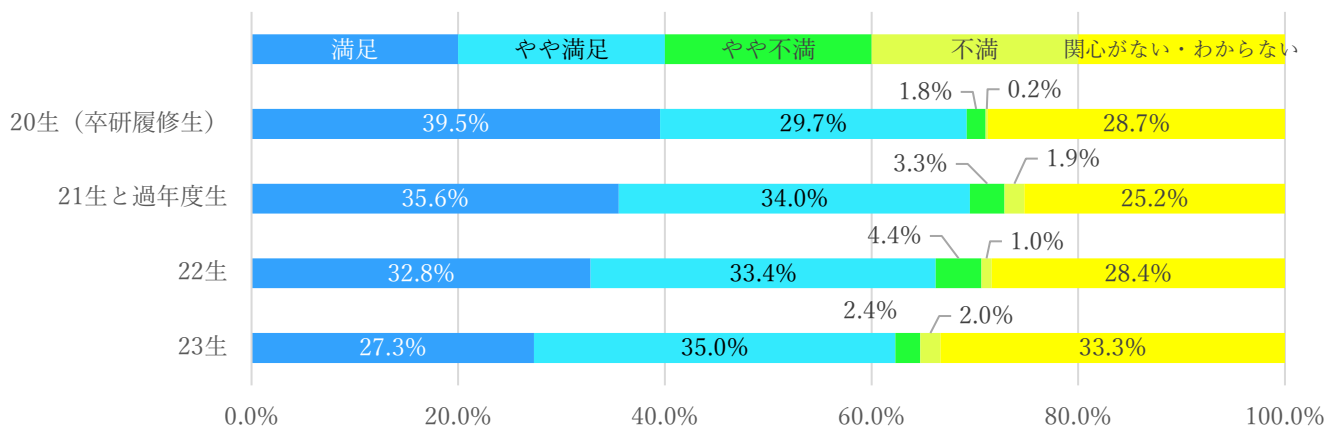
卒業時の満足度が最も高い

技術補助員に対する満足度について、「満足」との回答は 20 生 (卒件履修生) が 46.0%、21 生及び過年度生 (3 年次末) が 35.7%、22 生 (2 年次末) が 33.1%、23 生 (1 年次末) が 31.1% であり、卒業時の満足度が高い結果となった。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【TA・SA】に対する満足度を教えてください。
設問No.	25	26	—	



< 本学の各学年の平均 >



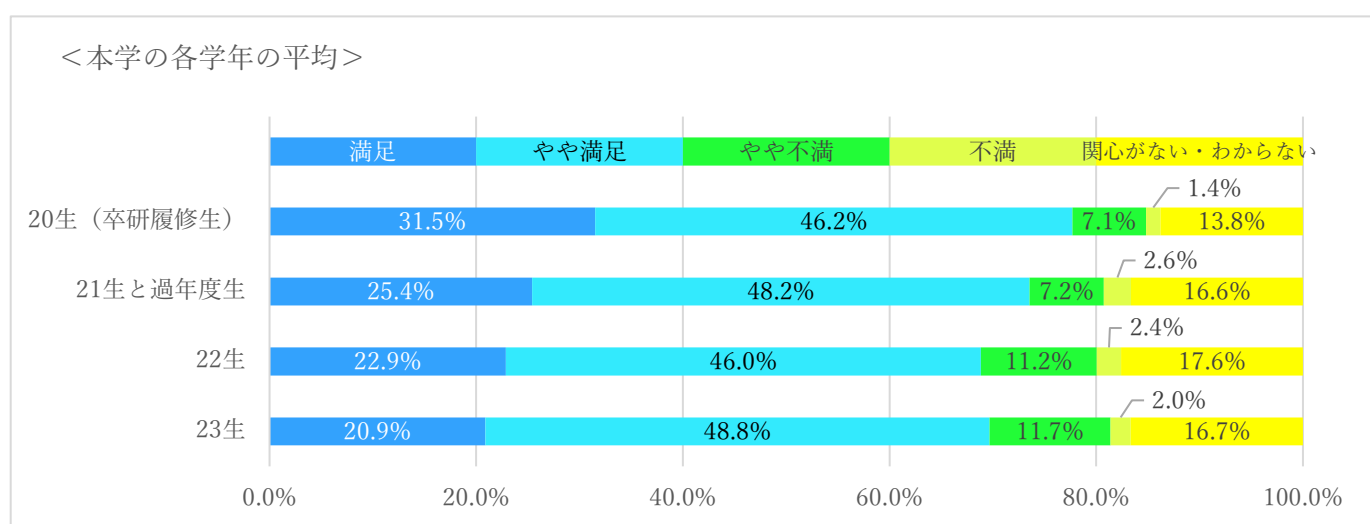
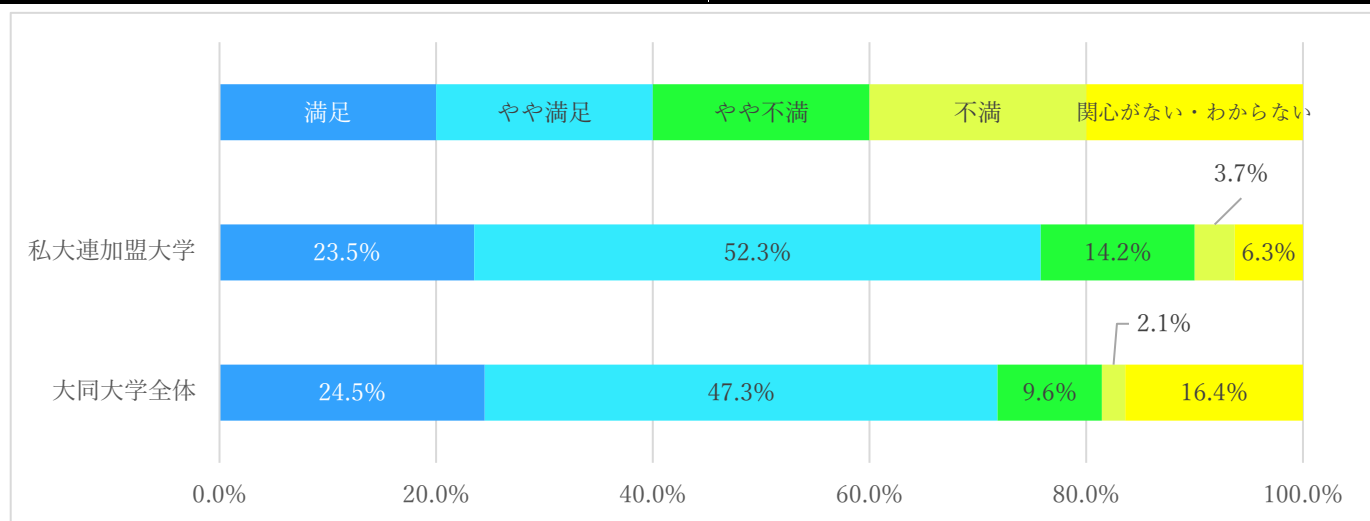
満足している

大学全体で 66% が TA・SA に「満足している」。

「関心がない」などが学科によって、20%～50%と幅広く分かれている。これは、大学院生 (TA) が多くいる学科とそうでない学科の結果と思われる。

「不満」と回答は数%であり、本学の TA・SA は十分に機能していると思われる。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【カリキュラムの構成】に対する満足度を教えてください。
設問No.	26	27	—	

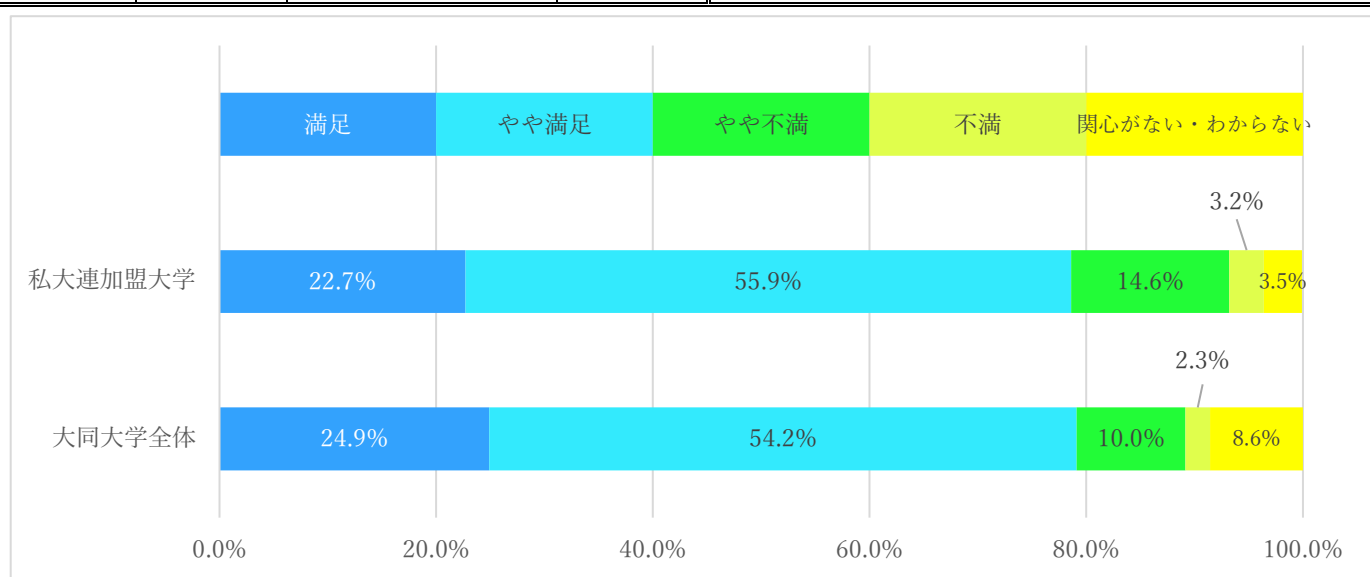


カリキュラムには満足している

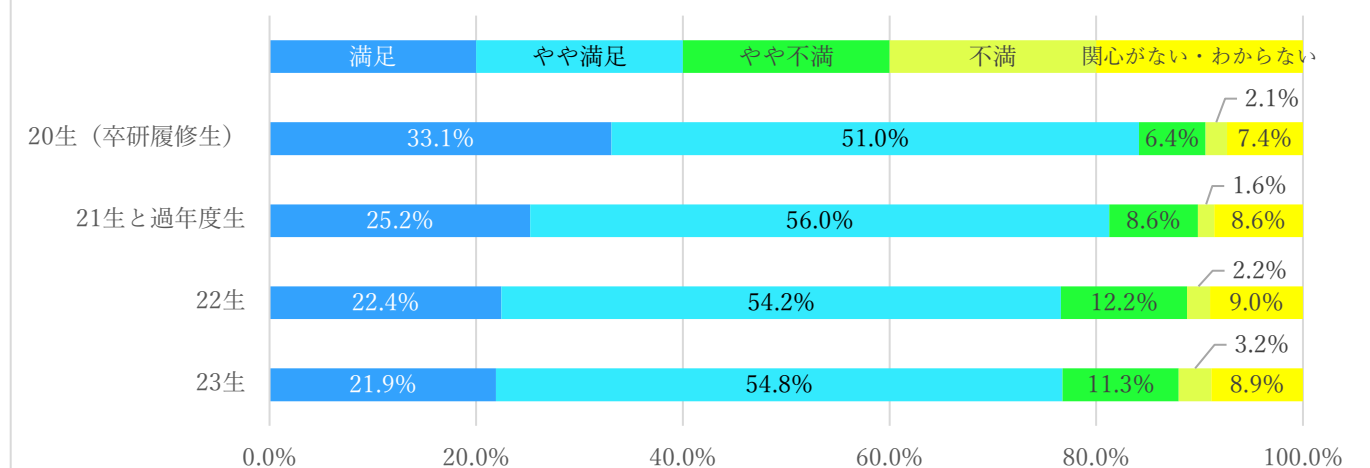
全体で満足と回答した学生は 70%程度である。「関心がない」学生が 15%程度占めることから、多くの学生はカリキュラムに満足していると思われる。

本学のカリキュラムの組み立て方として、1 年次は入門基礎・教養科目が多く設定され、学年が上がっていくごとに、基礎・教養科目が減少し、専門科目の比重が多くなる。学生の満足度が、高学年で上昇するのは、専門系科目が充実し、学科・専攻の独自性が明確になってきたことが影響しているのではないと思われる。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【授業】に対する満足度を教えてください。
設問No.	27	28	—	

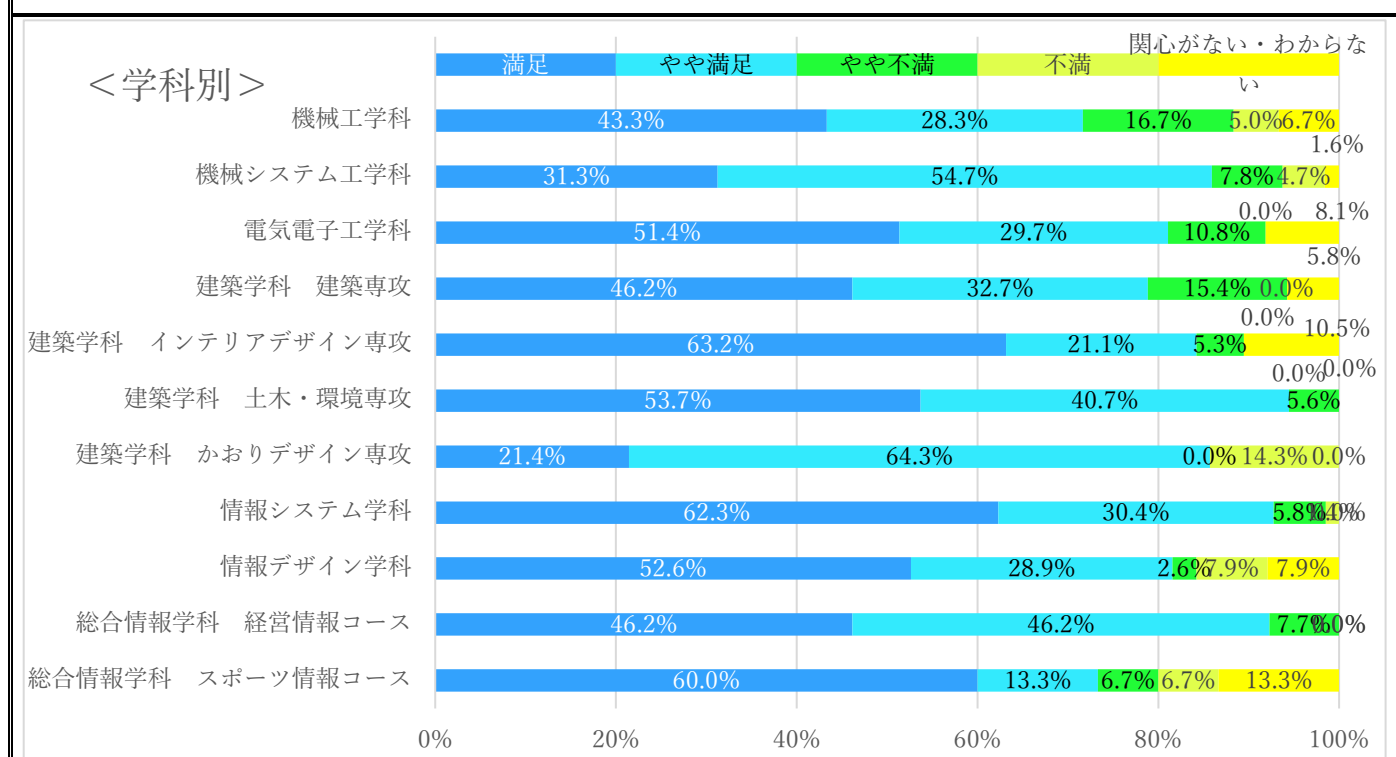
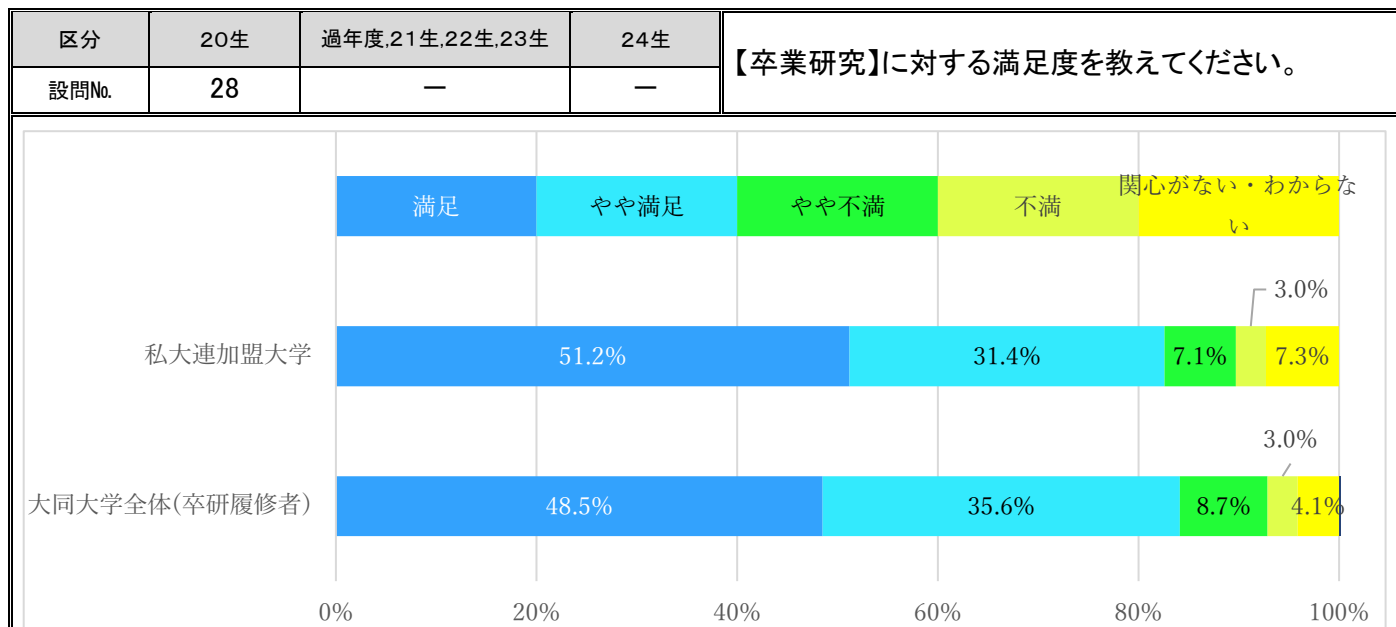


< 本学の各学年の平均 >



学生からの満足は得られている

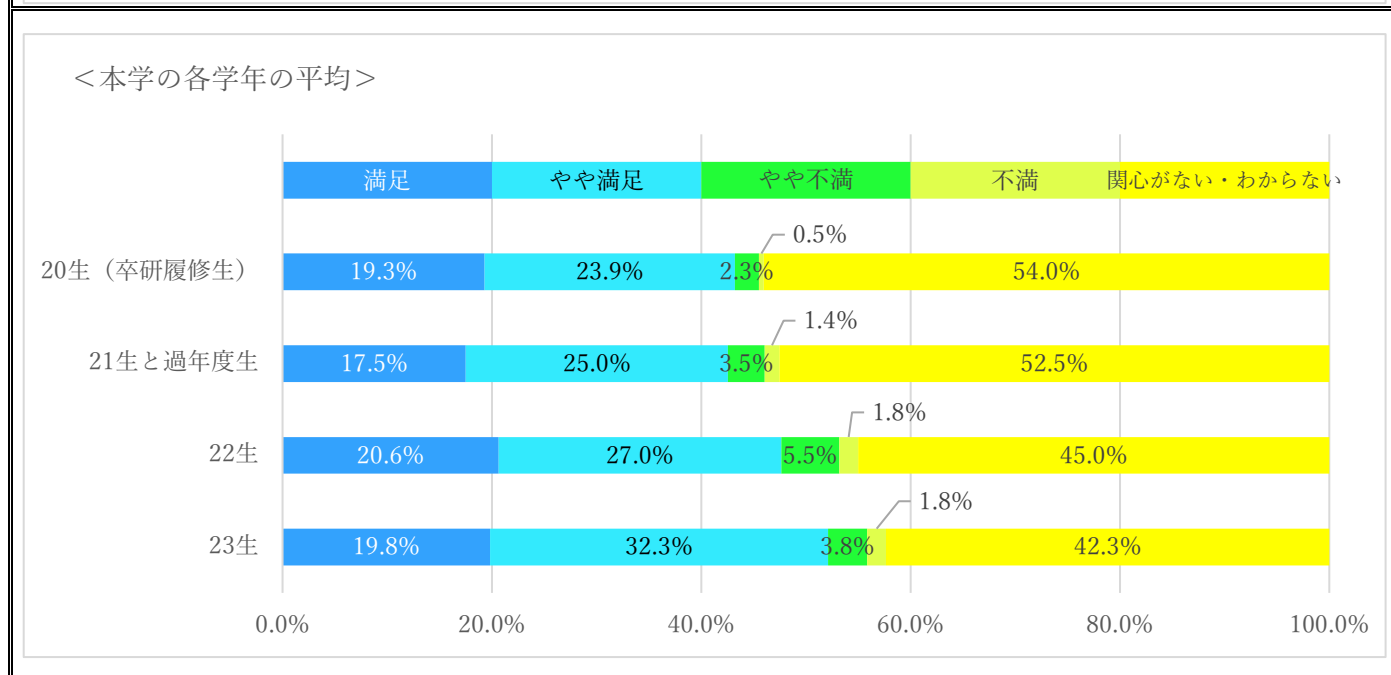
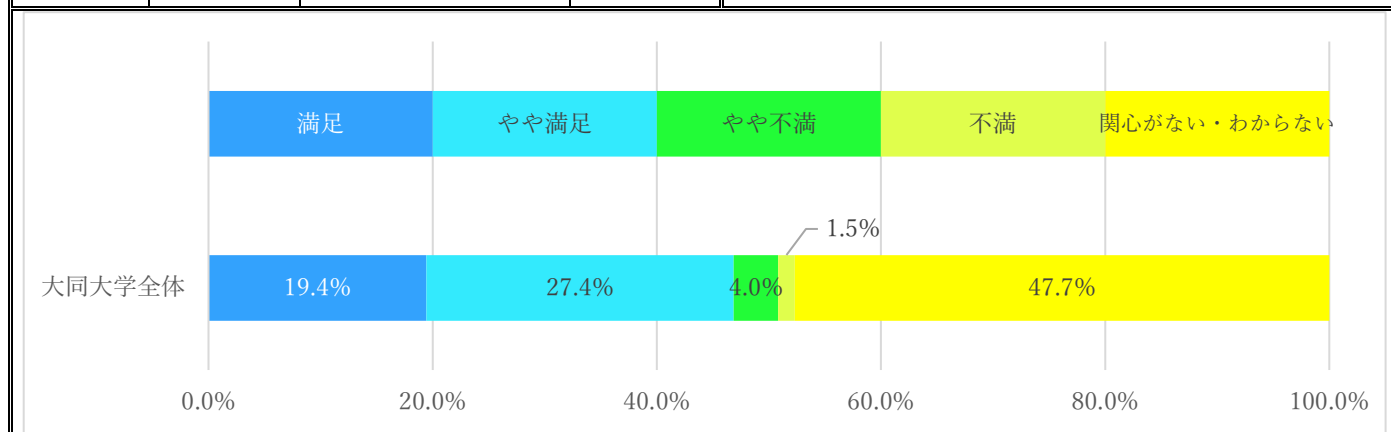
私大連加盟大学と比較してもほぼ遜色はない。80%の学生が満足と回答している。



学生からの満足は得られている

84%の学生が満足と回答している。私大連加盟大学が 82%であり、本学の卒業研究の満足度は若干上回っている。教育の総括である「卒業研究」が十分な結果をもたらしていることは、その他の満足度の向上に寄与していると思われる。

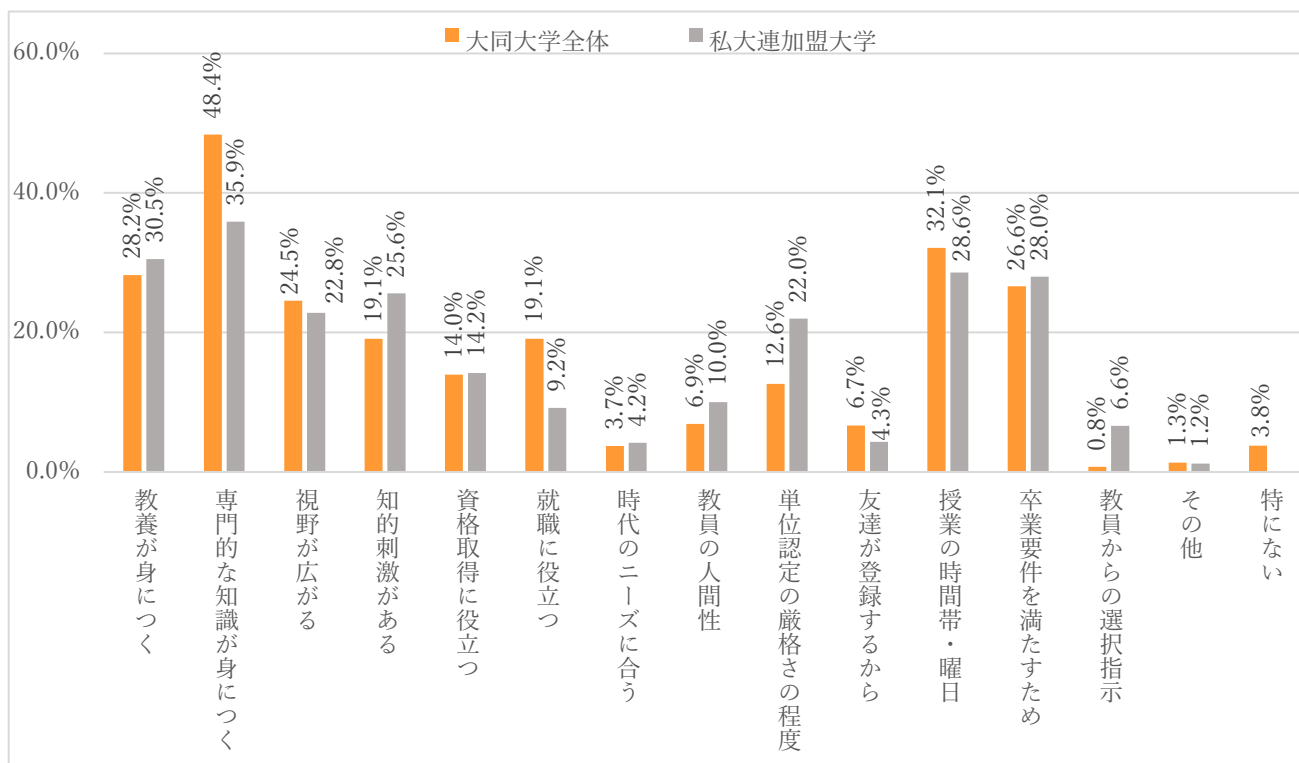
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	【オフィスアワー】に対する満足度を教えてください。
設問No.	29	29	—	



一定の条件下では満足が得られている。

過半数が「関心がない」を占めているが、不満も少なく満足度も40%以上をしめているため、この制度を利用して(できている)学生の満足はしっかりと得られていると思われる。制度の周知が低いというよりは、制度を利用する必要がない状況による結果と思われる。

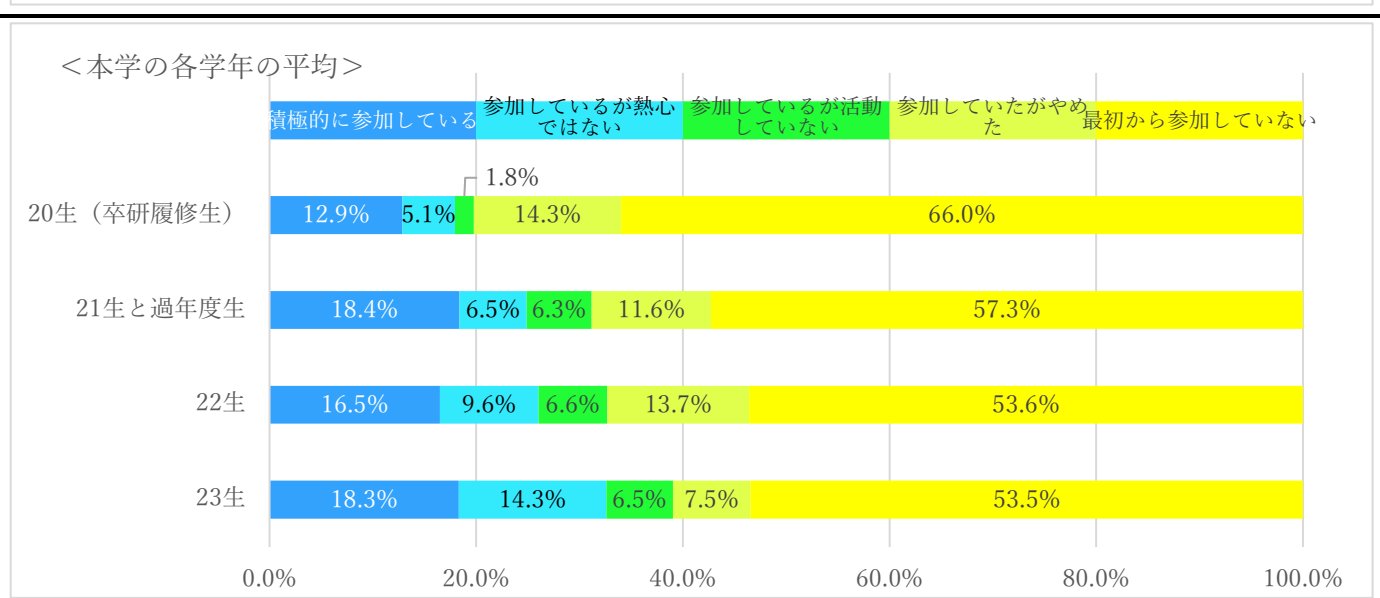
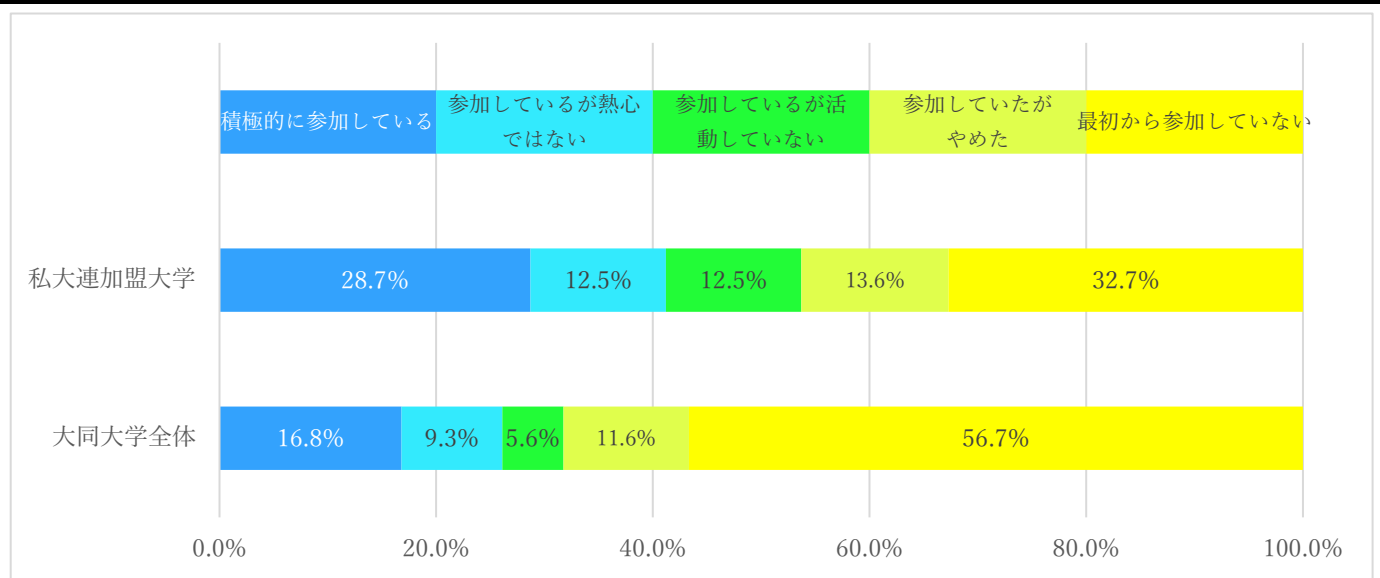
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	科目を履修登録する時に、重視する要素は何ですか。
設問No.	30	30	9	



「専門的な知識」は常に求められている

「専門的な知識」「教養」「授業時間帯」などは常に求められており、本学の傾向としても私大連加盟大学の結果と大きな違いはないが、他大学に比べ「専門的な知識」を特に重視している結果が出ている。(10%ほど高い)これは、カリキュラムの満足度が高学年になるほど上昇することや、授業の満足度と関連があると思われる、「専門的な知識」＝「学科独自の科目」を学ぶことは、本学の学生には影響が高いと思われる。

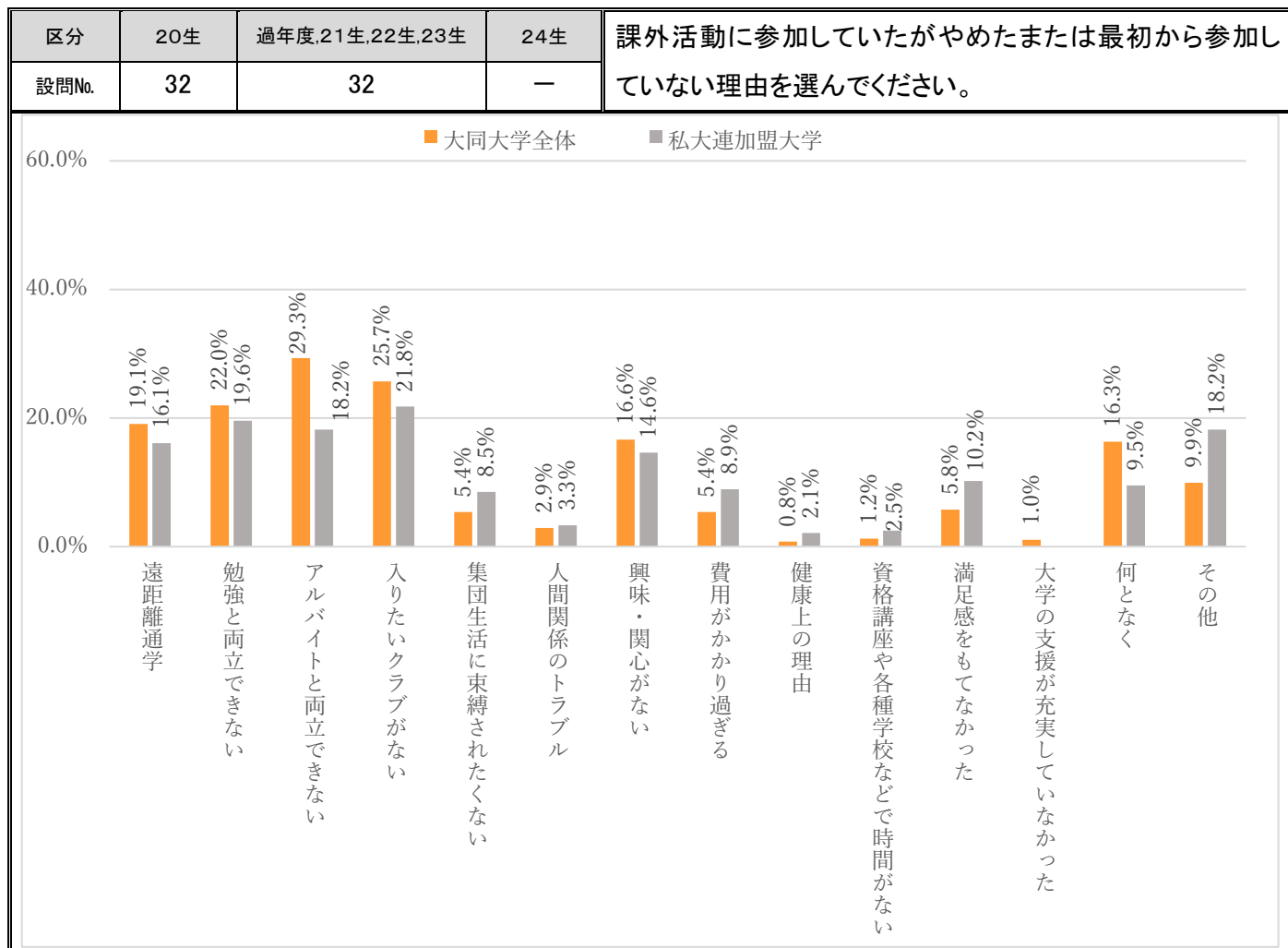
区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティアなど) に参加していますか。
設問No.	31	31	—	



「最初から参加していない」と回答した学生が最も多い

「最初から参加していない」と回答した学生の割合が最も高く、本学全体で 56.7%という結果となった。全国平均の 32.7%より非常に高い結果となった。

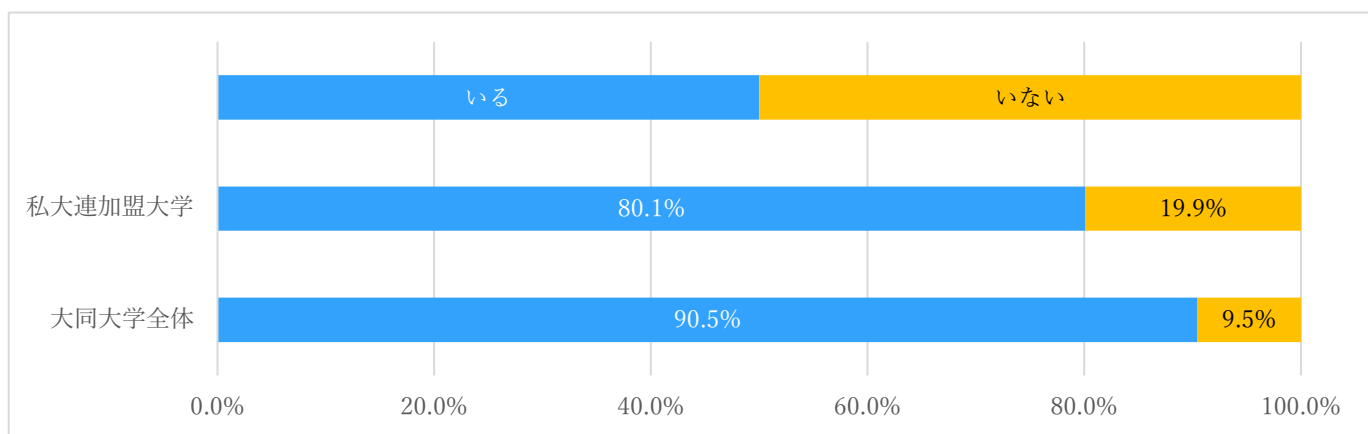
課外活動に参加する学生が増えるような取り組みを実施していく必要があるだろう。



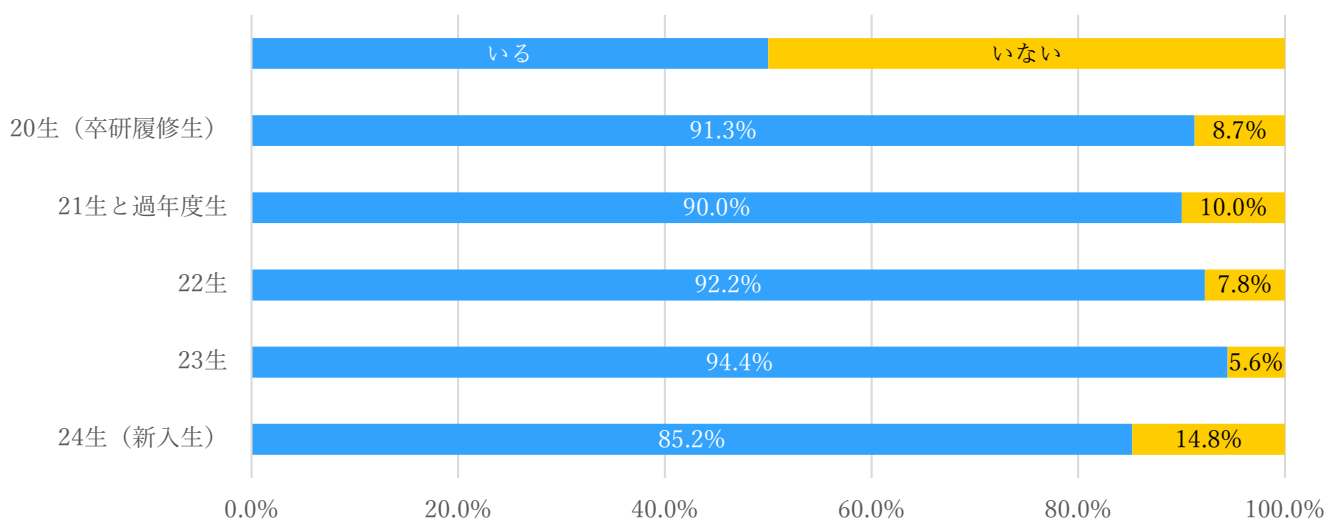
「アルバイトと両立できない」と回答した学生が最も多い

「アルバイトと両立できない」と回答した学生の割合が最も高く、次いで「入りたいクラブがない」「勉強と両立できない」の結果となっている。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	現在、自分のことを話せる友人がいますか。
設問No.	33	33	10	



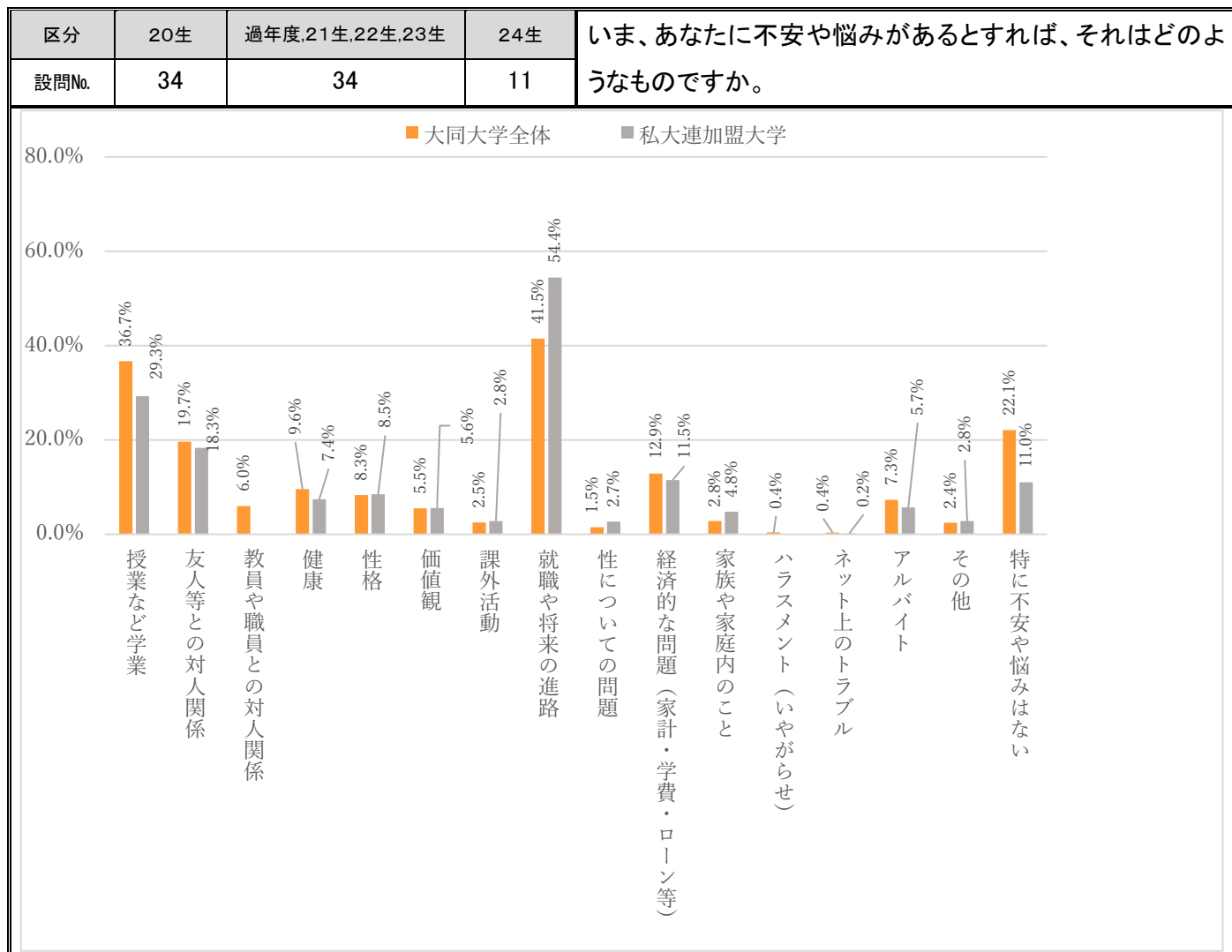
<本学の各学年の平均>



自分のことを話せる友人が「いる」と回答した学生は全国平均より高い

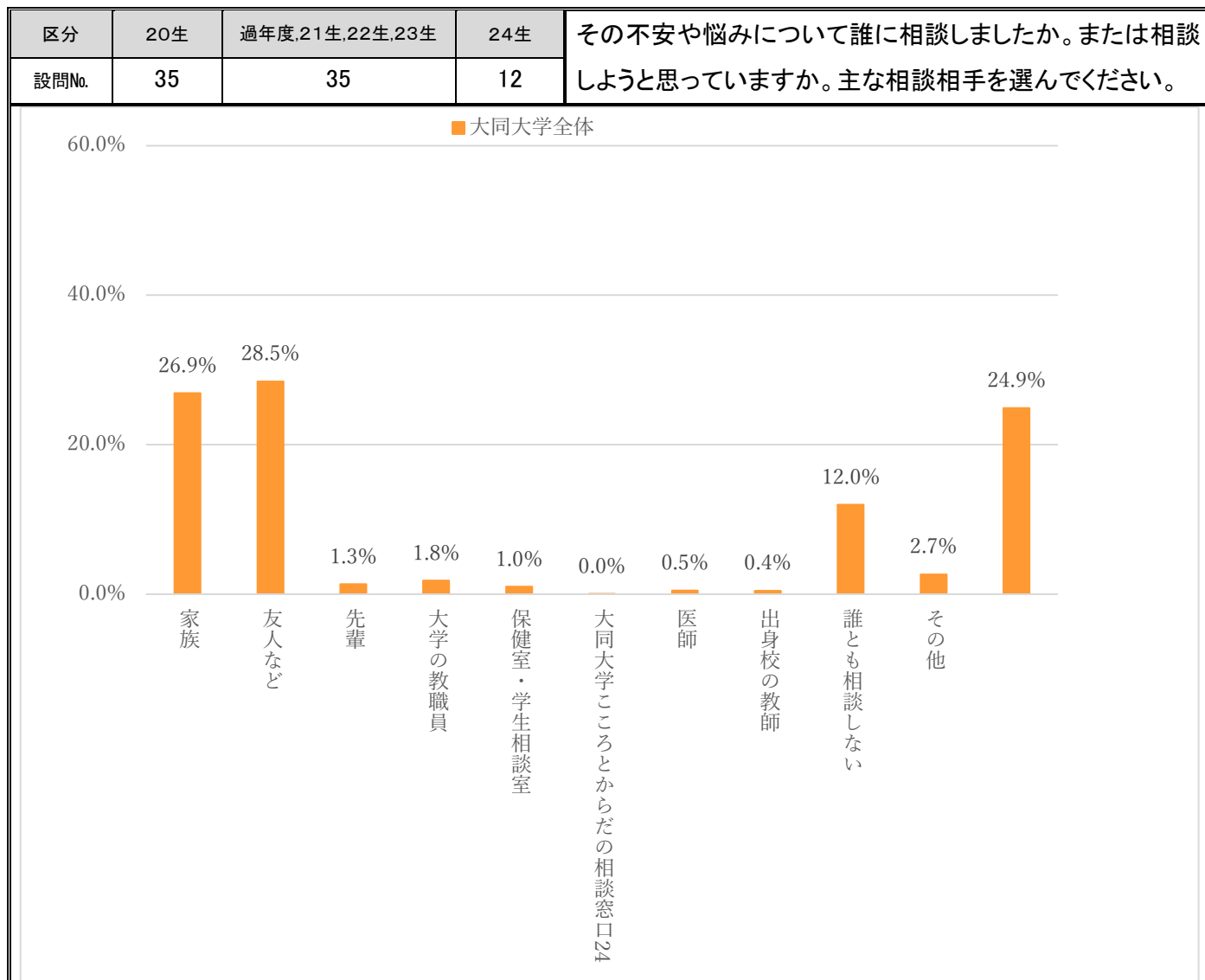
自分のことを話せる友人が「いる」と回答した本学全体の割合は、90.5%という結果となった。これは全国平均より10.4ポイント高い結果となっている。

なお、学科・専攻別で見ると、建築専攻・インテリアデザイン専攻が最も高く、95.0%である。



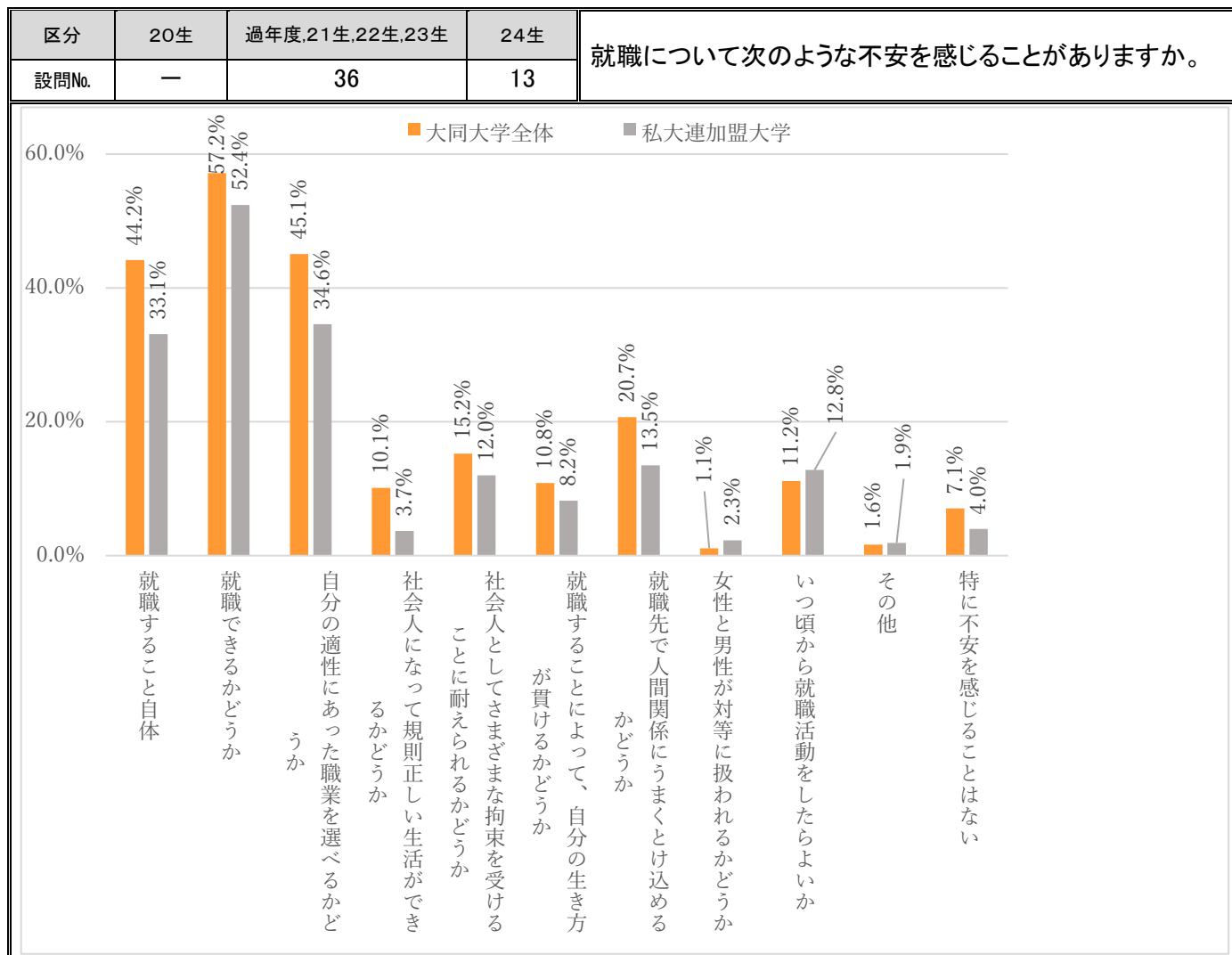
将来の進路や学業に不安がある

「就職や将来の進路」に対して不安や悩みがあると回答した学生の割合が最も高く、次いで「授業など学業」となっており、これは全国平均と同じ傾向である。



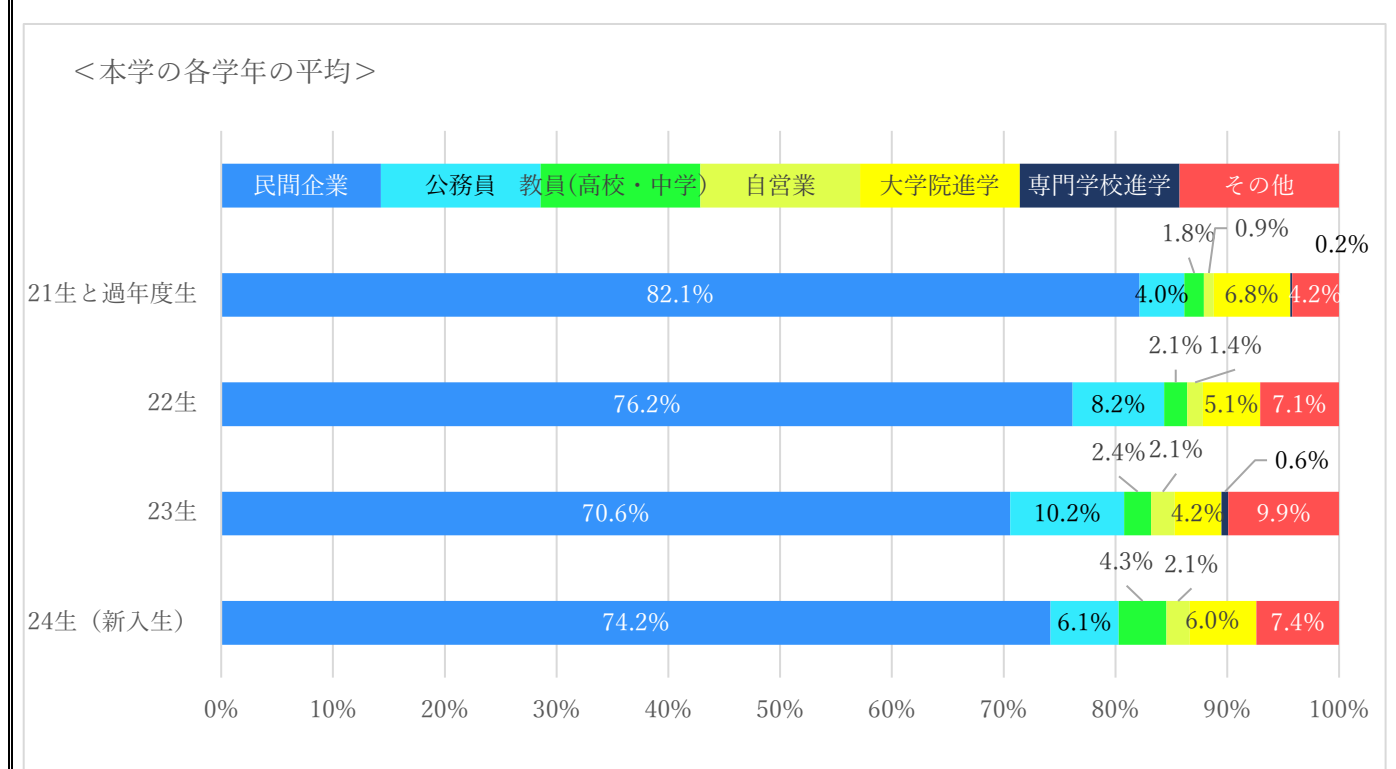
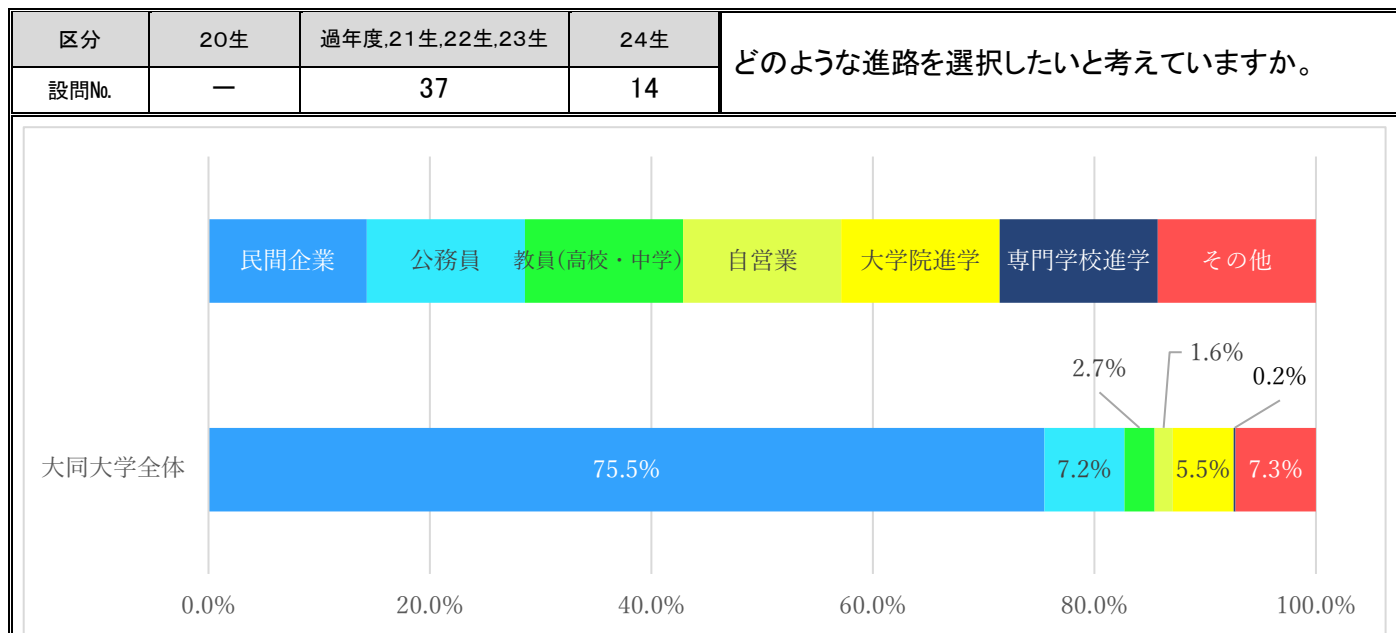
不安や悩みを友人や家族に相談

相談相手については「友人」「家族」と回答した学生の割合が高い結果となった。



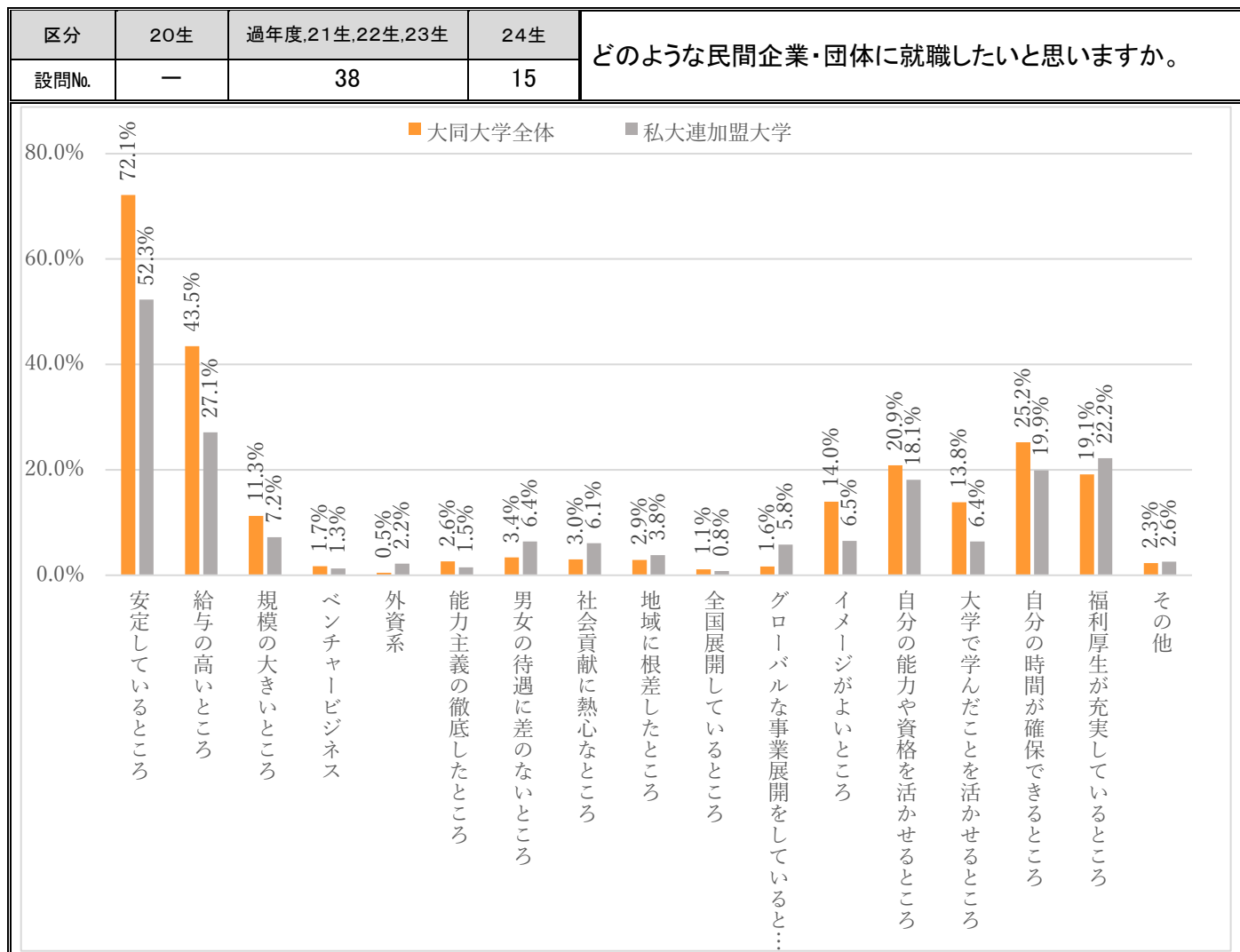
本学の学生特有の傾向に対する対応を考える必要

全体的に、全国平均より不安を感じるポイントが高い。「就職活動の開始時期について」のみ、全国平均を下回っており、ガイダンスの参加率が高い結果だと思われる。それ以外のポイントが高いのは、従来から本学の学生気質で問題である、「自信のなさ」からこのような結果になっていると想定される。このことが、他大学と比較した場合、早期からの活動量が低い（インターンシップの参加率が低い、動き出しが遅い）ことに繋がり、結果として本学の就職状況が改善しないと思われることから、これに対応をした対策を進める必要がある。



進路選択については、特に問題なし

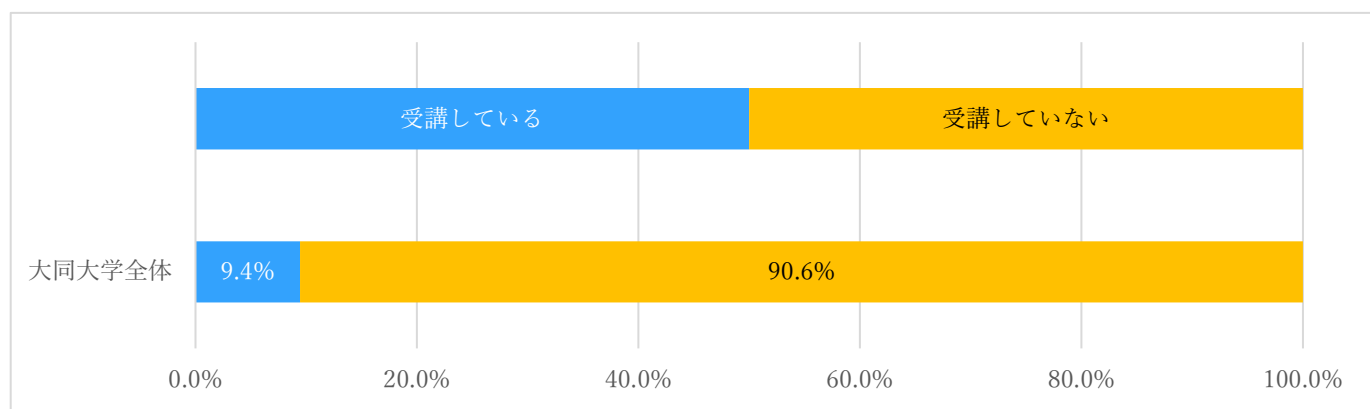
昨年度と同様に、希望する進路については、「民間企業」を選んだ学生が多く、「公務員」を選んだ学生の割合が少ない。しかし、学科・専攻別にみると、技術職の採用需要が高い土木・環境専攻においては、「公務員」志望が31%と高く、続いて文系である総合情報学科の「公務員」志望が高い。大学院進学については、進学実績のある学科では、志望が高い。順当な結果であると感じる。



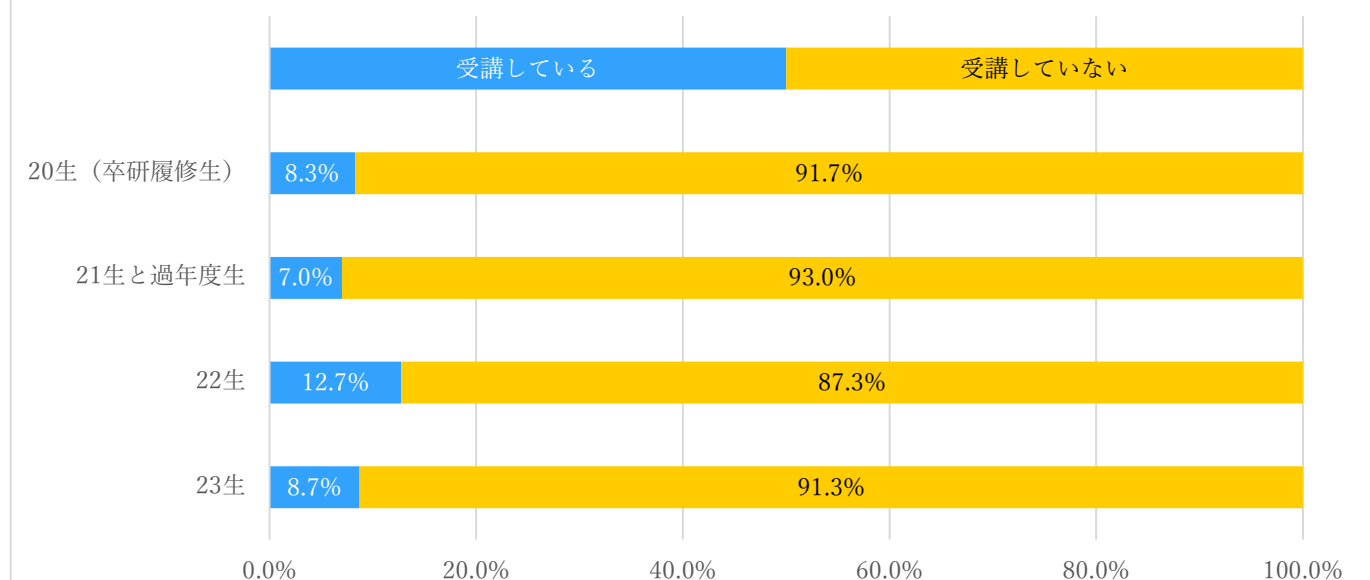
学生気質の変化(安定志向)を理解し、必要であれば対応する必要がある。

全国平均と比較して「安定しているところ」をかなり重視しており、昨年度より、その傾向がかなり強く(+15%程度)なっている。コロナ渦を経て、学生が「将来性」をかなり重視していることの現れであるといえるかもしれない。その他、昨年度と同様に「大学で学んだことを活かせるところ」の項目においては、全国平均を上回っている。このことは、本学の理念である「実学主義」が体现されていると言えるかもしれない。逆説的には、学生自身の判断で、企業の幅を狭める可能性もあり、正しい認識ができるような方策が必要だと思われる。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	現在、資格、技術取得、受験等のために、学内の資格講座を受講したり、学外の各種学校などを受講していますか
設問No.	36	39	—	



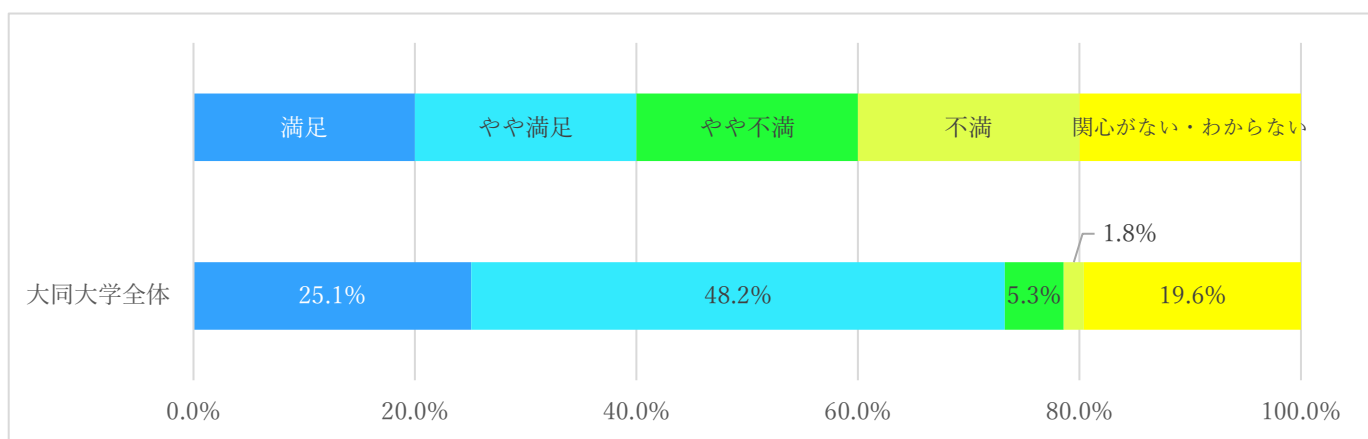
<本学の各学年の平均>



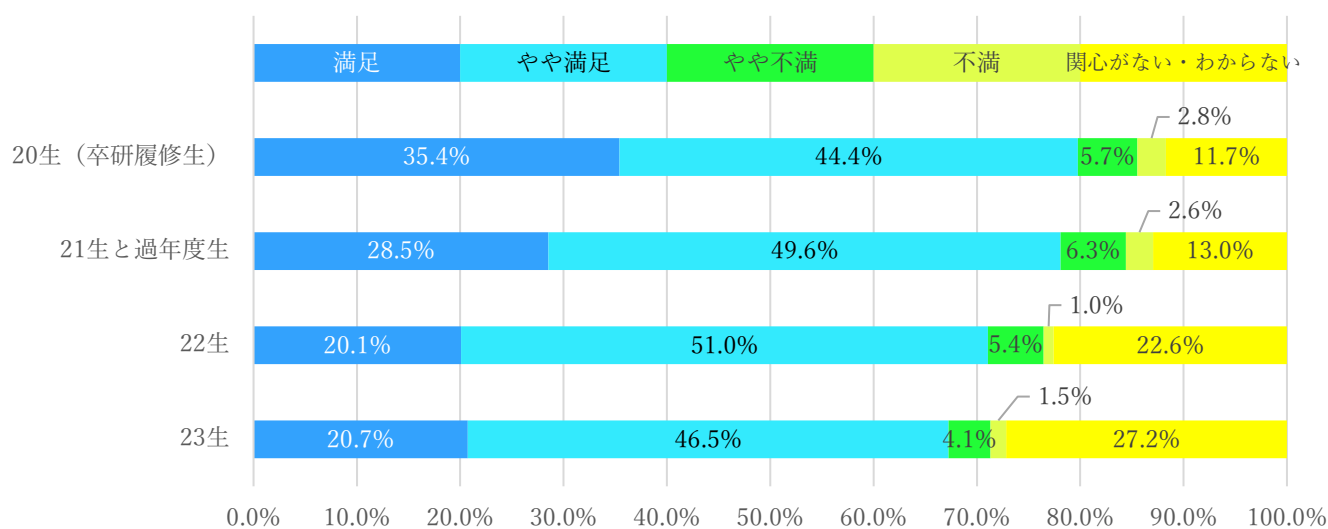
資格取得の理解を進める

昨年度と同様に、全体傾向として、資格に関する学びを受講している割合は、各学年ともに10%程度である。学科ごとの傾向としては、学びと結びつきが理解しやすい資格がある学科(電気電子、建築、情報システム)の受講率は、若干高めである。

区分	20生	過年度,21生,22生,23生	24生	就職・進学における大学の支援に満足していますか。
設問No.	37	40	—	



< 本学の各学年の平均 >



低学年からの意識付けが必要

昨年度と同様の傾向があり、低学年では、就職活動が本格的に始まっていないこと、ガイダンスへの参加率が低いこともあり、「関心がない」割合が高い。就職活動が進むにつれてその割合は低下してゆく。反対に「満足」「やや満足」の割合は、就職活動が進むにつれて増えている。「不満」「やや不満」は、学年での変化はなく、6%～8%で一定である。

低学年に「関心がない・わからない」とい割合が高いことは、就職に対する意識がない・希薄であると思われる。本学の就職率・就職先を向上させるには、低学年から「就職」という意識付けをさせることが必要だと思われる。

第3章 学修成果の点検・検証の総括（2020年度入学生）

3. 1 学修成果の点検・評価の総括

2024 年 9 月 2 日

2020 年度入学生に対する学修成果の点検・評価の総括

学修成果検証小委員会

主査 棚橋 秀行

1. はじめに

2019 年 11 月の第 12 期・第 1 回教育改革実行委員会において、学修成果の点検・評価は卒業生を送り出した都度行うこととなりました。2020 年度秋に受審した大学認証評価の結果、本学の教育における学修成果の可視化の取り組みは一定の評価をいただくことができました。しかしながら、当時の学修成果の可視化の手法にはまだ改善すべき点や検討が不足している点があることも同時に浮かび上がってきました。これに対して今後あるべき学修成果の可視化はどういうものか、といった点に対する教育改革実行委員会における議論の成果は、現在進行中の 24 年度カリキュラムにおける専門科目と人間科学科目群の貢献度を融合した新たな 12 の DP 小項目の設定などへと繋がりました。

2024 年 5 月 8 日の大学運営委員会において、2020 年度入学生に対する点検・評価を各学科長等へ依頼し、7 月 26 日締め切りで回答をいただきました。本報告はこの点検・評価を通じて得られた知見の総括を行ったものです。

2. DP ポイントグラフに関して

本学では学科（専攻）ごとに、教育目的を踏まえて身につけるべき能力を明確にした DP 項目を定めています。DP ポイントグラフは DP の各項目に対して、教育プログラム単位、および個々の学生単位での学修成果を可視化するためのグラフであり、履修モデルごとの DP ポイントの想定値、および学生が獲得した DP ポイントの分布状況をグラフ化しています。これらのグラフから、

- 学位授与の方針、カリキュラム、カリキュラムマップ、カリキュラム・フローチャート、履修モデル等の教育制度上の視点より評価する。
- 教育内容・方法の視点より評価する。
- 履修指導や学修指導の視点より評価する。

といった点検・評価が行われました。教育課程編成・実施の方針で述べられているような教育プログラムや授業科目ごとの検証につなげるものです。

3. 大同大学の学位授与の方針と学科等の定めた DP との対応

以下に大同大学の DP を示します。

- a. 社会人として活動するために必要な基礎的な能力を身につけている
- b. 豊かな教養を身につけている
- c. 確かな専門性を身につけている
- d. 豊かな創造力を身につけている

これと関連付けて整理することにより、学科等の目指す教育の特色が明らかになると考えられます。20 生もこれまでと同じく、以下のような 2 つのグループに分けられる傾向が見られました。

「c. 確かな専門性を身につけている」に関連するポイントが高いグループ

工学・情報学の基礎科目から、その後の技術者として実社会・企業で役に立つ技術力や知識の活用力を身につけているということを DP 項目に展開している傾向があります。一方で、d.に関連するポイントについては卒業時の「仕上げの最終状態」のニュアンスでとらえて高学年時、特に卒業研究などや関連ゼミでしか貢献されていないと思われます。

「d. 豊かな創造力を身につけている」に関連するポイントが高いグループ

成果物の製作や研究調査結果の発表を通じて自分の考えや意見を伝えることを DP の項目に重視する傾向があります。d.に関連するポイントについては1年次から「多くの授業でくりかえし身につけさせる強化目標」ととらえるために DP ポイントが大きくなっているようです。

4. DP ポイントが低いケース（履修モデル・学生 DP ポイント分布）について

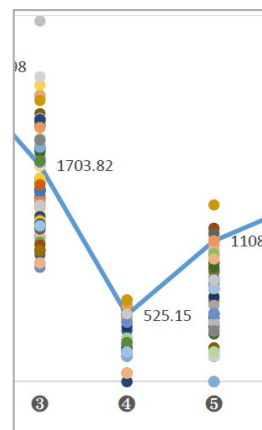
○DP ポイントの想定値を各項目で総和を取ると、 124 （卒業に必要な単位数） $\times 100$ （貢献度[%]） $\times 1.167$ （学業成績評価係数、良に相当） $=14,471$ となります。このとき、DP の項目毎にポイントの想定値の最低ラインをどのように考えればよいか、といった点は重要です。

○例えば DP ポイントが 200 である項目は、2 単位で貢献度（100）の科目が 1 つ、成績可（学業成績評価係数 1.0）であれば到達できてしまう値（ $2 \times 1 \times 100 \times 1.0$ ）であることを示しています。学位授与の方針として掲げる項目としては数値が低いと考えられるのではないのでしょうか。

○20 生もこれまでと同じく、DP ポイントが低い項目について、以下のような 3 つのケースが見られました。

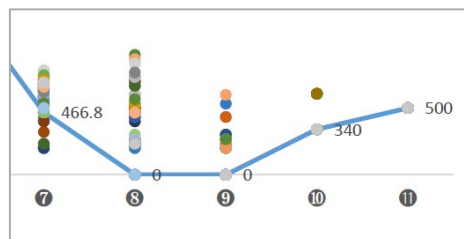
（ア）ある DP 項目において履修モデルでは DP ポイント想定値がある程度あるが、学生の DP ポイント分布があまりに下方に乖離している・ほとんどゼロのケース（例：右図の④⑤）

他の DP 項目では学生の DP ポイント分布が履修モデル DP ポイント想定値を逆に大きく上回っている傾向もあり、そのような DP 項目と対になっているのではないかと考えられます。ただし、昨年 19 生までの点検の際よりもこのケースはかなり少なくなりました。今回の 20 生からは新カリキュラムとなったことで、全学的な見直しがなされたものと思われます。



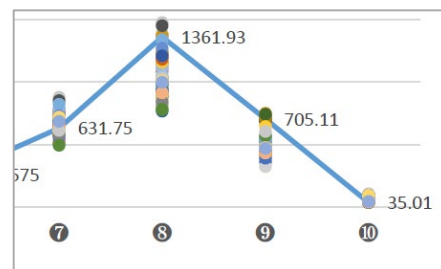
（イ）ある DP 項目において、学生の DP ポイント分布はある程度の値であるが、設定された履修モデルの DP ポイント想定値がほとんどゼロのケース（例：右図の⑧⑨）

ある学科では履修モデル A の DP 項目 8 と 9、履修モデル B の DP 項目 4 と 5、履修モデル C の DP 項目 4 と 5 は履修モデルの想定値がゼロとなっています。履修モデルごとの選択科目の差を認めた設計のためですが、新 24 カリではこれらの項目を専門内容の修得を示す包括的な方針に改訂されました。



(ウ) ある DP 項目において、履修モデルの DP ポイント想定値・
学生の DP ポイント分布ともにほとんどゼロであるケース。
(例：右図の⑩)

DP 項目数が多すぎることも、履修モデル設定 DP ポイントがどこかの DP 項目で小さくなってしまふ、ひとつの要因であると考えられます。ただし (ア) と同じく、昨年 19 生までの点検の際よりもこのケースもかなり少なくなりました。



上記 (ア) (イ) (ウ) のような点の抜本的な改善は、学生の履修指導では限界があるため、現行の 24 カリにおいてはカリキュラムマップと履修モデルを設計段階から見直し、その際に履修モデルの DP ポイント想定値 500 (そのうち主要科目で 200) を学位授与方針ごとの DP ポイントの標準目標値の全学共通の下限值とすることにしました。

5. 点検・評価における各学科等の意見

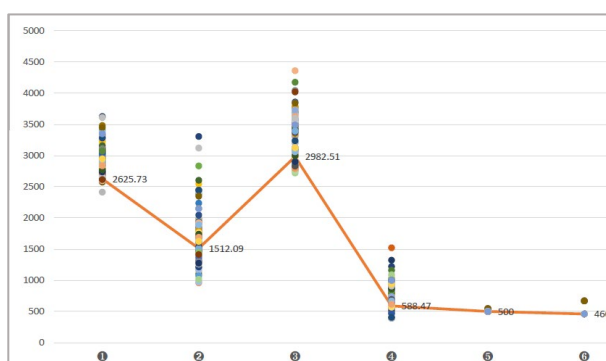
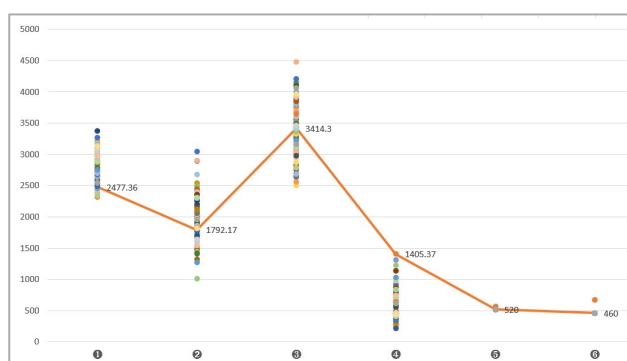
※貢献度グラフ D (科目 DP 貢献度×単位数×学業成績評価係数) にもとづく。

※コロナ禍・遠隔授業に関する記述部分にアンダーラインを付した。

【機械工学科】

○2019 年度～2020 年度入学の卒業生の DP ポイントグラフからの変化点について着目する。学位授与方針の 1～4 を見てみると、1 と 3 では目標値を上回る学生多くなっている。

○2019 年度までは 4 では目標値を下回る学生が多くなっていたが、2020 年度入学生ではその傾向は見られない。2020 年度の入学生は新型コロナウイルスの影響を強く受けており、これまでの傾向と異なっていることも考えられる。また、2020 年度の入学生からカリキュラムが若干変更されており、過去の学生と直接比較できない部分もある。

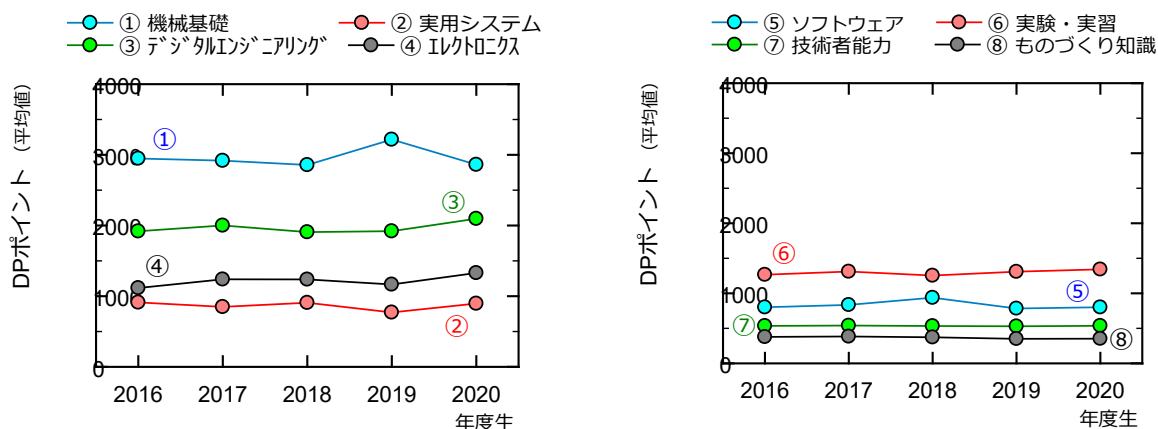


機械工学科 履修モデル B 左：19 生 / 右：20 生

【機械システム工学科】

○下図に過去 5 年間の本科学士の各項目の DP ポイントの変遷を示す。図中の値は、各年の学生全員のポイント (貢献度グラフ D) の平均値を示す。図より、いずれの DP 項目についてもこの 5 年間で大きな変化は見られず、ほぼ横ばいで推移しており、DP①[機械基礎]のポイントが高く、DP⑦[技術者能力]と DP⑧[ものづくり知識]のポイントが低く、学生の履修が基礎中心となっていることを表している。

○実学主義に目を向けていくためには、産業界に直結する展開科目を中心とする DP②[実用システム]の貢献度を上げる方策も必要であると考え。しかし、その多くの科目は3年次後期以降に開講されるため、既に十分な単位を取得している学生にとっては、GPAを気にするあまり、履修に消極的な傾向を示し、そのため取得ポイントが上がらない結果になっていると推測される。積極的な履修の動機づけや GPA だけによらない順位付けの方策、あるいは GPA にカウントしない科目の設定などの検討も必要なのではないかと考える。

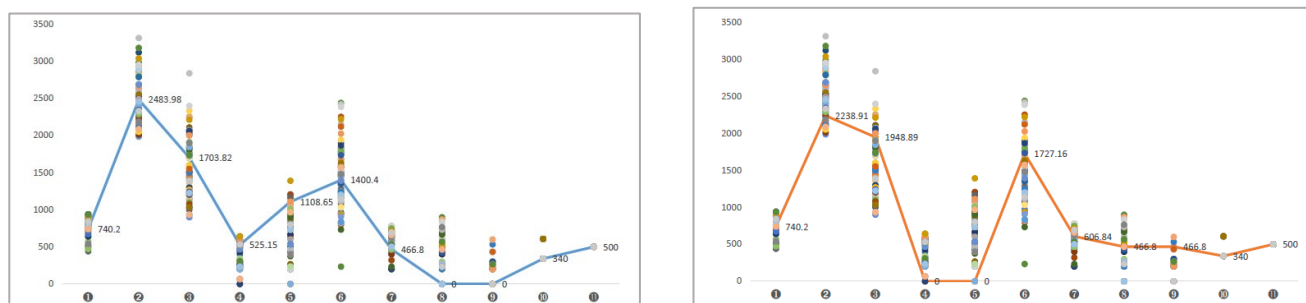


機械システム工学科 DP ポイントの変遷（過去5年間）

【電気電子工学科】

○電気電子工学科の20カリの学位授与方針は11項目から構成されている。しかしながら、学位授与においては全ての方針を満たす必要はない。すなわち、必修科目の方針1～3および10～11が全員の必要項目であり、方針4～9については選択する科目によって、その内の2つ程度を満たせば良い。履修モデルAは方針4～5、履修モデルBは方針6～7、履修モデルCは方針8～9に対応するもので方針4～9はそれらの全てを満たすことが学位授与方針ではない。24カリでは、その学位授与方針を改訂するが、今回は現状の方針に沿って考察する。

○方針1の基礎となる数学科目についてのポイントはやや低く、方針3の実験についてのポイント分布が幅広い。これらは必修科目であるが、数理知識及び課題探求能力に関して全体的に成績が低いことが要因と思われる。いずれの科目も重要な科目であるため、良く調査を行った上で、必要であれば改善を検討したい。

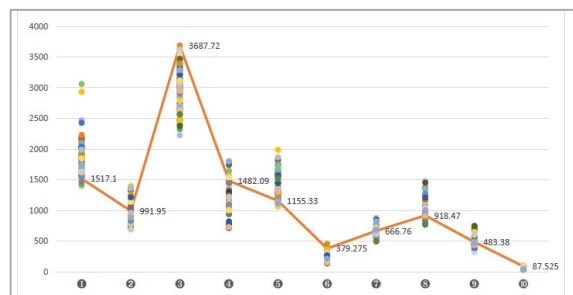
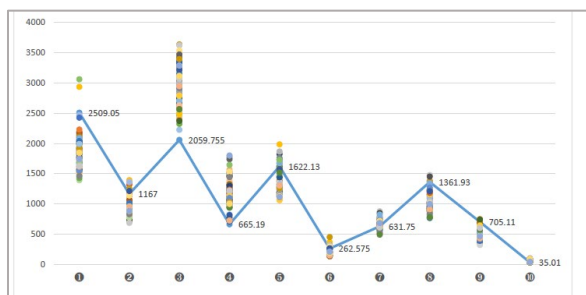


電気電子工学科 左：履修モデルA / 右：履修モデルB

【建築学科（建築・インテリア）】

○建築専攻の学位授与方針の③（建築の設計・計画に関して）と④（建築造形、意匠と歴史に関して）の項目で、それぞれ履修モデル A で下方、履修モデル B で上方に大きく偏る傾向が確認される。昨今、学位授与方針の③の設計・計画系の研究室志望学生が増加している傾向からも、今後、履修モデル A・B の設定の見直しを検討する必要があるだろう。

○教育内容や方法に関しては、2021 年度から X 棟での教育環境に変わったこと、コロナ禍での遠隔授業から対面授業へシフトして来たことの影響も考えられるだろう。20 生に関して言えばまさにその転換期にあたり、初年時から X 棟使用且つ専門科目での対面授業が基本となる 21 生以降との比較が待たれるところである。

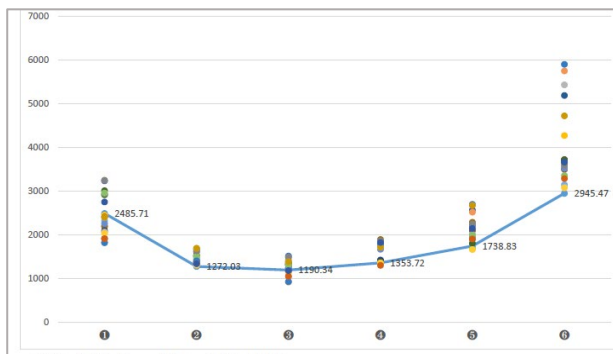
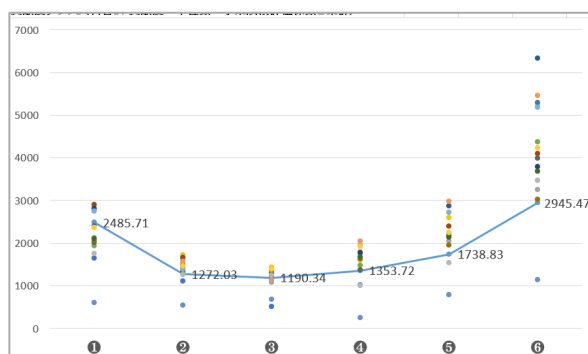


建築学科 建築専攻 左：履修モデル A / 右：履修モデル B

【建築学科（かおりデザイン専攻）】

○全体的にみると、2～5 の高得点側は昨年度までと同程度であり、「1. 嗅覚の特性に関する知識があり、基本的なにおい・かおりの測定・評価ができる。」の高得点側は昨年度より上昇している。

○実験・調査で得られたデータを整理・分析し、学生間での議論や成果をまとめた発表ができる場を多く設け、傾聴力、発信力が身に付けられるような授業内容にしている。そのため、「6. 論点を的確に捉え、必要な調査・実験データ、情報を収集し、そのデータを理論的に分析し、課題を解決することができ、客観的なデータに基づく自らの考えを分かりやすく伝えることができる。」の貢献度は、履修モデル A、B とともに、他の項目よりも高いポイントを示すように計画しており、今年度も他の項目より著しく高いポイントを示した。

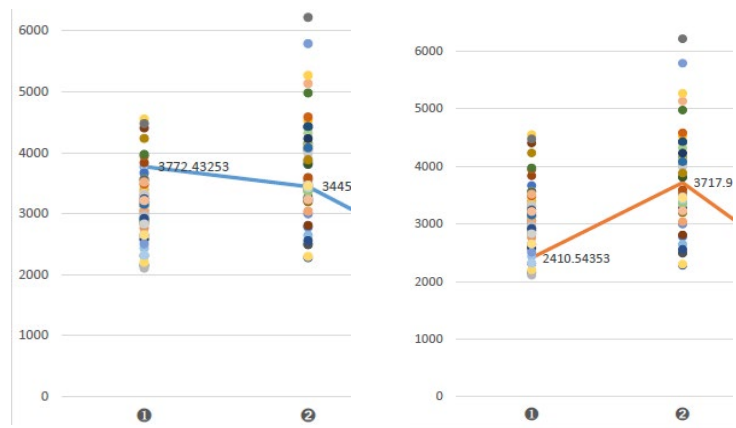


かおりデザイン専攻 履修モデル A 左：19 生 / 右：20 生

【建築学科（土木・環境専攻）】

○履修モデル間の基準ポイントが大きく変わる方針①④・変わらない方針②③⑤に分類した分析がなされた。ここでは①について紹介する。

・方針①（土木三力）については、モデル A に対しては下の分布が多いものの、これは計画・交通、環境と言った履修モデル B を試行する履修者が多いことに依存しているものとみられ、低い基準となる履修モデル B から見た状況としては特に問題ないと思われる。



建築学科 土木・環境専攻

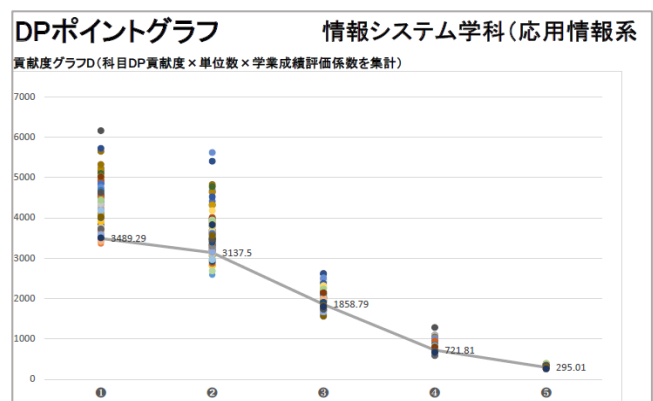
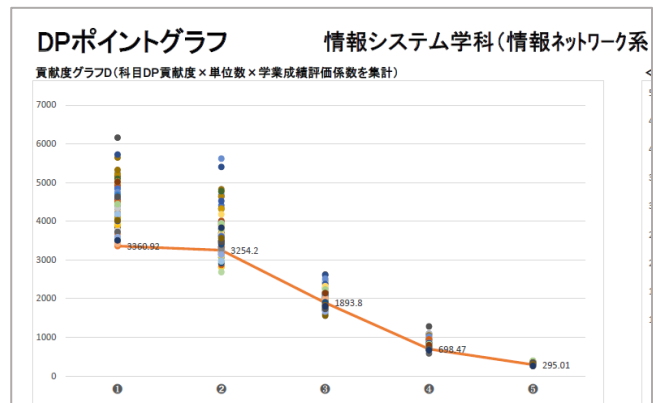
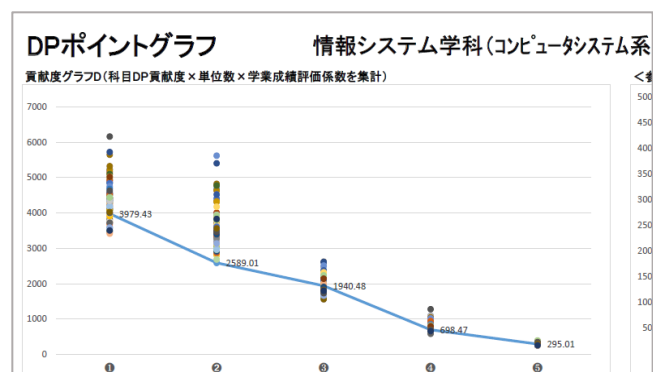
左：履修モデル A / 右：履修モデル B

【情報システム学科】

○ 20 カリでは、履修モデルがコンピュータシステム系／情報ネットワーク系／応用情報系の 3 つに細分化された。いずれのモデルでも学位授与の方針 1. のポイントが高く、続いて同方針 2. 以降のポイントが低くなる設定であり、実際の学生の成績の DP ポイントの分布も同様な傾向である。実際の学生の成績はいずれの項目も DP 貢献度の想定値を超えている。

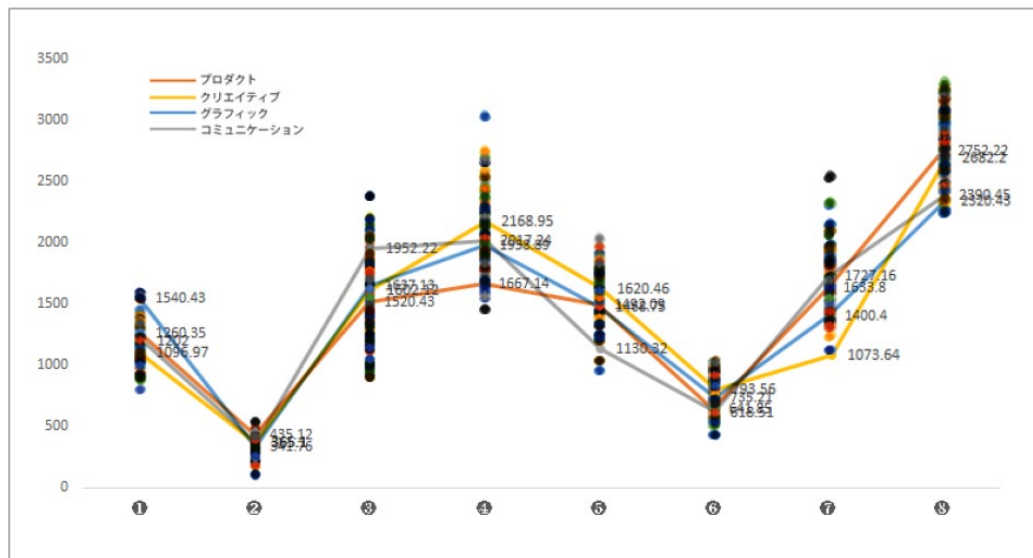
○3 つの系統で平均の成績はいずれも想定値を超えたものとなっていた。全体を通して、2020 年度生はコロナ禍の影響を最も受けた学年であったが、その学業成績は「良」評価を基準とした想定値よりも高い値を全ての学位授与の方針で達成しており、十分に高い学修成果が得られたと考える。

今回が 20 カリでの最初の評価であり、今後 3 年度において同カリでの評価を行い、その推移を確認するとともに改善点を明確にしていきたい。また、2024 年度生からは 24 カリでの新しい評価となるため、20 カリでの評価結果をフィードバックしながらより高い学修成果が得られるようにしていきたい。



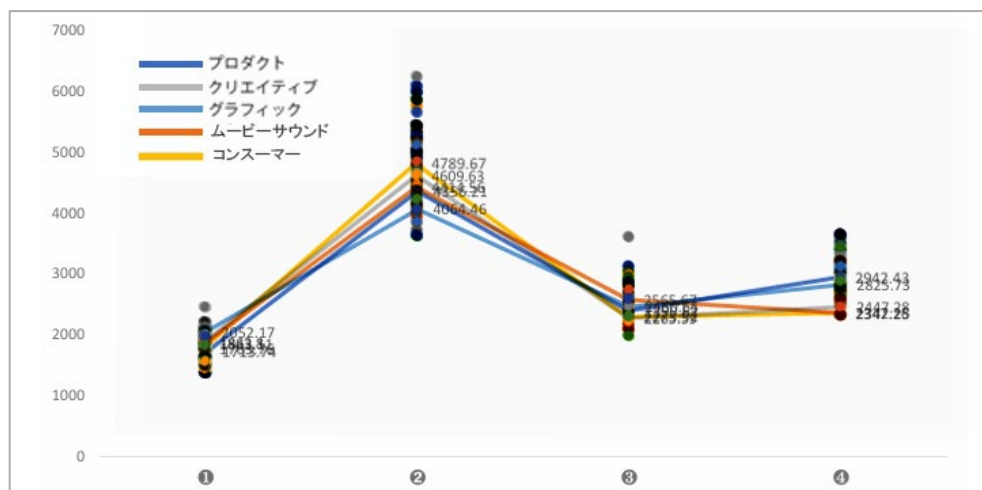
【情報デザイン学科】

○（昨年の総括より引用） 16カリキュラムでは4つの履修モデル（プロダクト/クリエイティブ/グラフィック/コミュニケーション）がある（以下に重ねて図示）。DP項目②のコミュニケーションにおいては大同のウィークポイントにあたるのでカリキュラム視点で強化していきたい。



○20カリキュラムでは4つの履修モデル（ムービーサウンド/グラフィック/クリエイティブビジネス・コンシューマービジネス/3D（プロダクト））がある（以下に重ねて図示）。

棚橋コメント：20カリにおけるDP項目①「主体的な学びの態度が備わり、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、他者と協調・協働して、目標実現のために積極的に行動できる。」が16カリでウィークポイントにあたるとしていた②コミュニケーションに対応するものと思われます。

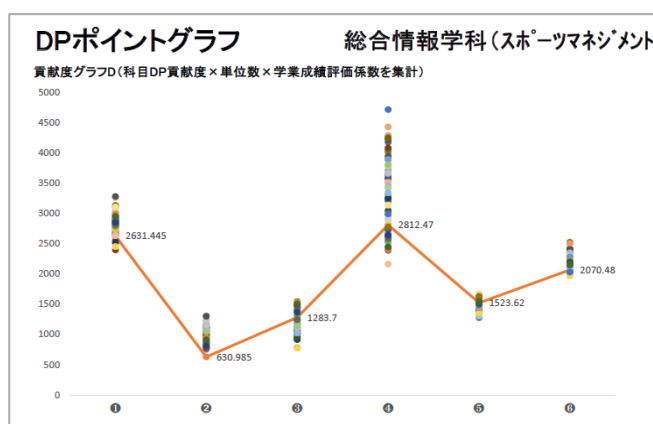
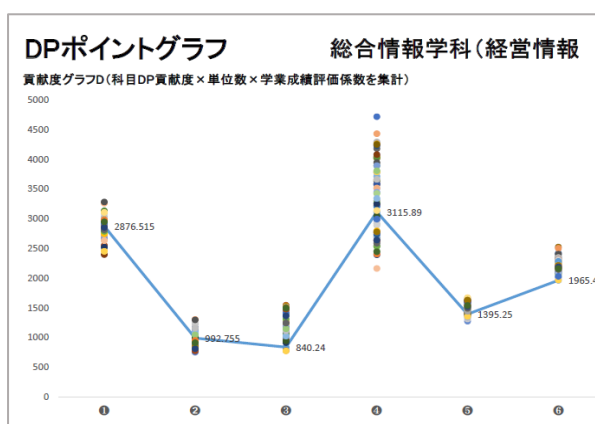


○なお20生に関してはコロナの年で1年次に遠隔授業からのスタートである。演習における基礎が遠隔であるデメリットは多少感じていたが、4年までには何とか追いついてきている実感もある。若干16カリとは整合しないが、④実践力は全体に好スコアでコロナの影響は少ないのではと推測される。

【総合情報学科】

○総合情報学科では 19 カリキュラムより、経営情報コース、スポーツ情報コースの 2 コース制となり、それぞれに履修モデルが存在している。入学試験もコース別に実施されるが、これまで学位授与の方針は 5 項目であったが、20 カリキュラムから学位授与の方針は 6 項目となっている。コースは違っていても学位授与の方針は同一なことから、コースのカリキュラムの内容によって差異がみられると考えられる。経営情報コース、スポーツ情報コースいずれの履修モデルにおいても DP ポイント分布（貢献度グラフ D）及び想定値は方針 1 と方針 4 が相対的に高い値を示しており、方針 2 が低い傾向にあることがわかる

○また、スポーツ情報コースでは方針 5（経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データを論理的に分析することができ、かつ問題解決のための応用ができる）の成績の分布が DP ポイントの想定値を下回っている傾向が強く、実際に実験データを扱い論理的に分析する科目が少ないことからその分野の能力が比較的低かったのかもしれない。



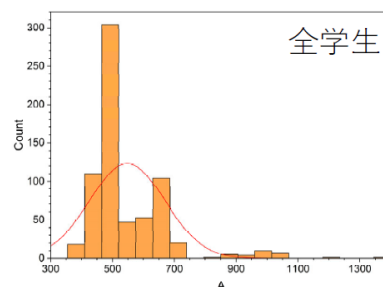
【教養部】

○教務室から全学生のデータを入手し、化学教室の田中宏昌教授を中心に教養部で独自に分析を行った。学位授与方針（DP）の項目 A～H のそれぞれについてヒストグラムを作成し、前年度（2019 年度）の分布と比較した。

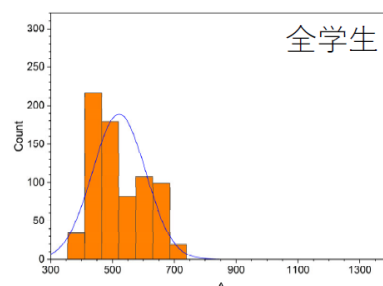
○一例を示す。右図は、項目A 『英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる』についての比較である。学生数が最も多い層が 2020 では高ポイント側にシフトした。また、一般的な学生と比べて、極端に多くのポイントを獲得した学生が現れた（30 名程度）。期末試験がなかったため遠隔講義において、課題やテストで好成績をとった学生が多かったのかもしれない。

○こうした「極端に多くのポイントを獲得した学生」は、この項目Aのみならず他の項目でも散見された。

2020



2019



○以下の表では、項目 A～H について「DP ポイントの平均値と中央値の年度比較」を表で提示し、2020 生と 2019 生を比較した分析結果をまとめた。なお、2020 年度からのおよそ 2 年間、新型コロナ感染防止の対策のため遠隔授業実施等の措置が取られた。したがって今年度の分析では、遠隔授業実施の学修成果における影響の有無も踏まえた形で前年度と比較を行った。

DP ポイントの平均値と中央値の年度比較

平均値	2020	前年比	2019	2018	2017	中央値	2020	前年比	2019	2018	2017	平一中	2020	2019	2018	2017
学生数	685		735	694	695	学生数	685		735	694	695	学生数	685	735	694	695
A	547	26	521	464	446	A	509	10	499	452	441	A	38	22	12	5
B	341	21	320	291	282	B	325	13	312	287	279	B	16	8	4	3
C	361	8	353	352	351	C	347	0	347	352	347	C	14	6	0	4
D	869	47	822	861	830	D	845	34	811	857	811	D	24	11	4	19
E	862	53	809	777	818	E	804	34	770	737	771	E	58	39	40	47
F	1424	135	1289	1246	1194	F	1440	106	1334	1301	1201	F	-16	-45	-55	-7
G	115	-84	199	207	204	G	53	-173	226	86	250	G	62	-27	121	-46
H	1323	-24	1347	1192	1198	H	1344	-62	1406	1273	1210	H	-21	-59	-81	-12

○DP ポイントの平均値、中央値ともに、2019 生と比べて 2020 生は多くの項目で増加している。F と H は理系科目（数・物・化）で、基本的に連動すると予想されるが、H は点数が下がった。F は人間科学科目群からの寄与も大きいので、それらが点数を押し上げたのかもしれない。G は比較の意味がないので議論しない。

○2020 生の平均値・中央値が増加した理由の一つとして、教養部科目が設置されている最初の 2 年がほぼ遠隔授業であったことが挙げられるだろう。期末試験が実施できず、課題の積み重ねで成績が決まった科目が多いと思われる。自学自習できる、遠隔授業に順応できた学生が、高ポイントを獲得し、平均点を引き上げたと推測できる。

○実際、平均点と中央値の差は、4 年間で最大となった。2020 生の中に、極端に高ポイントを獲得した 30 名程度の一群がおり、彼らが平均点を引き上げた可能性が高い（多くで平均値＞中央値なので）。とはいえ、全体的な分布はさほど変化していないので、遠隔授業実施による、学修成果の大きな悪化はなかったと判断できる（成績評価基準が同じならば）。

6. まとめ

本報告では、2020 年度入学生に対する学修成果の点検・評価に関する総括を行うとともに、現在進行中の 24 年度カリキュラムにおける学修成果の可視化においてクリアすべき可視化手法の課題点を再確認しました。また 2020 年度入学生が 1～2 年生時のコロナ禍・遠隔授業の影響についても考察しました。これらの結果を以下にまとめます。

1) 今回対象とした 2020 年度入学生は、昨年の 19 生までとカリキュラム・履修モデルが異なるものの、多くの学科専攻における学生の DP ポイントに関する傾向は、これまでとほぼ同様であった。

2) 2020 年度入学生に対するコロナ禍・遠隔授業の影響について考察するにあたり、教養部の精緻な分析が大変に参考になった。1～2 年生時にほとんどが遠隔であった教養科目に関する項目 A～H の 8 項目は成績がほとんどで良くなった。理由としてはテストが課題になったことを挙げているが、極端に成績の良い層が出現したことも興味深い。各学科の専門科目を含めた 4 年生終了時としては大きな影響はなかったとするコメントが多かったが、遠隔授業時に受講していたと思われる低学年時の科目で構成される項番の若い DP では、専門科目でも教養科目と同じく若干上昇する傾向が伺えた。

3) 抽出された 20 カリキュラムの可視化の課題のほとんどは、学位授与方針と履修モデルに基づいて算出した DP ポイントの想定値と学生が獲得した DP ポイントの分布状況の乖離にある。こうした点は 20 カリキュラムでの対応は限界があるため、現在進行中の 24 カリの策定時にカリキュラムマップと履修モデルの設計段階から以下のような再構築が行われた。これにより可視化の課題が解決されることに期待したい。

〈DP ポイントグラフの横軸：DP 項目に関して〉

- 大学の学位授与方針（大項目 DP）と小項目 DP の相関を整理すること。
- 教養と専門科目の小項目 DP に対する貢献度配分を融合すること。
- DP 値が極めて低くなる項目を生じさせないようにするため、これまでより専門科目に関する DP 項目数を絞る。
- 学修ポートフォリオにおけるレーダーチャートとの連携を考慮し、全学科専攻共通で 12 項目とする。

〈DP ポイントグラフの縦軸：あらたな DP ポイント標準目標値に関して〉

- 学修ポートフォリオへの接続を考え、学科専攻内に複数の履修モデルが存在しても、単一の DP ポイントグラフで DP ポイント標準目標値を設定できること。
- 履修モデルが無い教養科目に関しても、DP ポイント標準目標値を設定できること。
- 履修モデルの DP ポイント想定値 500（そのうち主要科目で 200）を DP ポイントの標準目標値の下限とする。

4) 今後は 2027 年度の大学認証評価を意識し、2024 年度より導入された学修ポートフォリオや外部アセスメントテスト（GPS-A など）、さらに学生実態調査などを活用し、本報告における正課授業成績による学修成果の可視化以外の点検・評価方法も検討していければと考える。

-以上-

（参考 日本高等教育評価機構 第 4 期評価基準 基準 4. 教育課程 4-3.学修成果の把握・評価 ）

日本高等教育評価機構 第 4 期 評価基準

基準 4.教育課程

趣旨

大学の機能の中核である学修の柱となるのは教育課程です。大学は、その使命・目的を踏まえて、学部・学科・研究科などごとの教育研究上の目的を明確に定めるとともに、これを達成するための方策として、三つのポリシーを定めることが必要になります。その上で、単位授与や卒業・修了の認定基準を定めて、これを厳正に運用するとともに、教育課程の編成と実施に反映させる必要があります。また、教授方法の工夫や学修成果の把握・評価結果のフィードバックを通じて、大学の教育を可視化し、外部からの評価を受けながら、更なる教育課程、教育内容・方法及び学修指導などの改善を不断に図っていくことが、教育の質を高めるために不可欠なことです。

4-3.学修成果の把握・評価

①三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用

□三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。

□学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、卒業時の満足度調査、就職先の企業アンケートなどを実施し、大学が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて学修成果を把握・評価しているか。

②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック

□学修成果の把握・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。

3. 2 各学科専攻のDP一覧

機械工学科

1. 機械工学の専門分野の基礎的な理論・概念に関する知識を身につけている。
2. 機械工学の専門分野の高度な理論・概念に関する知識を身につけている。
3. 機械工学の専門分野の方法論に関する知識を身につけている。
4. 機械工学の専門分野の情報・データを理論的に分析し、問題解決のために応用できる。
5. 自由な発想のもと、新たな知見を想像する力が備わっている。
6. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用する力が備わっている。

機械システム工学科

1. 工学の基礎となる数学、力学などを通して、機械工学の諸現象を論理的に考察し理解する能力を身につけている。
2. 実社会で活躍しているエネルギーシステム、航空宇宙システム、自動車システム、ロボットシステムなどを学習し、幅広い機械システム技術を理解する能力を身につけている。
3. 機械システムやロボットシステムの設計・解析・生産などのものづくり技術を学習し、これらをコンピュータを応用して行うための技術を理解する能力を身につけている。
4. エレクトロニクスの知識を持ち、メカトロニクス機器の開発技術を理解する能力を身につけている。
5. コンピュータのプログラムによる機械制御技術を理解する能力を身につけている。
6. 広い視野に立って課題を自ら発見し、実験、実習などの実践を通じて、これらの工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につけている。
7. 技術者として工学の諸分野に対する興味関心と主体的に目標を定めて行動する力を持ち、また、コミュニケーションを通じて他者と協働する力を身につけている。
8. ものづくり産業に必要な文化・社会に関する一般的知識を身につけ、これらを活用するための技術を理解する能力を身につけている。

電気電子工学科

1. 基礎学力としての数学を身に付け、電気電子工学分野に応用できる。
2. 電気電子工学分野の基幹科目に関する知識を身に付けている。
3. 実験や設計・演習を通じて専門分野の知識に関する理解を深めるとともに、課題探求能力を身に付けている。
4. 現代社会を支える電気エネルギーの発生から利用までを理解している。
5. 電気エネルギーの利用や供給の分野で、装置、機械器具等の設計や開発を行うことができる。
6. ロボット、電気自動車、電気エネルギー分野に利用されているパワーエレクトロニクス及びコンピュータ制御技術について理解している。
7. コンピュータのプログラミングと電子回路設計・製作ができる。
8. 材料の物性及びデバイスの動作原理を理解している。
9. エレクトロニクス用デバイスの機能とその応用における基礎技術を理解している。
10. 課題解決のために、実験を計画・実行し、解析・考察し、自分の論点や考え方についてわかり易く、論理的に発表できる。
11. 電気電子工学における先端技術に興味・関心を持ち、その本質を見極めることができる。

建築学科 建築専攻

1. 荷重や、建築物がそれを支える仕組みを理解し、地震などの自然界の脅威に抵抗し、機能の保全と安全性の確保を満たしうる設計ができる。
2. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を考えることができる。
3. 建築の設計を理解し、必要な知識体系を身につけている。
4. 建築造形の基礎を身に付け、建築デザインの論理を理解している。さらに文化遺産としての建築の価値を歴

史的背景と共に理解している。

5. 快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用できる。
6. 持続可能な社会システムのあり方を理解し、環境負荷の低減や、時間軸を考慮した付加価値の創出、建築文化の継承を行うための手法を身につけている。
7. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組むことができる。
8. 状況に応じて知識を多角的に展開させることができる。
9. 技術的課題に対して誠実かつ真筆な態度で臨むことができる。
10. 地域社会のなかで信頼を得ながら技術を適用していくことができる。

建築学科 インテリアデザイン専攻

1. 力に対して必要な強度を有する安定した構造の仕組みや形を理解し、空間を構成する要素の機能や安全性を確保できる。
2. 材料の性質を理解し、地球環境に配慮した建築物の品質・耐久性・経済性を満足する適切な材料の選択および施工方法を考えることができる。
3. インテリアの設計を理解し、必要な知識体系を身につけている。
4. 室内造形の基礎を身に付け、建築デザインの論理を理解している。さらに文化遺産としての建築の価値を歴史的背景と共に理解している。
5. 快適な環境作りと環境問題への対処のために、建築環境工学諸分野の原理と実践を理解し、あわせて建築設備を適切に活用できる。
6. 諸技術を総合し、情熱をもって「ものづくり」に取り組むことができる。
7. 状況に応じて知識を多角的に展開させることができる。
8. 技術的課題に対して誠実かつ真筆な態度で臨むことができる。

建築学科 土木・環境専攻

1. 社会基盤に携わる技術者として必要な土木の3つの力学（構造・水理・土質）の基礎を身につけている。
2. 社会基盤整備の計画・調査・設計・施工等に必要となる主要分野に関する専門知識を身につけている。
3. 実験・測量等調査におけるデータを正確に分析し、論理的に考察することができる。
4. 技術者に必要となる汎用的な情報処理能力に加え、社会基盤整備の実践に関わる情報活用能力を身につけている。
5. 多様で複雑な状況を、確かな教養と専門知識に基づいて正しく整理するとともに、倫理観を持ち主体的に思考することで、都市基盤整備における新たな提案・価値を創造することができる。

建築学科 かおりデザイン専攻

1. 嗅覚の特性に関する知識があり、基本的なにおい・かおりの測定・評価ができる。
2. におい・かおりの特性に関する知識があり、有効な臭気対策が提案できる。
3. におい・かおりの化学、香料の成分に関する知識があり、かおりの特性を踏まえた適切なかおりを調香できる。
4. におい・かおりの特性、人とかおりの関係に関する基礎知識があり、その時々で適切なかおりを選定し、活用方法を提案できる。
5. 生活環境要素に関する基礎知識があり、におい・かおりの要素を取り入れた快適な生活環境を創造できる。
6. 論点を的確に捉え、必要な調査・実験データ、情報を収集し、そのデータを理論的に分析し、課題を解決することができる。客観的なデータに基づく自らの考えを分かりやすく伝えることができる。

情報システム学科

1. 情報学分野における基礎理論を理解し自らの問題に応用できる。
2. 情報学分野の専門知識と理論を理解し他者と深く議論できる。

3. 実験・実習を通して理論と現象を結びつけて分析・理解・説明できる。
4. 課題解決に必要なツールを探索し使いこなし自らのスキルを向上できる。
5. 研究的活動も含め、実験・実習を通して問題発見・課題解決できる。

情報デザイン学科

1. 主体的な学びの態度が備わり、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、他者と協調・協働して、目標実現のために積極的に行動できる。
2. 形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料、製作法など広くデザインに関する知識を身につけており、的確な分析・評価により、理解を行動に活かせる。
3. 豊かな感性および論理性により、状況に応じて適切に企画、発案ができ、効果的に創作ができる。
4. グラフィック、サウンド、映像、CAD などのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟しており、実践的な表現・制作ができる。

総合情報学科

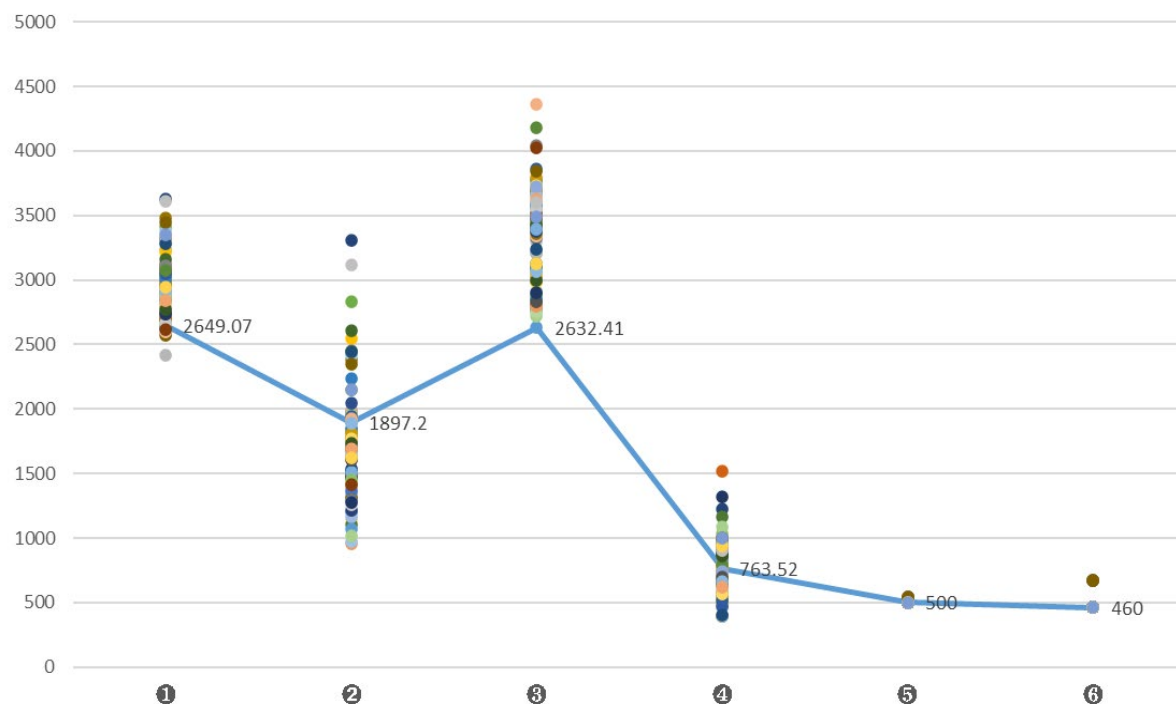
1. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。
2. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
3. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。
4. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
5. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。
6. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

教養部 （※8. については工学部のみ）

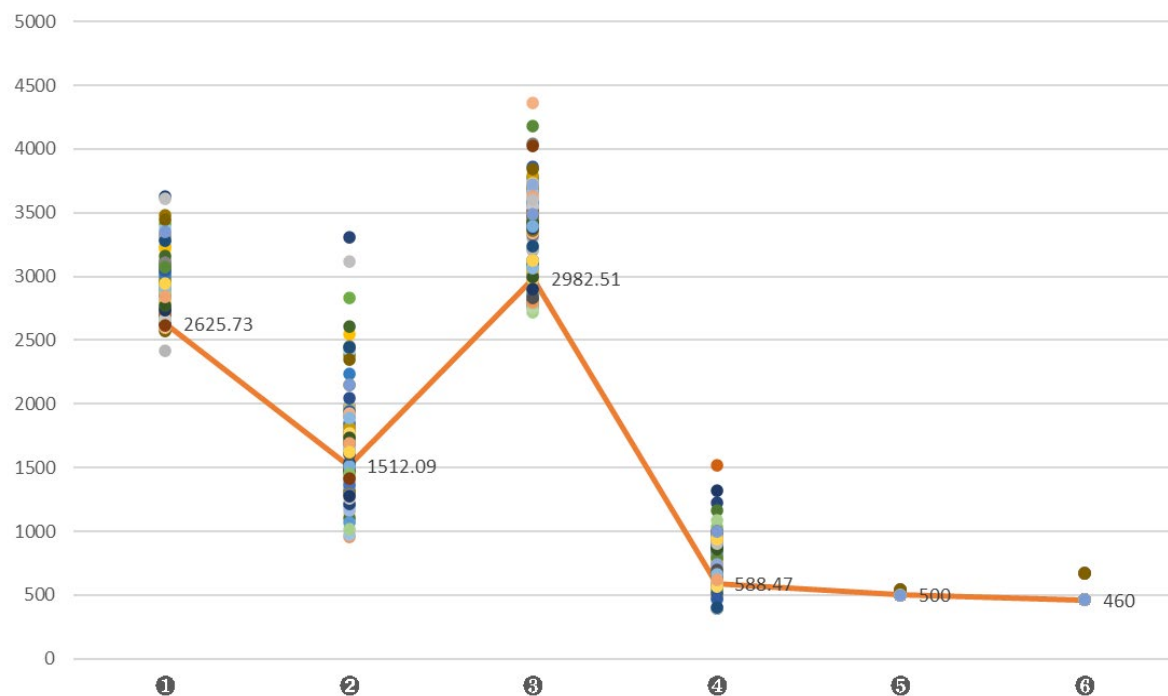
1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 工学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。※

3. 3 各学科専攻の2020年度入学生のDPポイントグラフ

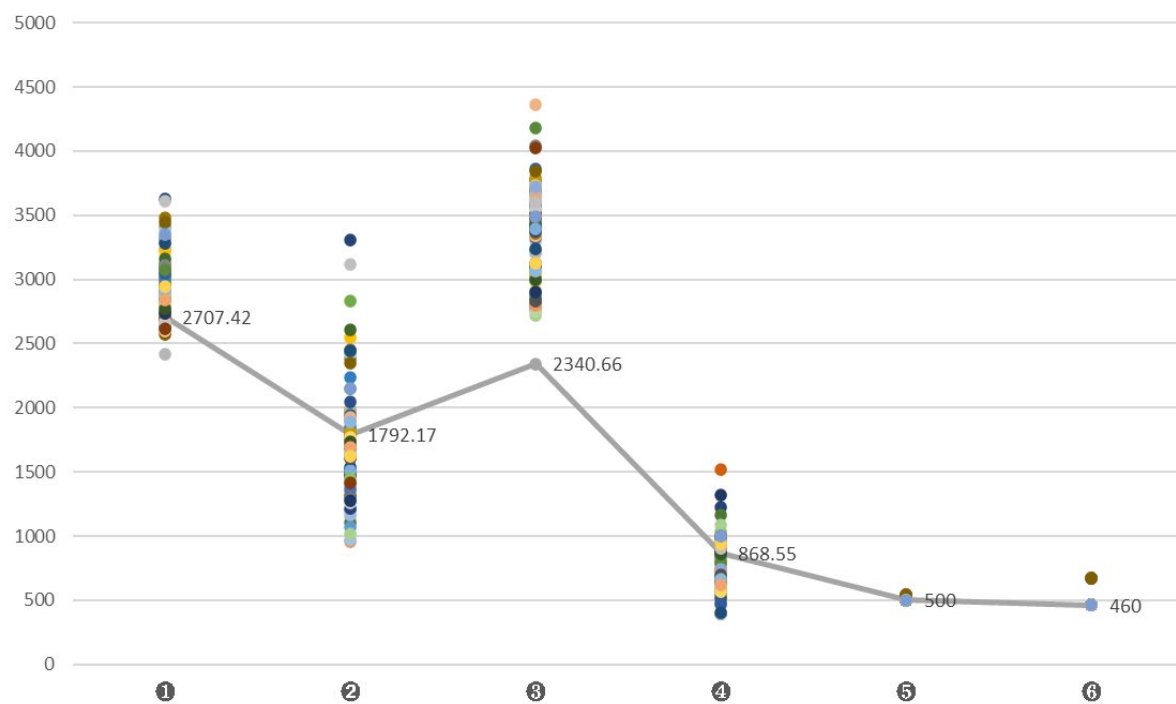
・機械工学科 履修モデル A



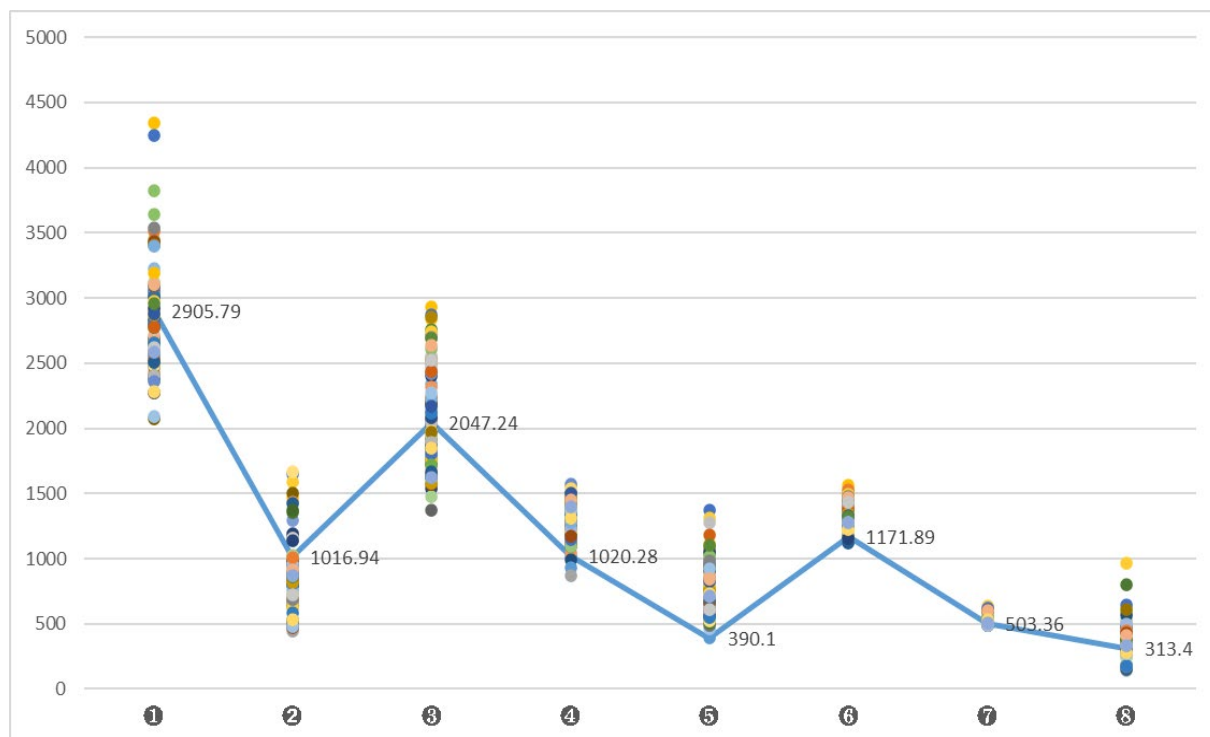
・機械工学科 履修モデル B



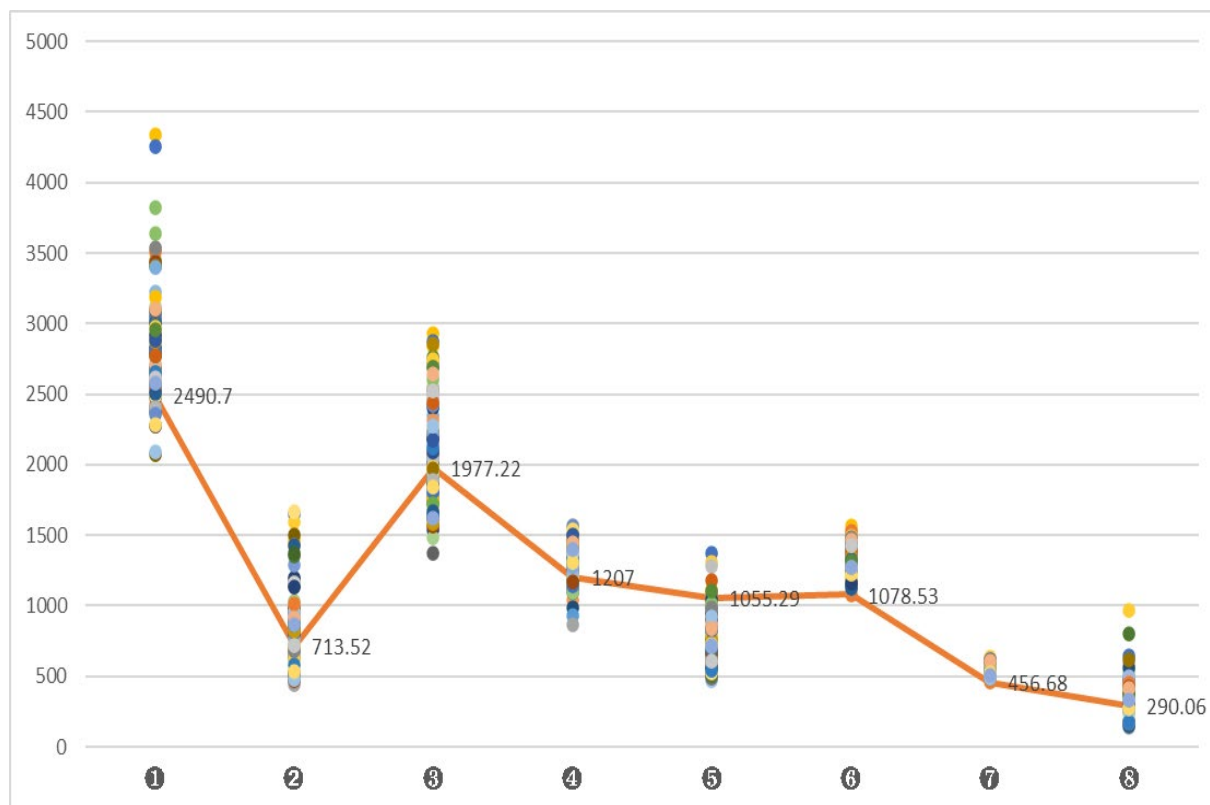
・機械工学科 履修モデルC



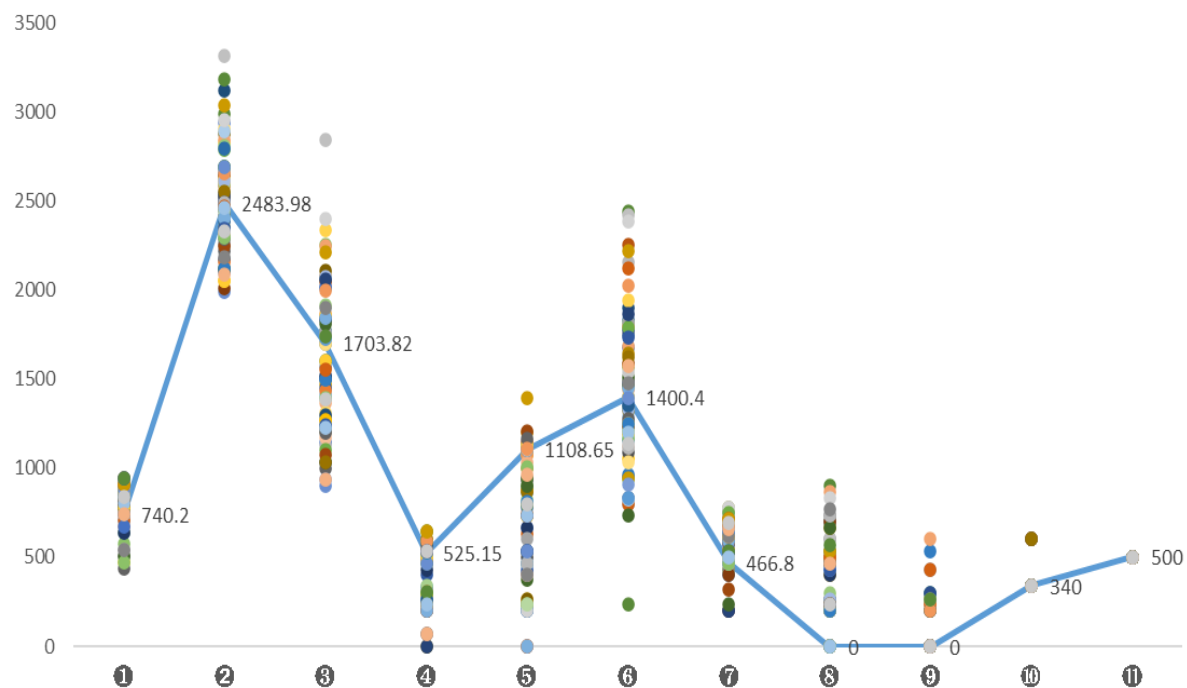
・機械システム工学科 履修モデル A



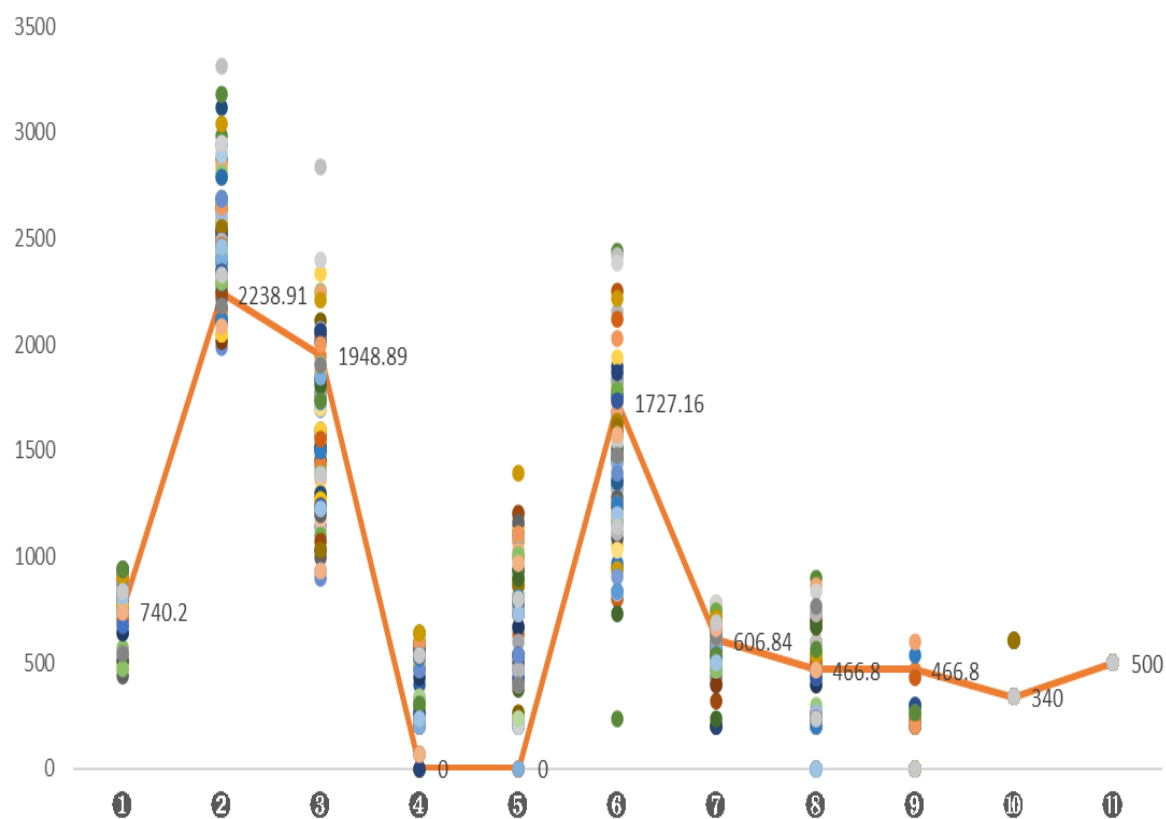
・機械システム工学科 履修モデル B



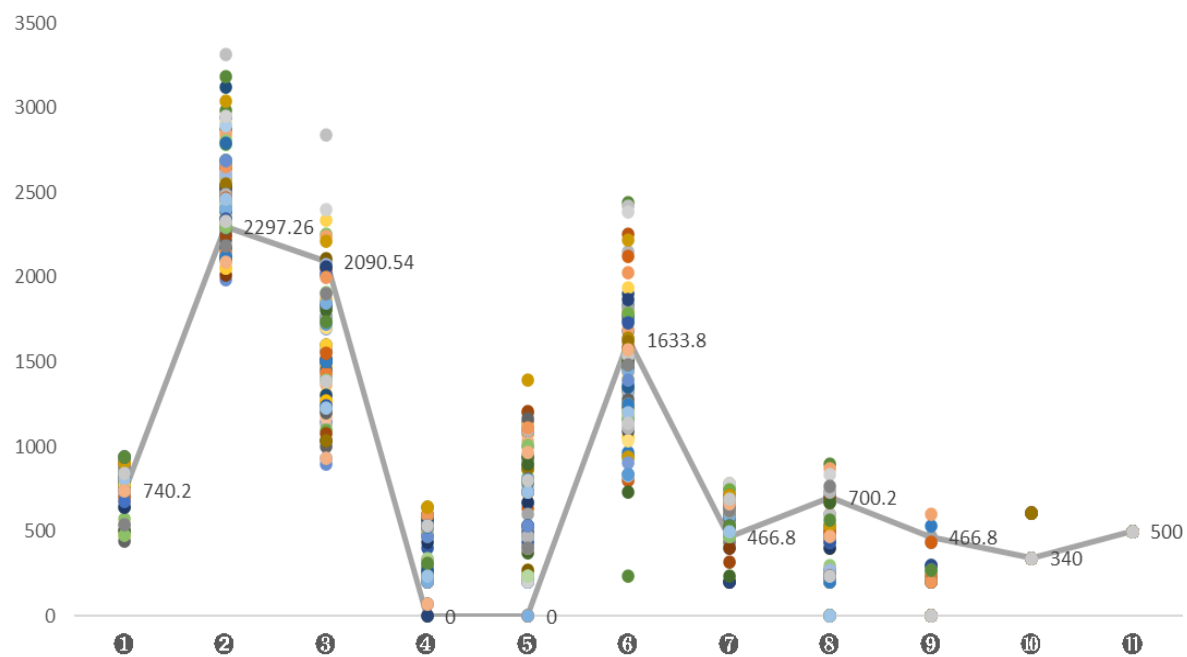
・電気電子工学科 履修モデル A



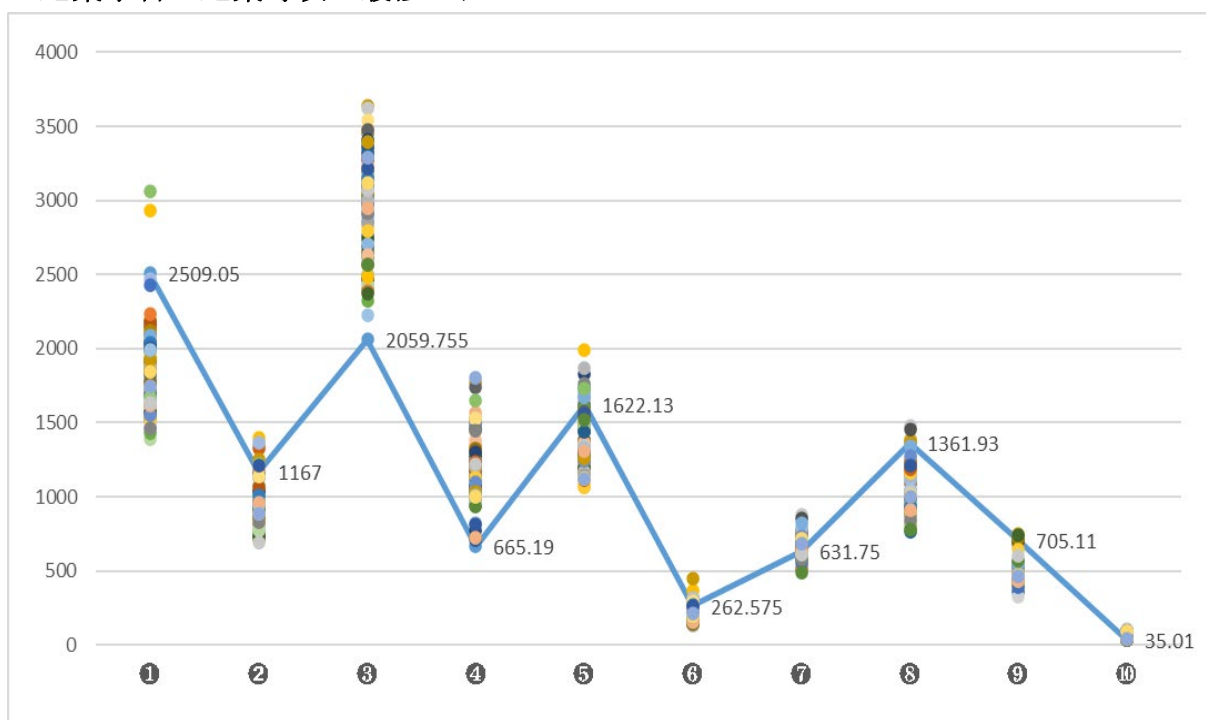
・電気電子工学科 履修モデル B



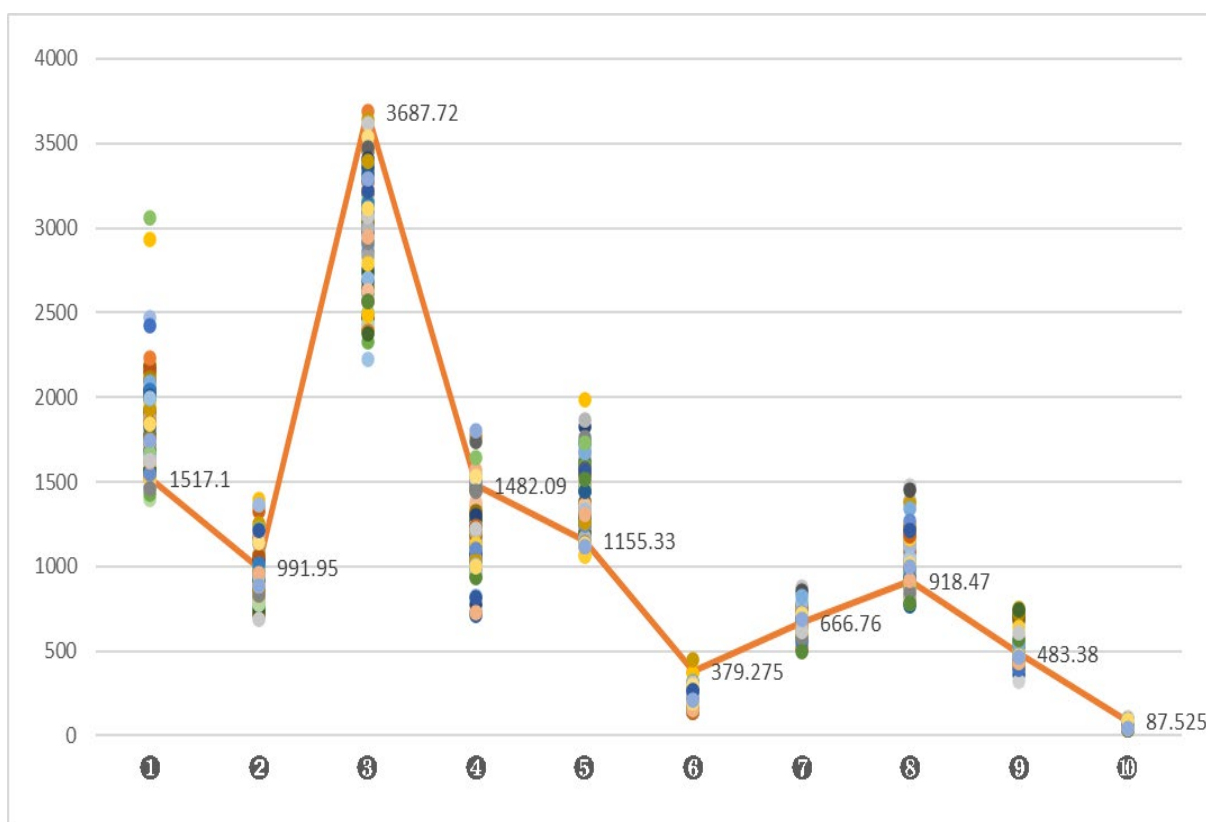
・電気電子工学科 履修モデルC



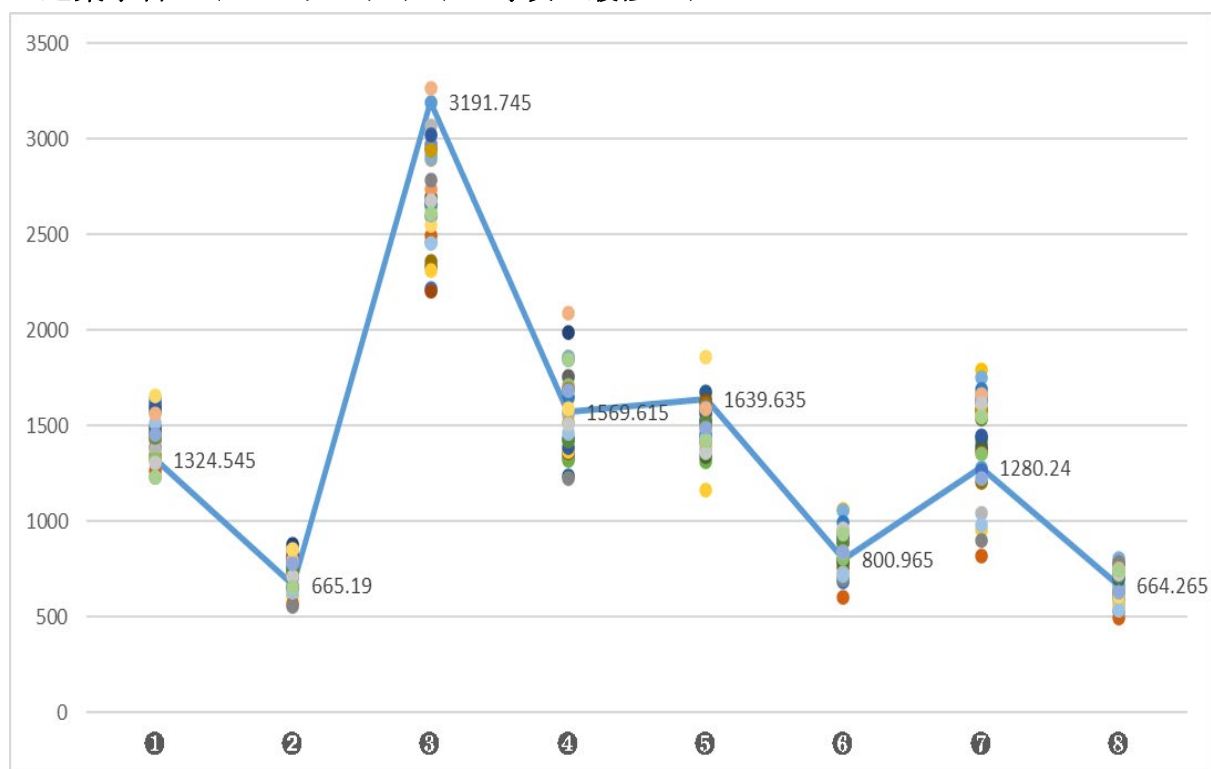
・ 建築学科 建築専攻 履修モデル A



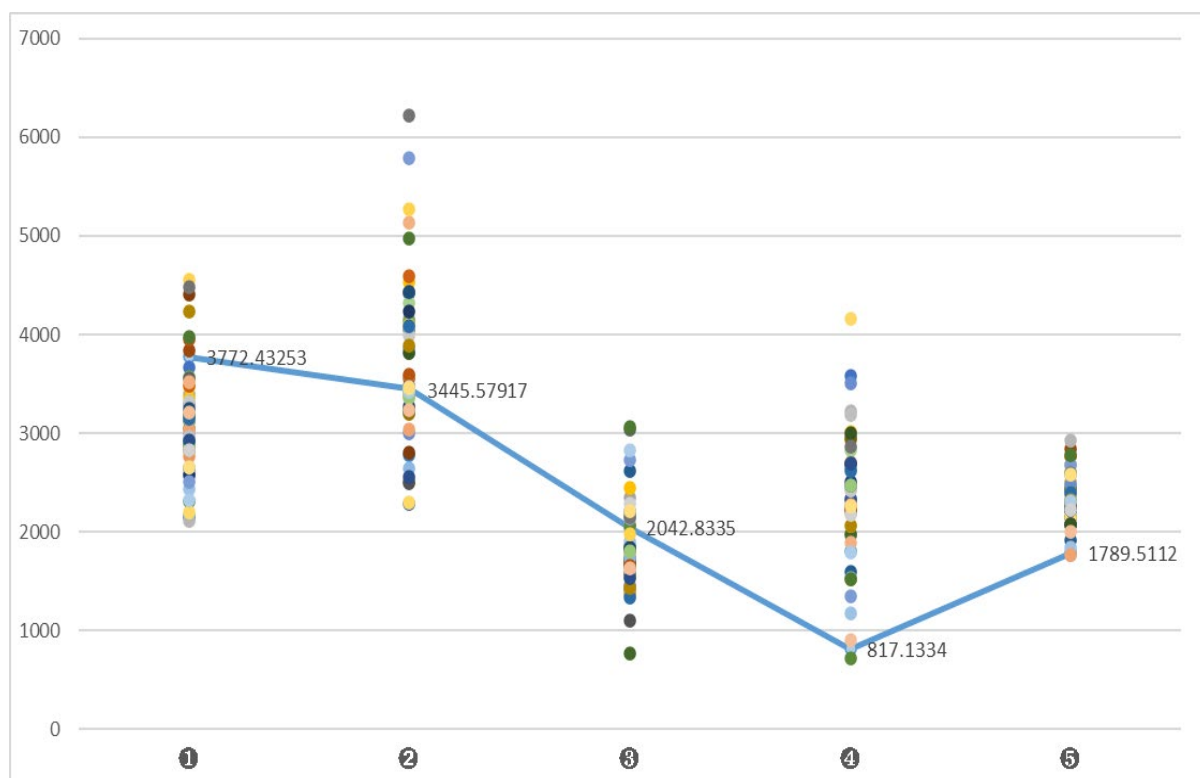
・ 建築学科 建築専攻 履修モデル B



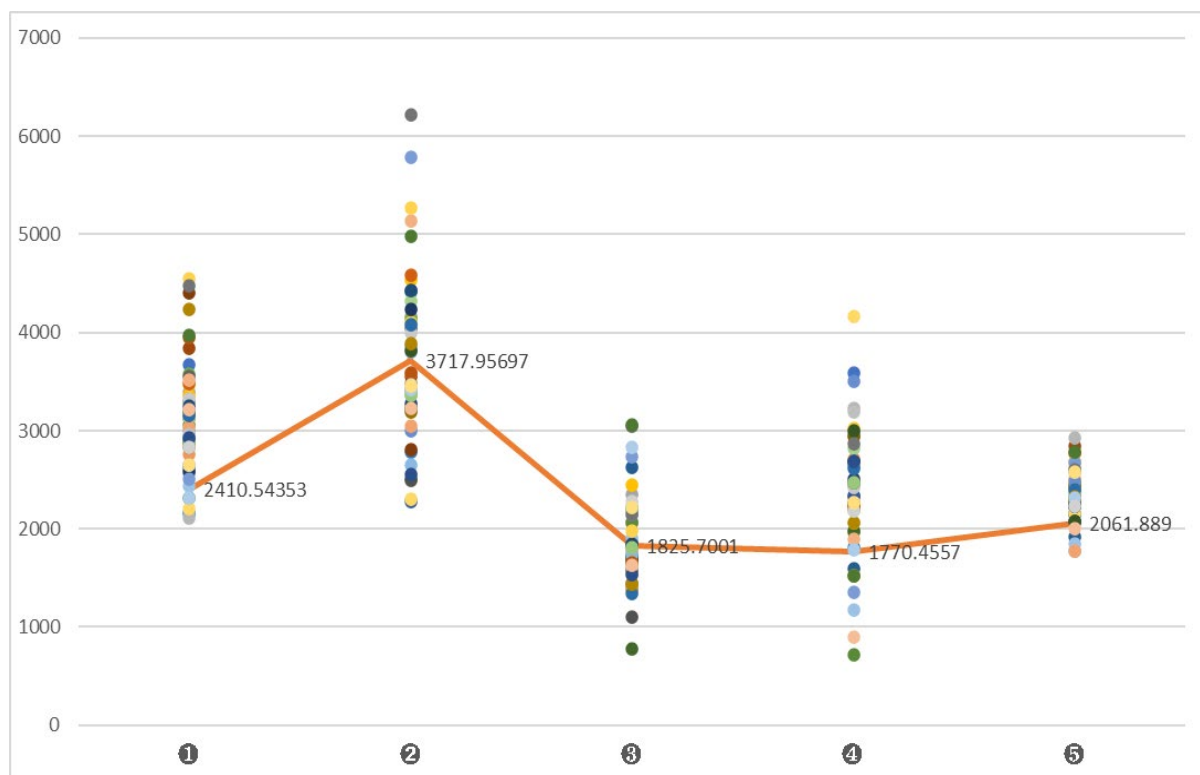
・ 建築学科 インテリアデザイン専攻 履修モデル A



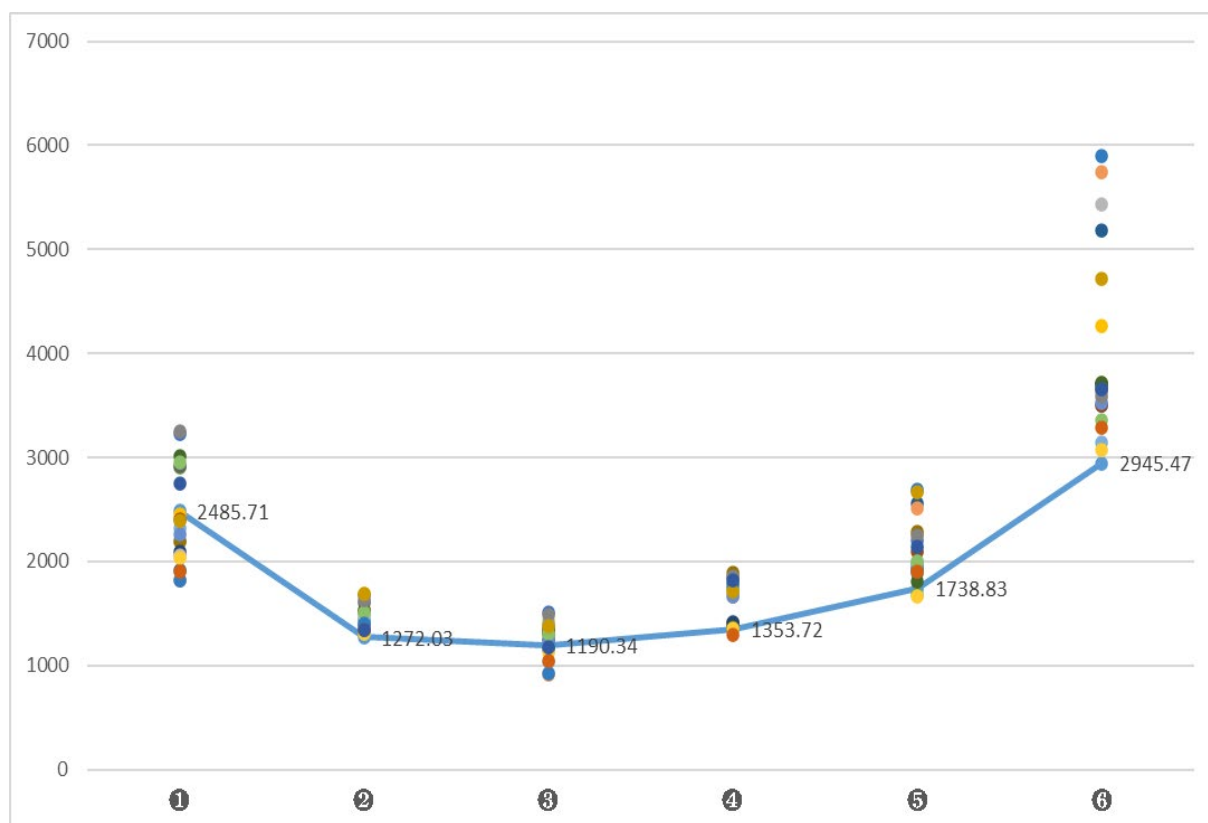
・建築学科 土木・環境専攻 履修モデル A



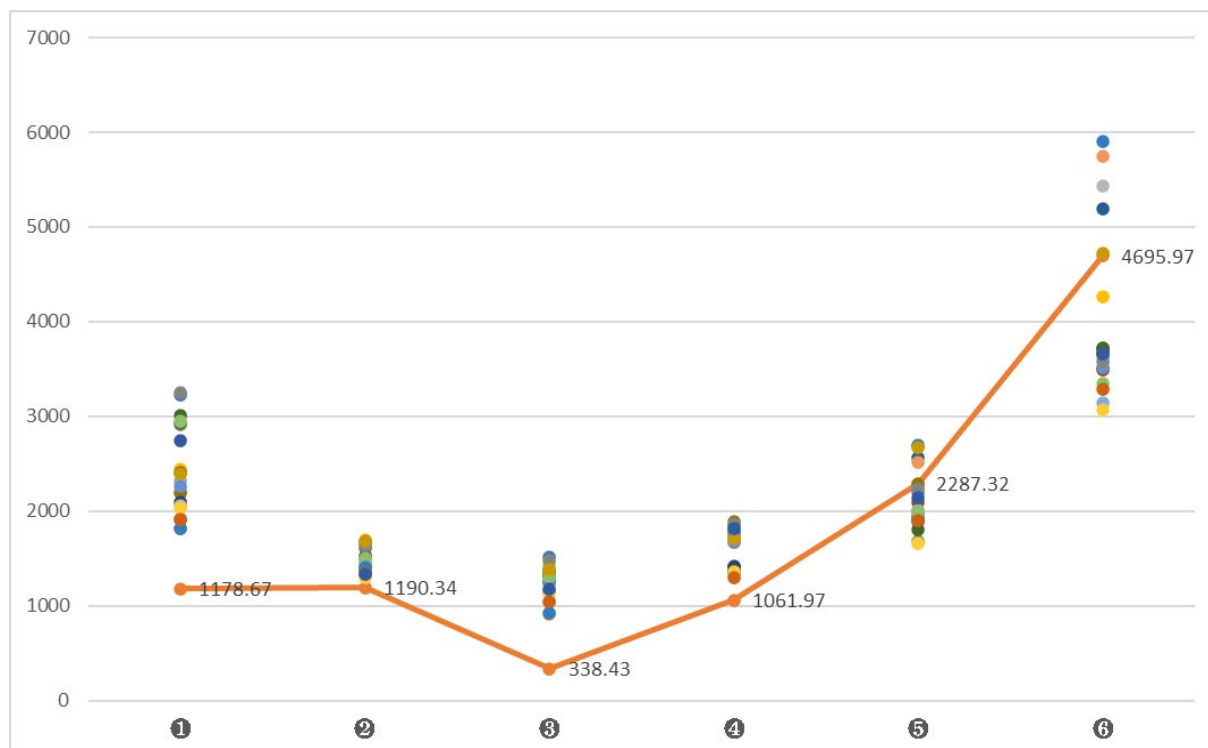
・建築学科 土木・環境専攻 履修モデル B



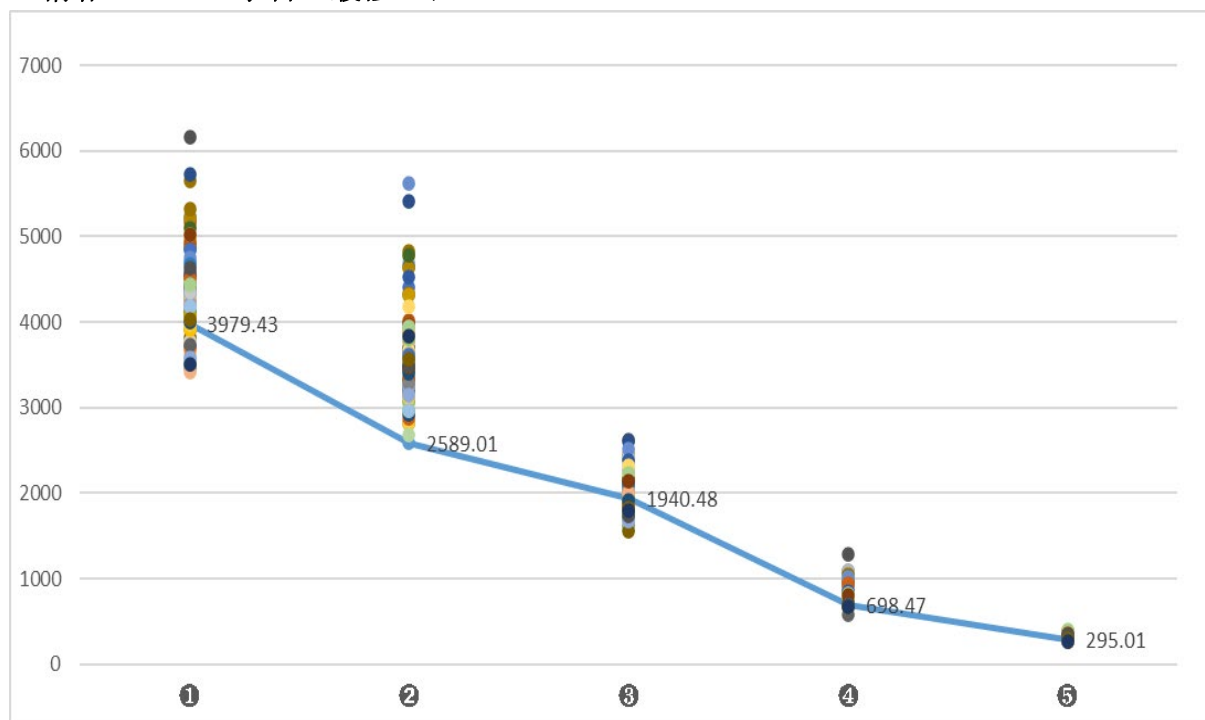
・建築学科 かおりデザイン専攻 履修モデル A



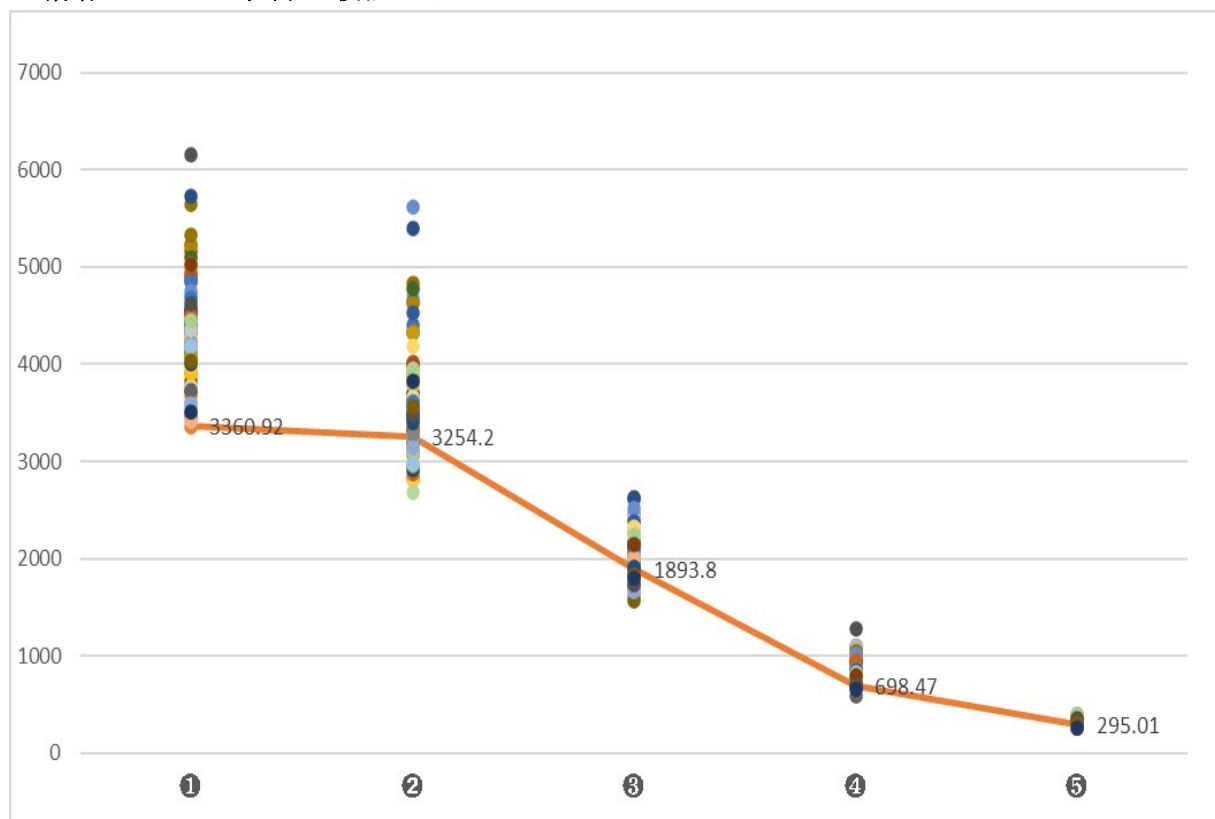
・建築学科 かおりデザイン専攻 履修モデル B



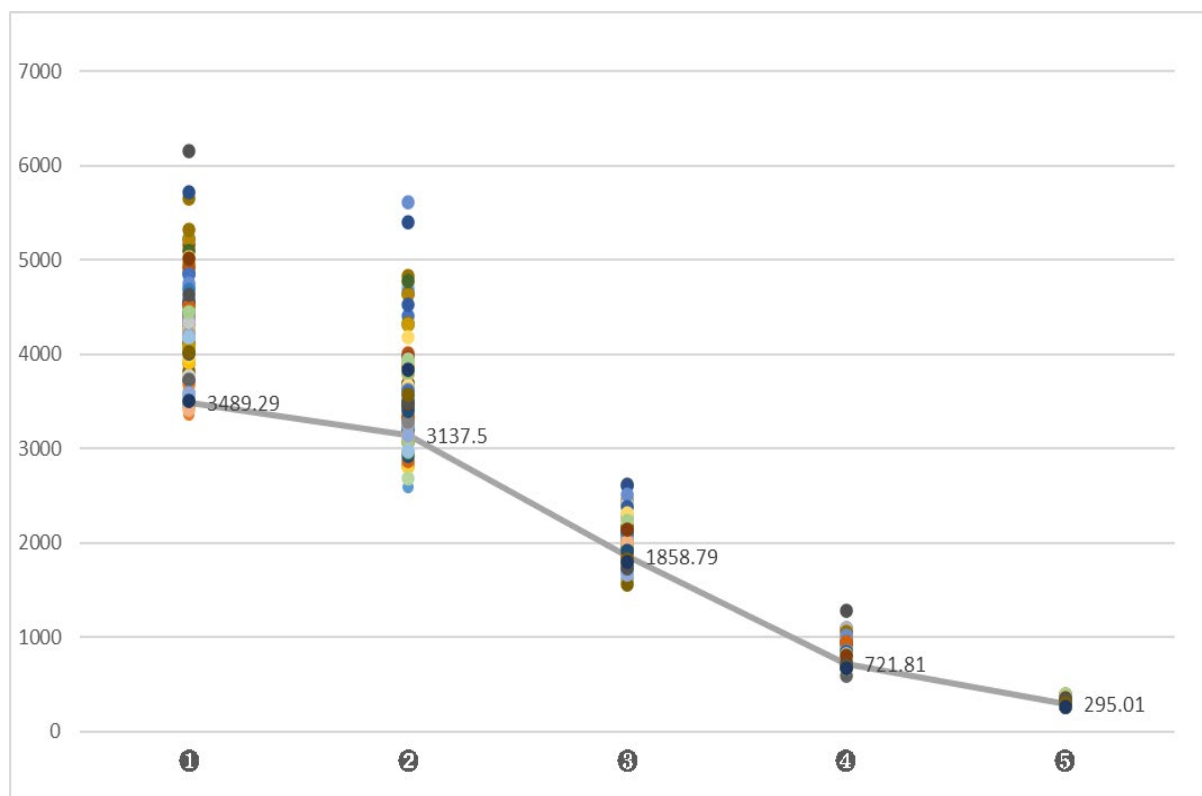
・情報システム学科 履修モデル A



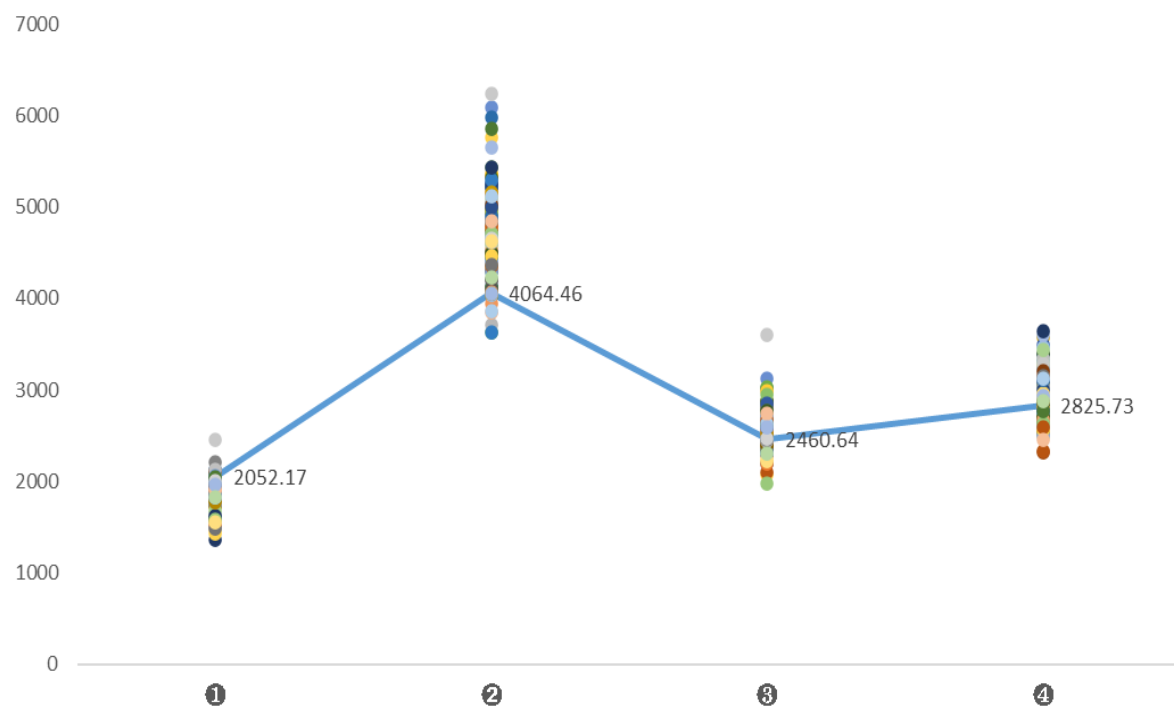
・情報システム学科 履修モデル B



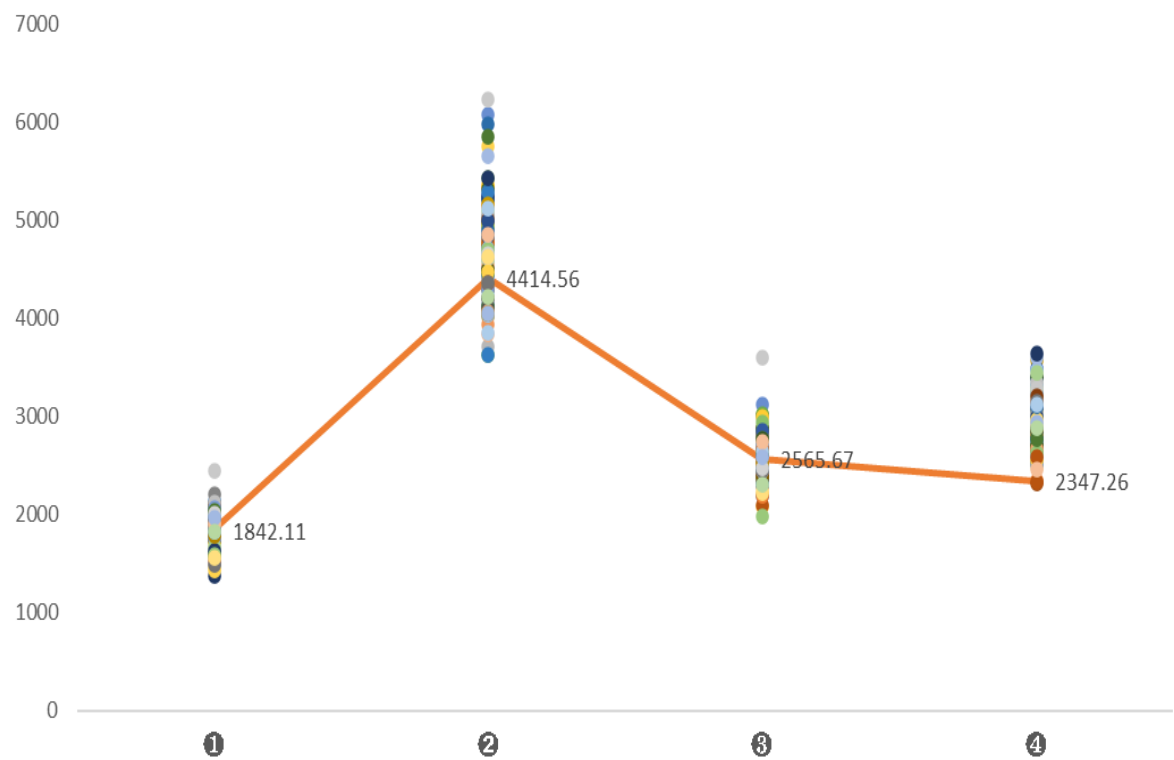
・情報システム学科 履修モデルC



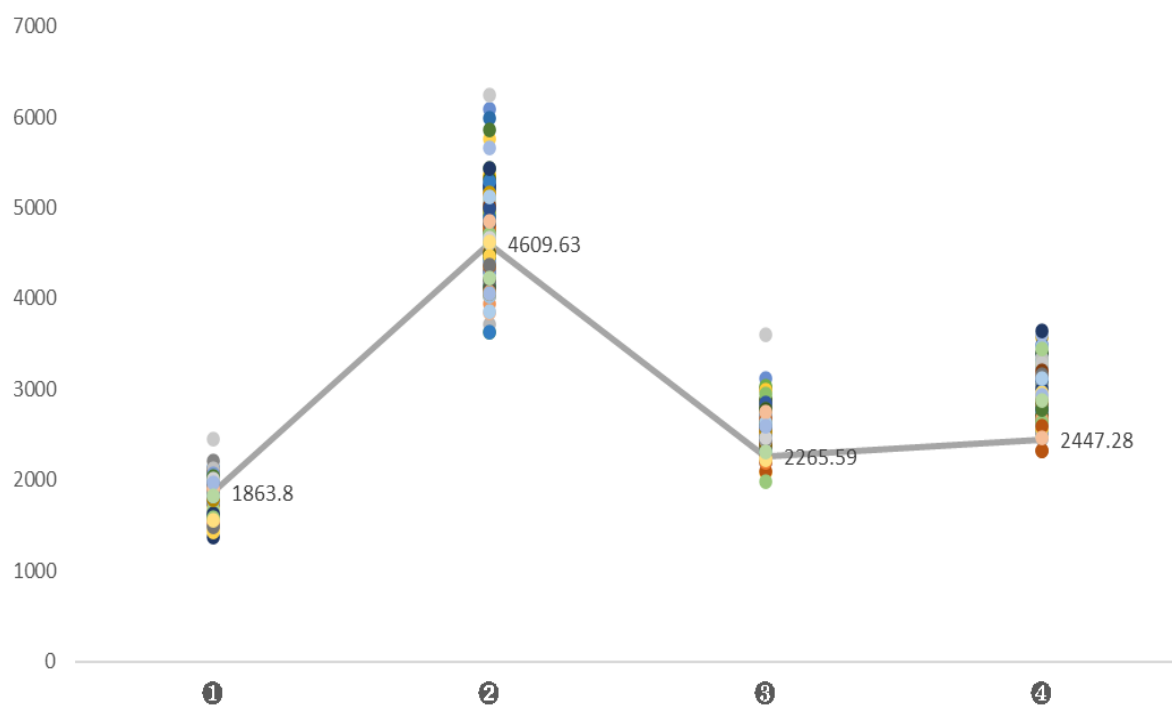
・情報デザイン学科 履修モデル A



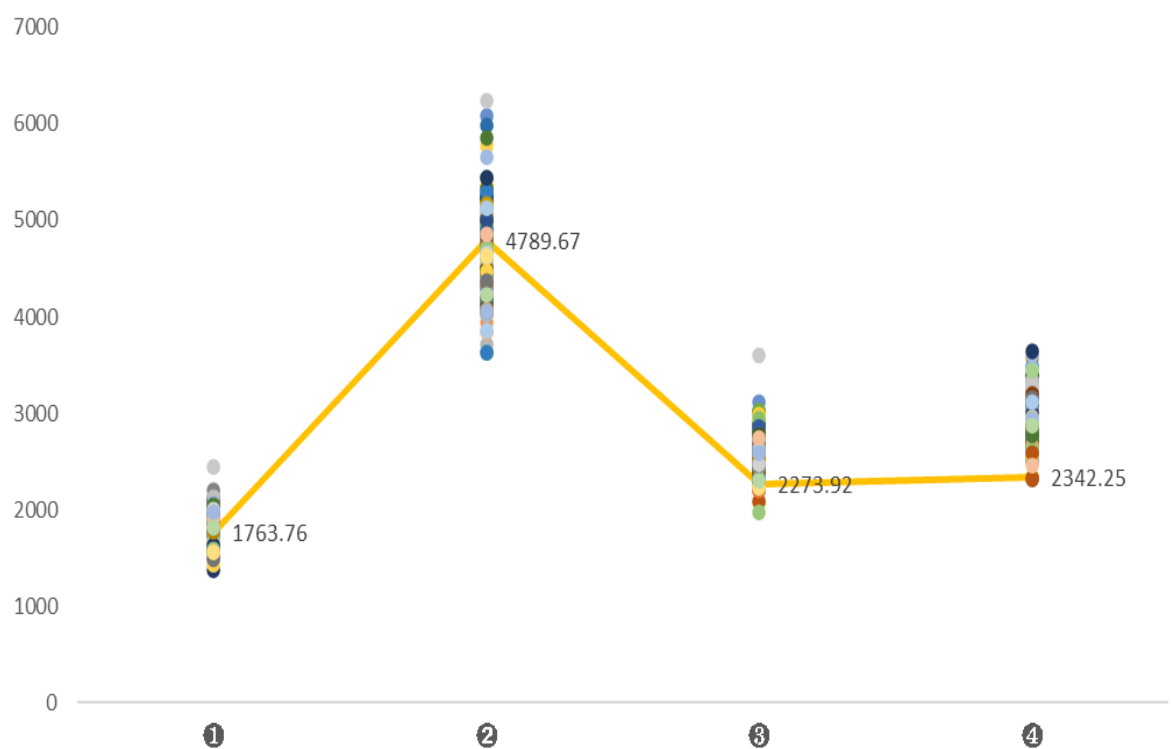
・情報デザイン学科 履修モデル B



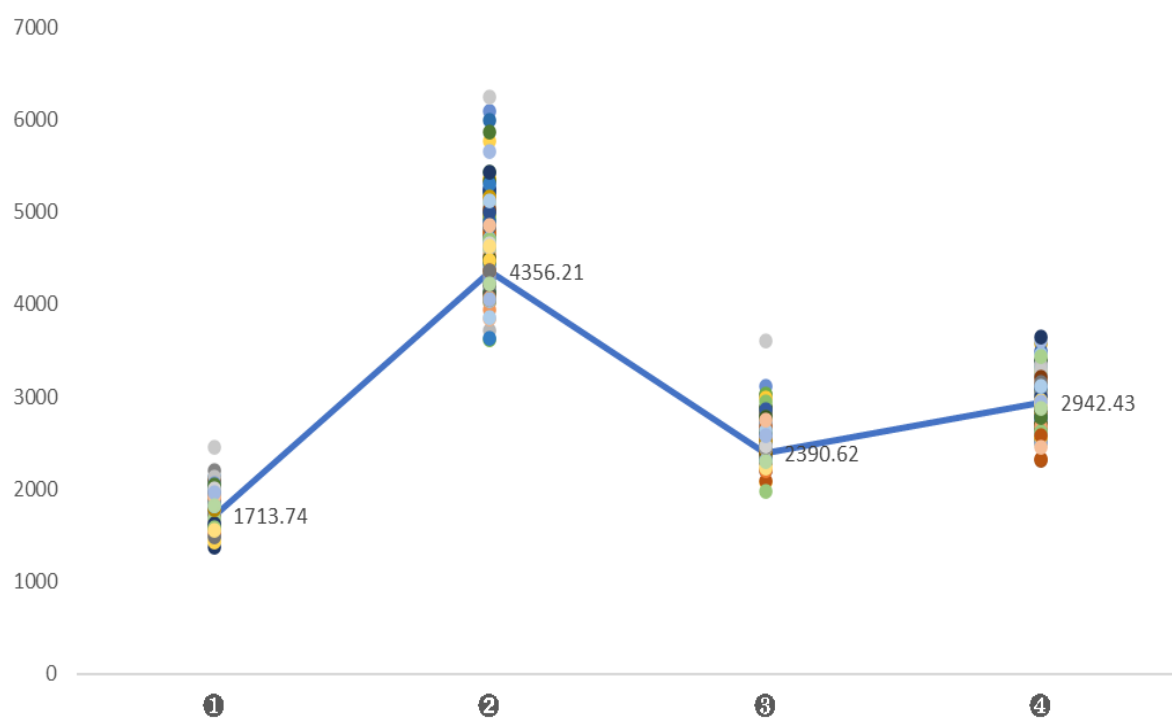
・情報デザイン学科 履修モデルC



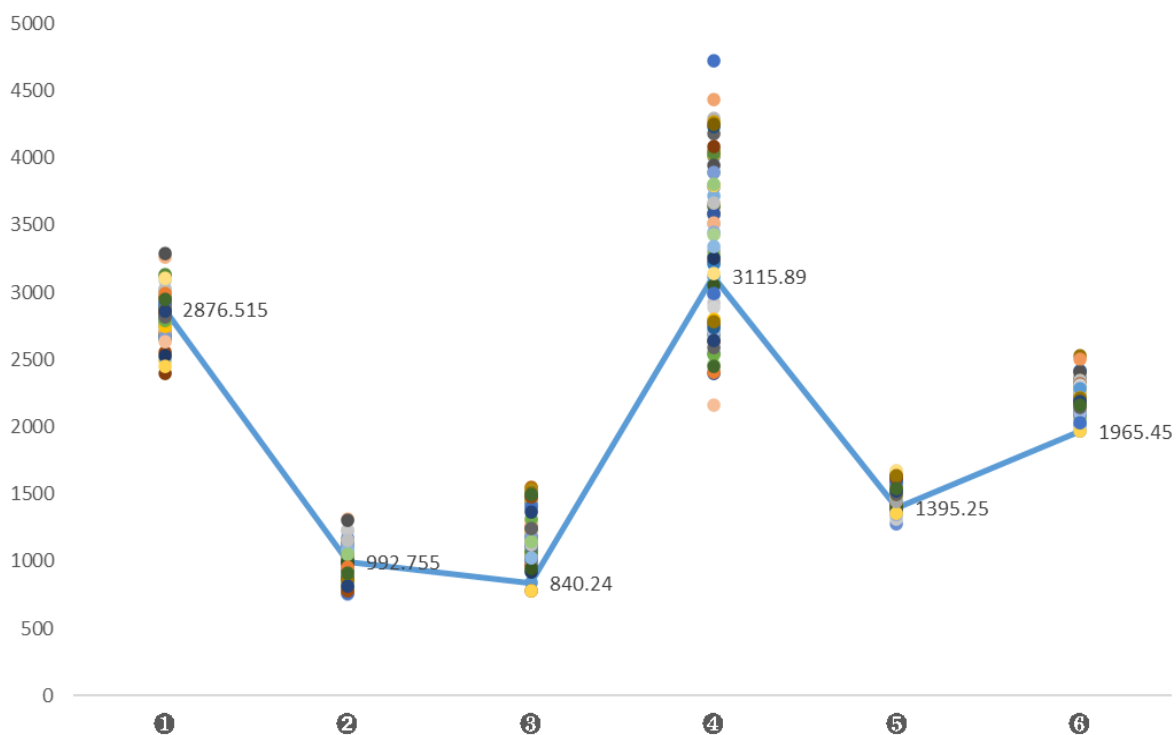
・情報デザイン学科 履修モデルD



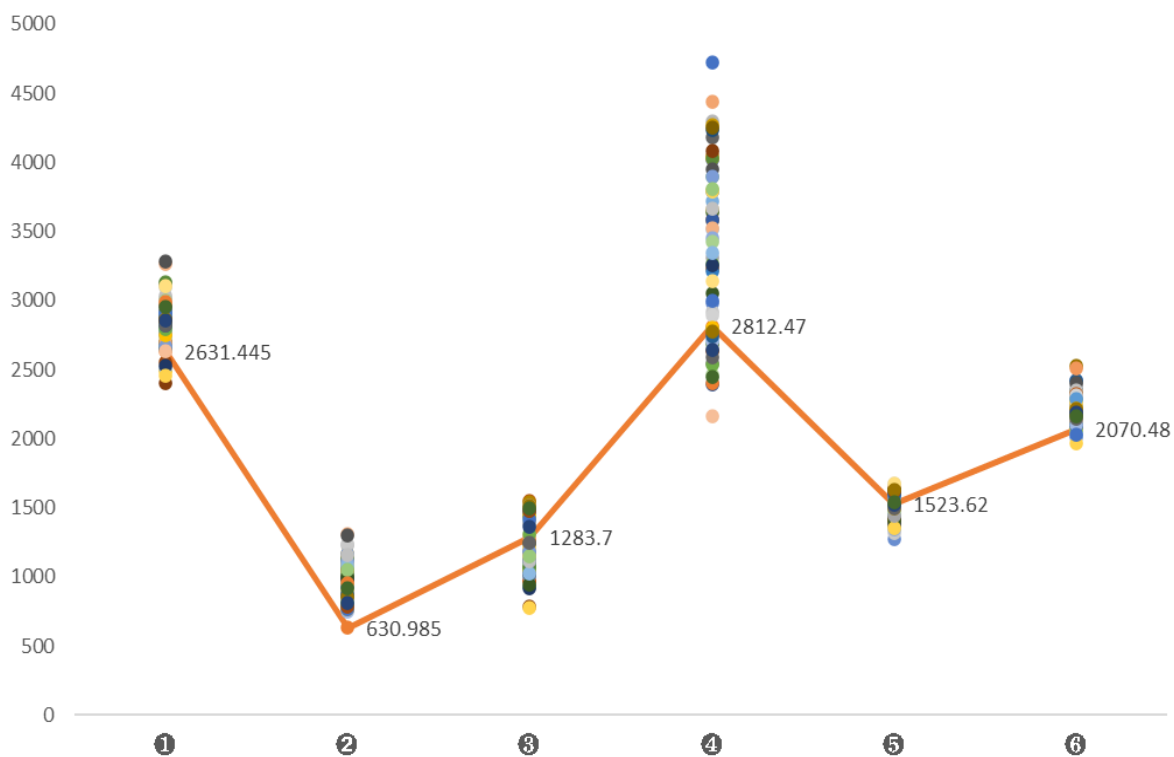
・情報デザイン学科 履修モデルE



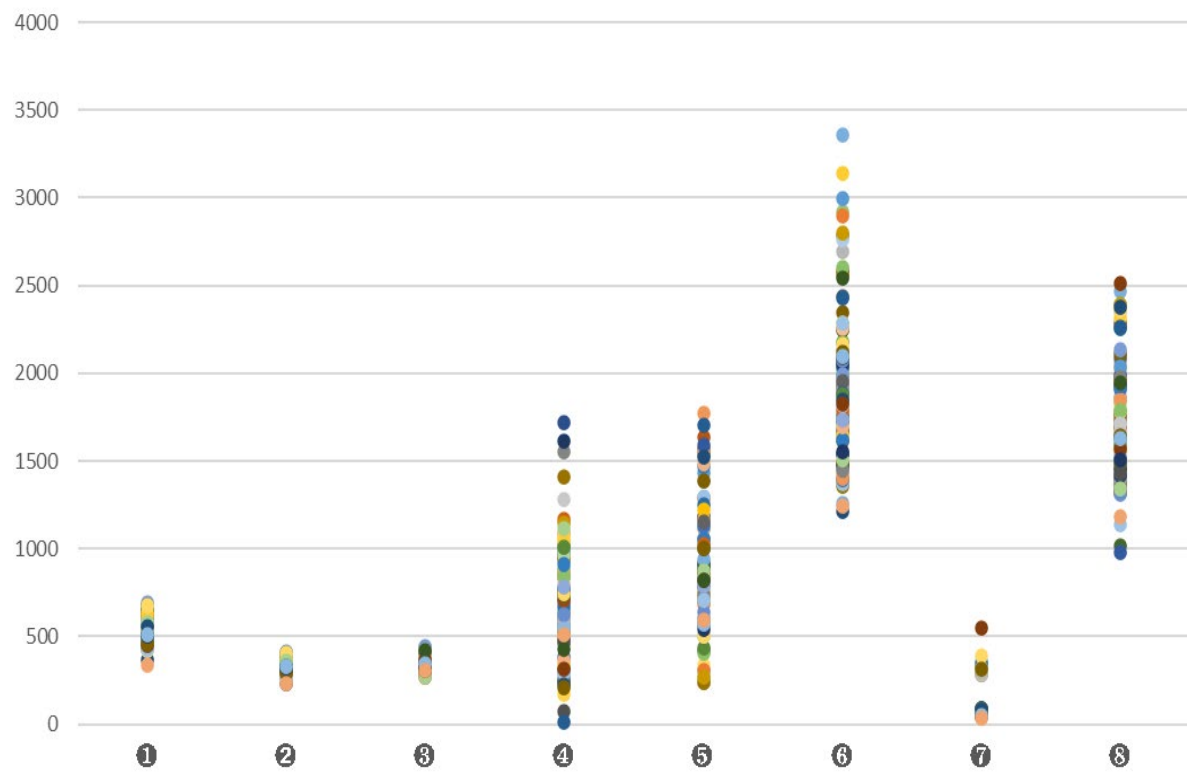
・総合情報学科 履修モデル A（経営）



・総合情報学科 履修モデル B（スポーツ）



教養部



第4章 外部アセスメントテスト (GPS-A)

4. 1 外部アセスメントテスト（GPS-A）の分析結果報告

外部アセスメントテスト（GPS-A）の分析結果報告

大学評価委員会
委員長 棚橋 秀行

1. GPS-A の実施状況

本学が外部アセスメントテストに位置付ける「GPS-A」は、当初は、キャリア教育の一環として、入学直後の新入生の就職観向上を目的としており、2020 年度入学生から開始した。受検方法は、1 年生 4 月のキャリアガイダンス内でアナウンスし、受検期間内に自宅受検としていた。2021 年度より、学修成果の可視化の観点から、外部アセスメントテストとしての目的も加え、1 年生 4 月および 3 年生 9 月の複数回の受検を課し、経年変化の測定を開始した。さらに、2024 年度からは、実施指示を 1 年生は新入生オリエンテーション内で、3 年生は新 3 年生に進級直前の前期履修ガイダンス内に対面方式での実施としたことにより、受験率が大幅に向上した。特に、これまで 4 割程度に留まっていた 3 年生の受検率は、86.8% と大幅に改善され、全国的にみても高い受検率となった。

表 1 GPS-A 実施状況

実施期間	対象	実施指示	受検者数	受検率
2024 年 4 月 3 日 ～4 月 12 日	24 生入学時 827 名	新入生オリエンテーション時	824 名	99.6%
2024 年 3 月 27 日 ～4 月 12 日	22 生 3 年進級時 937 名	前期履修ガイダンス時	813 名	86.8%
2022 年 4 月 4 日 ～4 月 22 日	22 生入学時 975 名	新入生キャリアガイダンス時	892 名	91.5%

次ページの「GPS-A の分析表」に以下のとおり GPS-A の結果データの評価をまとめた。

表タイトル	GPS-A 分析表	比較対象	
分析表 A	各学科・専攻【入学時スコア】比較	24 生	22 生
分析表 B	各学科・専攻【22 生】経年比較	入学時	3 年進級時

※表中の参加大学平均スコアは、GPS-A を導入している参加大学の全受検者の平均スコアを示す。

※24 生入学時スコアにおける全受検者の平均は、前年度の平均スコアを用いている。

2. 考察-

○傾向 1

24 生と 22 生の入学時における全体のスコア比較では、すべての項目において、24 生が 22 生のスコアを下回っている。

○傾向 2

入学時スコアと 3 年進級時スコアの比較では、3 年進級時のスコアが入学時のスコアを上回っていることが望ましい。しかし、本学 22 生の経年比較では、3 年進級時のスコアが入学時を下回っている。参加大学の全受検者の平均スコアにおいても低下している項目がみられるが、本学のスコアの低下幅は、参加大学の全受検者の平均の低下幅より大きくなっている。

参考に、株式会社ベネッセ i キャリアによる、本学の集計結果抜粋を添付する。

4. 2 GPS-Aの分析表

GPS-Aの分析表（A表）

評価
S 58以上
A 52以上～58未満
B 47以上～52未満
C 41以上～47未満
D 41未満

※2023年度基準による

2024年度生（入学時スコア）																										
関連DP		測定内容	参加大学平均		大同大学 24生入学時																					
			23生入学時		機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		都市空間インフラ		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体	
			スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価
a 主体性	a 協働性	レジリエンス	48.1	B	48.5	B	48.7	B	47.5	B	49.1	B	47.0	B	49.6	B	51.8	B	47.0	B	46.9	C	47.4	B	48.0	B
		リーダーシップ	47.2	B	45.4	C	45.3	C	43.9	C	49.0	B	45.1	C	46.3	C	46.1	C	43.2	C	45.1	C	46.2	C	45.3	C
a 主体性	a 協働性	コラボレーション	49.8	B	49.8	B	49.0	B	48.2	B	51.8	B	49.0	B	50.4	B	50.5	B	48.5	B	47.1	B	49.7	B	49.1	B
		自己管理	54.4	A	48.4	B	47.7	B	46.9	C	54.2	A	51.5	B	49.4	B	44.9	C	47.3	B	48.0	B	50.0	B	48.7	B
a 主体性	a 協働性	対人関係	60.2	S	56.0	A	57.1	A	54.9	A	62.2	S	58.8	S	54.1	A	52.4	A	56.7	A	56.2	A	58.1	S	56.8	A
		計画・実行	56.1	A	51.7	B	53.5	A	49.8	B	57.7	A	55.2	A	49.4	B	49.4	B	53.1	A	54.4	A	55.3	A	53.1	A
b 他者理解	a 協働性（議論ができるか）	思考力総合	42.4	C	38.5	D	38.5	D	40.2	D	39.5	D	38.0	D	37.3	D	34.7	D	44.2	C	39.3	D	34.2	D	39.2	D
		批判的思考力	42.3	C	35.5	D	35.4	D	37.1	D	37.7	D	37.1	D	32.0	D	32.7	D	41.3	C	37.1	D	30.7	D	36.4	D
c 専門知識、技能（課題を理解、情報処理できるか）	b 他者理解	協働的思考力	43.5	C	35.8	D	35.8	D	39.9	D	36.5	D	36.0	D	36.9	D	31.7	D	45.0	C	36.5	D	31.1	D	37.4	D
		創造的思考力	41.1	C	39.4	D	39.4	D	39.9	D	40.2	D	36.7	D	37.6	D	33.1	D	44.0	C	39.7	D	34.5	D	39.4	D

2022年度生（入学時スコア）																										
関連DP		測定内容	参加大学平均		大同大学 22生入学時																					
			22生入学時		機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		土木環境		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体	
			スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価
a 主体性	a 協働性	レジリエンス	47.9	B	48.8	B	48.1	B	48.8	B	48.8	B	46.1	C	47.7	B	48.5	B	48.9	B	46.2	C	48.9	B	48.2	B
		リーダーシップ	47.2	B	45.1	C	44.8	C	46.8	C	47.6	B	47.2	B	44.9	C	45.7	C	44.6	C	44.6	C	48.2	B	45.7	C
a 主体性	a 協働性	コラボレーション	50.0	B	49.7	B	48.6	B	49.2	B	50.8	B	50.7	B	50.2	B	47.8	B	48.2	B	48.6	B	49.6	B	49.2	B
		自己管理	54.3	A	49.0	B	49.1	B	48.1	B	52.6	A	51.8	B	48.3	B	50.7	B	48.0	B	46.9	C	53.1	A	49.2	B
a 主体性	a 協働性	対人関係	59.9	S	58.0	S	54.9	A	58.1	S	60.7	S	59.8	S	55.3	A	51.3	B	58.8	S	56.6	A	57.9	A	57.5	A
		計画・実行	55.9	A	53.8	A	53.3	A	52.6	A	57.7	A	52.1	A	54.0	A	52.0	A	54.3	A	51.1	B	53.1	A	53.6	A
b 他者理解	b 他者理解	思考力総合	43.0	C	45.4	C	43.3	C	44.4	C	45.8	C	42.2	C	44.5	C	43.0	C	47.5	B	45.2	C	39.6	D	44.6	C
		批判的思考力	42.3	C	46.7	C	44.5	C	46.4	C	47.0	B	42.8	C	47.2	B	44.2	C	49.6	B	45.5	C	41.0	C	46.1	C
c 専門知識、技能（課題を理解、情報処理できるか）	c 専門知識、技能（課題を理解、情報処理できるか）	協働的思考力	40.6	D	41.1	C	39.3	D	40.8	D	42.0	C	37.4	D	41.3	C	38.7	D	42.1	C	43.0	C	36.5	D	40.8	D
		創造的思考力	44.2	C	46.1	C	43.7	C	45.4	C	47.5	B	41.8	C	43.5	C	42.2	C	48.7	B	46.4	C	39.3	D	45.3	C

【入学時スコア】比較 / 2024年度生（入学時スコア）－2022年度生（入学時スコア）																												
関連DP		測定内容	参加大学平均		大同大学 24生入学時－22生入学時																							
			23生入学時－22生入学時		機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		都市空間インフラ /土木環境		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体			
			差		差		差		差		差		差		差		差		差		差		差		差			
a 主体性	a 協働性	レジリエンス	0.2		△0.3		0.6		△1.3		0.3		0.9		1.9		3.3		△1.9		0.7		△1.5		△0.2			
		リーダーシップ	0.0		0.3		0.5		△2.9		1.4		△2.1		1.4		0.4		△1.4		0.5		△2.0		△0.4			
a 主体性	a 協働性	コラボレーション	△0.2		0.1		0.4		△1.0		1.0		△1.7		0.2		2.7		0.3		△1.5		0.1		△0.1			
		自己管理	0.1		△0.6		△1.4		△1.2		1.6		△0.3		1.1		△5.8		△0.7		1.1		△3.1		△0.5			
a 主体性	a 協働性	対人関係	0.3		△2.0		2.2		△3.2		1.5		△1.0		△1.2		1.1		△2.1		△0.4		0.2		△0.7			
		計画・実行	0.2		△2.1		0.2		△2.8		0.0		3.1		△4.6		△2.6		△1.2		3.3		2.2		△0.5			
a 協働性（議論ができるか）	b 他者理解	思考力総合	△0.6		△6.9		△4.8		△4.2		△6.3		△4.2		△7.2		△8.3		△3.3		△5.9		△5.4		△5.4			
		批判的思考力	0.0		△11.2		△9.1		△9.3		△9.3		△5.7		△15.2		△11.5		△8.3		△8.4		△10.3		△9.7			
b 他者理解（意思疎通ができるか）	c 専門知識・技能（課題を理解、情報処理できるか）	協働的思考力	2.9		△5.3		△3.5		△0.9		△5.5		△1.4		△4.4		△7.0		2.9		△6.5		△5.4		△3.4			
		創造的思考力	△3.1		△6.7		△4.3		△5.5		△7.3		△5.1		△5.9		△9.1		△4.7		△6.7		△4.8		△5.9			

GPS-Aの分析表（B表）

評価
S 58以上
A 52以上～58未満
B 47以上～52未満
C 41以上～47未満
D 41未満

※2023年度基準による

2022年度生－3年進級時スコア

		参加大学平均 21生3年		大同大学 22生3年進級時																					
				機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		土木環境		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体	
関連DP	測定内容	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価
a 主体性	レジリエンス	48.6	B	48.9	B	49.1	B	48.5	B	49.8	B	48.8	B	46.2	C	47.9	B	48.9	B	46.0	C	49.3	B	48.4	B
	リーダーシップ	47.3	B	45.0	C	44.1	C	46.7	C	47.8	B	48.1	B	43.8	C	46.9	C	44.6	C	45.6	C	49.0	B	45.7	C
a 協働性	コラボレーション	48.9	B	48.2	B	46.6	C	48.8	B	48.8	B	50.1	B	46.3	C	46.7	C	47.5	B	46.6	C	49.3	B	47.8	B
	自己管理	52.2	A	46.0	C	48.0	B	47.7	B	51.7	B	54.5	A	45.2	C	46.9	C	46.9	C	47.6	B	50.8	B	47.9	B
a 主体性	対人関係	59.6	S	55.8	A	54.8	A	57.7	A	57.2	A	60.5	S	51.4	B	52.5	A	58.9	S	57.0	A	59.7	S	56.7	A
a 協働性	計画・実行	55.9	A	53.7	A	54.7	A	54.0	A	55.5	A	55.0	A	52.2	A	49.0	B	55.4	A	53.3	A	53.0	A	54.0	A
a 課題発見力	思考力総合	44.3	C	43.0	C	41.6	C	42.1	C	43.2	C	43.6	C	38.5	D	38.2	D	47.1	B	42.9	C	36.7	D	42.4	C
b 他者理解	批判的思考力	44.5	C	41.1	C	39.9	D	39.7	D	40.6	D	44.1	C	34.6	D	36.8	D	45.5	C	40.2	D	35.4	D	40.4	D
c 専門知識・技能 （課題を理解、情報処理できるか）	協働的思考力	45.5	C	42.1	C	40.4	D	39.4	D	41.1	C	41.5	C	36.5	D	37.0	D	48.0	B	42.2	C	32.6	D	41.1	C
	創造的思考力	43.0	C	43.2	C	41.6	C	44.1	C	45.1	C	43.3	C	38.8	D	37.0	D	46.3	C	43.2	C	37.2	D	42.7	C

2022年度生（入学時スコア）

		参加大学平均 21生入学時		大同大学 22生入学時																					
				機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		土木環境		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体	
関連DP	測定内容	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価	スコア	評価
a 主体性	レジリエンス	48.2	B	48.8	B	48.1	B	48.8	B	48.8	B	46.1	C	47.7	B	48.5	B	48.9	B	46.2	C	48.9	B	48.2	B
	リーダーシップ	47.5	B	45.1	C	44.8	C	46.8	C	47.6	B	47.2	B	44.9	C	45.7	C	44.6	C	44.6	C	48.2	B	45.7	C
a 協働性	コラボレーション	50.3	B	49.7	B	48.6	B	49.2	B	50.8	B	50.7	B	50.2	B	47.8	B	48.2	B	48.6	B	49.6	B	49.2	B
	自己管理	54.6	A	49.0	B	49.1	B	48.1	B	52.6	A	51.8	B	48.3	B	50.7	B	48.0	B	46.9	C	53.1	A	49.2	B
a 主体性	対人関係	60.1	S	58.0	S	54.9	A	58.1	S	60.7	S	59.8	S	55.3	A	51.3	B	58.8	S	56.6	A	57.9	A	57.5	A
a 協働性	計画・実行	55.9	A	53.8	A	53.3	A	52.6	A	57.7	A	52.1	A	54.0	A	52.0	A	54.3	A	51.1	B	53.1	A	53.6	A
a 課題発見力	思考力総合	43.5	C	45.4	C	43.3	C	44.4	C	45.8	C	42.2	C	44.5	C	43.0	C	47.5	B	45.2	C	39.6	D	44.6	C
b 他者理解	批判的思考力	43.0	C	46.7	C	44.5	C	46.4	C	47.0	B	42.8	C	47.2	B	44.2	C	49.6	B	45.5	C	41.0	C	46.1	C
c 専門知識・技能 （課題を理解、情報処理できるか）	協働的思考力	40.5	D	41.1	C	39.3	D	40.8	D	42.0	C	37.4	D	41.3	C	38.7	D	42.1	C	43.0	C	36.5	D	40.8	D
	創造的思考力	44.9	C	46.1	C	43.7	C	45.4	C	47.5	B	41.8	C	43.5	C	42.2	C	48.7	B	46.4	C	39.3	D	45.3	C

【22生】経年比較 / 2022年度生（3年進級時スコア）－2022年度生（入学時スコア）

		参加大学平均 21生3年－ 21生入学時		大同大学 22生3年進級時－2022生入学時																					
				機械		機械システム		電気電子		建築		インテリアデザイン		土木環境		かおりデザイン		情報システム		情報デザイン		総合情報		全体	
関連DP	測定内容	差		差		差		差		差		差		差		差		差		差		差		差	
a 主体性	レジリエンス	0.4		0.1		1.0		△0.3		1.0		2.7		△1.5		△0.6		0.0		△0.2		0.4		0.2	
	リーダーシップ	△0.2		△0.1		△0.7		△0.1		0.2		0.9		△1.1		1.2		0.0		1.0		0.8		0.0	
a 協働性	コラボレーション	△1.4		△1.5		△2.0		△0.4		△2.0		△0.6		△3.9		△1.1		△0.7		△2.0		△0.3		△1.4	
	自己管理	△2.4		△3.0		△1.1		△0.4		△0.9		2.7		△3.1		△3.8		△1.1		0.7		△2.3		△1.3	
a 主体性	対人関係	△0.5		△2.2		△0.1		△0.4		△3.5		0.7		△3.9		1.2		0.1		0.4		1.8		△0.8	
a 協働性	計画・実行	0.0		△0.1		1.4		1.4		△2.2		2.9		△1.8		△3.0		1.1		2.2		△0.1		0.4	
a 課題発見力	思考力総合	0.8		△2.4		△1.7		△2.3		△2.6		1.4		△6.0		△4.8		△0.4		△2.3		△2.9		△2.2	
b 他者理解	批判的思考力	1.5		△5.6		△4.6		△6.7		△6.4		1.3		△12.6		△7.4		△4.1		△5.3		△5.6		△5.7	
c 専門知識・技能 （課題を理解、情報処理できるか）	協働的思考力	5.0		1.0		1.1		△1.4		-0.9		4.1		△4.8		△1.7		5.9		△0.8		△3.9		0.3	
	創造的思考力	△1.9		△2.9		△2.1		△1.3		△2.4		1.5		△4.7		△5.2		△2.4		△3.2		△2.1		△2.6	

4. 3 ベネッセ集計結果

2024 年度 1 年生 学科・専攻別平均スコア

問題解決能力：1年生 平均スコア 基礎集計 Benesse i-Career

			客観評価							主観評価			
			問題解決の質を左右する				問題解決に向かう			問題解決の力を磨くための			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力 総合	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力	レジリエ ンス	リーダー シップ	コラボ レーション	経験総 合	自己管 理	対人関 係	計画・実 行
全受検者計	2024入学_1年	-	39.3	37.5	37.0	39.3	47.6	47.0	49.3	56.5	53.9	59.8	55.6
全受検者_理工	2024入学_1年	-	41.2	39.1	39.5	41.2	48.4	46.7	48.7	56.0	52.8	59.4	55.9
貴学全学	2024入学_1年	824	39.2	36.4	37.4	39.4	48.0	45.3	49.1	52.9	48.7	56.8	53.1
機械工学科	2024入学_1年	102	38.5	35.5	35.8	39.4	48.5	45.4	49.8	52.1	48.4	56.0	51.7
機械システム学科	2024入学_1年	106	38.5	35.4	35.8	39.4	48.7	45.3	49.0	52.8	47.7	57.1	53.5
電気電子工学科	2024入学_1年	97	40.2	37.1	39.9	39.9	47.5	43.9	48.2	50.5	46.9	54.9	49.8
情報システム学科	2024入学_1年	128	44.2	41.3	45.0	44.0	47.0	43.2	48.5	52.3	47.3	56.7	53.1
情報デザイン学科	2024入学_1年	122	39.3	37.1	36.5	39.7	46.9	45.1	47.1	52.9	48.0	56.2	54.4
総合情報学科	2024入学_1年	74	34.2	30.7	31.1	34.5	47.4	46.2	49.7	54.5	50.0	58.1	55.3
建築（建築）学科	2024入学_1年	71	39.5	37.7	36.5	40.2	49.1	49.0	51.8	58.0	54.2	62.2	57.7
建築（イン）学科	2024入学_1年	48	38.0	37.1	36.0	36.7	47.0	45.1	49.0	55.2	51.5	58.8	55.2
建築都市空間学科	2024入学_1年	48	37.3	32.0	36.9	37.6	49.6	46.3	50.4	51.0	49.4	54.1	49.4
建築かおり学科	2024入学_1年	28	34.7	32.7	31.7	33.1	51.8	46.1	50.5	48.9	44.9	52.4	49.4

※2024年度の全受検者計は5月末時点の速報値です

1 年生 3 ヶ年スコア比較（2022 年度—2024 年度）

問題解決能力：1年生 平均スコア 基礎集計 過年度推移 Benesse i-Career

			客観評価							主観評価			
			問題解決の質を左右する				問題解決に向かう			問題解決の力を磨くための			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力 総合	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力	レジリエ ンス	リーダー シップ	コラボ レーション	経験総 合	自己管 理	対人関 係	計画・実 行
全受検者平均	2022入学_1年	-	43.0	42.3	40.6	44.2	47.9	47.2	50.0	56.7	54.3	59.9	55.9
	2023入学_1年	-	42.3	42.2	43.4	41.0	48.1	47.2	49.8	56.9	54.4	60.2	56.0
	2024入学_1年	-	39.3	37.5	37.0	39.3	47.6	47.0	49.3	56.5	53.9	59.8	55.6
全受検者平均(理工系統)	2022入学_1年	-	45.5	46.4	42.3	46.5	48.7	46.7	49.2	55.8	52.4	59.1	55.8
	2023入学_1年	-	43.8	44.8	43.7	41.7	48.8	46.8	49.0	56.0	52.8	59.2	56.0
	2024入学_1年	-	41.2	39.1	39.5	41.2	48.4	46.7	48.7	56.0	52.8	59.4	55.9
貴学全体	2022入学_1年	892	44.6	46.1	40.8	45.3	48.2	45.7	49.2	53.4	49.2	57.5	53.6
	2023入学_1年	830	42.2	43.3	42.4	39.8	47.8	44.9	48.3	52.0	48.2	55.6	52.0
	2024入学_1年	824	39.2	36.4	37.4	39.4	48.0	45.3	49.1	52.9	48.7	56.8	53.1
対_全受検者平均	2022_貴学-全受検計	差分	1.6	3.8	0.2	1.1	0.3	-1.5	-0.8	-3.3	-5.1	-2.4	-2.3
	2023_貴学-全受検計	差分	-0.1	1.1	-1.0	-1.2	-0.3	-2.3	-1.5	-4.9	-6.2	-4.6	-4.0
	2024_貴学-全受検計	差分	-0.1	-1.1	0.4	0.1	0.4	-1.7	-0.2	-3.6	-5.2	-3.0	-2.5
対_全受検者平均 (理工系統)	2022_貴学-全受検計	差分	-0.9	-0.3	-1.5	-1.2	-0.5	-1.0	0.0	-2.4	-3.2	-1.6	-2.2
	2023_貴学-全受検計	差分	-1.6	-1.5	-1.3	-1.9	-1.0	-1.9	-0.7	-4.0	-4.6	-3.6	-4.0
	2024_貴学-全受検計	差分	-2.0	-2.7	-2.1	-1.8	-0.4	-1.4	0.4	-3.1	-4.1	-2.6	-2.8

※2024年度の全受検者計は5月末時点の速報値です 全受検者平均とのスコア差は昨年度と概ね同傾向

3過年度でも自己管理(目標を掲げ達成に向けて粘り強く行動する経験)にスコア差がみられる傾向

2024 年度 3 年生（22 生）学科・専攻別平均スコア

問題解決能力：3年生 平均スコア 基礎集計 Benesse i-Career

			客観評価							主観評価			
			問題解決の質を左右する				問題解決に向かう			問題解決の力を磨くための			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者計	2022入学_3年	-	41.4	39.9	39.3	41.5	48.2	47.2	48.4	55.8	52.3	59.2	55.8
全受検者_理工	2022入学_3年	-	41.4	39.3	39.4	42.0	49.0	46.9	47.8	55.9	51.8	59.0	56.9
貴学全学	2022入学_3年	813	42.4	40.4	41.1	42.7	48.4	45.7	47.8	52.9	47.9	56.7	54.0
機械工学科	2022入学_3年	142	43.0	41.1	42.1	43.2	48.9	45.0	48.2	51.8	46.0	55.8	53.7
機械システム学科	2022入学_3年	122	41.6	39.9	40.4	41.6	49.1	44.1	46.6	52.5	48.0	54.8	54.7
電気電子工学科	2022入学_3年	92	42.1	39.7	39.4	44.1	48.5	46.7	48.8	53.1	47.7	57.7	54.0
建築（建築）学科	2022入学_3年	67	43.2	40.6	41.1	45.1	49.8	47.8	48.8	54.8	51.7	57.2	55.5
建築（イン）学科	2022入学_3年	29	43.6	44.1	41.5	43.3	48.8	48.1	50.1	56.7	54.5	60.5	55.0
建築土木環境学科	2022入学_3年	52	38.5	34.6	36.5	38.8	46.2	43.8	46.3	49.6	45.2	51.4	52.2
建築・かおり学科	2022入学_3年	25	38.2	36.8	37.0	37.0	47.9	46.9	46.7	49.5	46.9	52.5	49.0
情報システム学科	2022入学_3年	119	47.1	45.5	48.0	46.3	48.9	44.6	47.5	53.7	46.9	58.9	55.4
情報デザイン学科	2022入学_3年	101	42.9	40.2	42.2	43.2	46.0	45.6	46.6	52.6	47.6	57.0	53.3
総合情報学科	2022入学_3年	64	36.7	35.4	32.6	37.2	49.3	49.0	49.3	54.5	50.8	59.7	53.0

※2024年度の全受検者計は5月末時点の速報値です

3 年生 3 ヶ年スコア比較（2020 年度—2022 年度）

問題解決能力：3年生 平均スコア 基礎集計 過年度推移 Benesse i-Career

			客観評価							主観評価			
			問題解決の質を左右する				問題解決に向かう			問題解決の力を磨くための			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
全受検者平均	2020入学_3年	-	44.4	43.4	42.8	46.2	48.9	47.7	49.6	56.1	52.4	60.0	55.9
	2021入学_3年	-	44.3	44.5	45.6	43.0	48.9	47.7	49.2	56.4	52.6	60.4	56.1
	2022入学_3年	-	41.4	39.9	39.3	41.5	48.2	47.2	48.4	55.8	52.3	59.2	55.8
全受検者平均(理工系統)	2020入学_3年	-	47.3	48.1	44.3	48.8	49.5	47.5	49.0	56.1	51.3	60.1	56.9
	2021入学_3年	-	45.8	47.2	45.7	43.6	49.6	47.5	48.6	56.5	51.8	60.4	57.3
	2022入学_3年	-	41.4	39.3	39.4	42.0	49.0	46.9	47.8	55.9	51.8	59.0	56.9
貴学全体	2020入学_3年	323	48.8	50.1	45.6	50.5	48.0	45.6	48.3	52.0	45.9	56.5	53.6
	2021入学_3年	336	47.2	49.5	46.9	44.3	49.0	46.6	48.3	54.9	49.4	59.3	56.0
	2022入学_3年	813	42.4	40.4	41.1	42.7	48.4	45.7	47.8	52.9	47.9	56.7	54.0
対_全受検者平均	2022_貴学-全受検計	差分	4.4	6.7	2.8	4.3	-0.9	-2.1	-1.3	-4.1	-6.5	-3.5	-2.3
	2023_貴学-全受検計	差分	2.9	5.0	1.3	1.3	0.1	-1.1	-0.9	-1.5	-3.2	-1.1	-0.1
	2024_貴学-全受検計	差分	1.0	0.5	1.8	1.2	0.2	-1.5	-0.6	-2.9	-4.4	-2.5	-1.8
対_全受検者平均(理工系統)	2022_貴学-全受検計	差分	1.5	2.0	1.3	1.7	-1.5	-1.9	-0.7	-4.1	-5.4	-3.6	-3.3
	2023_貴学-全受検計	差分	1.4	2.3	1.2	0.7	-0.6	-0.9	-0.3	-1.6	-2.4	-1.1	-1.3
	2024_貴学-全受検計	差分	1.0	1.1	1.7	0.7	-0.6	-1.2	0.0	-3.0	-3.9	-2.3	-2.9

※2024年度の全受検者計は5月末時点の速報値です

「思考力」は3過年度で年々スコア差が縮まっている傾向

「姿勢・態度」はやや下回るも3過年度で概ね同傾向

3過年度でも自己管理(目標を掲げ達成に向けて粘り強く行動する経験)にスコア差がみられる傾向

2 2 生経年比較（1 年生 4 月－3 年生進級直前 3 月）

問題解決能力：3 年生 平均スコア 基礎集計 パネル

Benesse i-Career

			客観評価							主観評価			
			問題解決の質を左右する				問題解決に向かう			問題解決の力を広げるための			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力 総合	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力	レジリエ ンス	リーダー シップ	コラボ レーション	経験総 合	自己管 理	対人間 関係	計画・実 行
貴学全体	第1回(1年次)	767	44.8	46.4	41.1	45.4	48.2	45.6	49.2	53.2	49.1	57.2	53.4
	第2回(3年次)	767	42.5	40.6	41.3	42.9	48.5	45.9	47.9	53.3	48.3	57.1	54.5
	差分	±0	-2.3	-5.8	0.2	-2.5	0.3	0.3	-1.3	0.1	-0.8	-0.1	1.1
機械工学科	第1回(1年次)	132	45.5	46.7	41.6	46.5	49.0	45.2	49.9	53.4	48.6	58.1	53.5
	第2回(3年次)	132	42.8	40.7	41.6	43.1	49.2	45.6	48.4	52.9	47.1	56.8	54.7
機械システム学科	第1回(1年次)	115	43.6	44.8	40.3	43.9	48.3	44.4	48.6	51.7	48.1	54.4	52.6
	第2回(3年次)	115	41.4	39.9	40.1	41.5	48.9	44.4	46.8	52.8	48.2	54.8	55.2
電気電子工学科	第1回(1年次)	87	44.6	46.5	41.2	45.1	48.9	47.2	49.4	53.7	49.2	58.7	53.3
	第2回(3年次)	87	42.7	40.5	40.2	44.7	48.5	46.3	48.5	52.5	46.7	57.3	53.4
建築（建築）学 科	第1回(1年次)	66	46.4	47.1	43.5	49.4	49.1	47.8	51.3	57.2	52.6	61.1	58.0
	第2回(3年次)	66	43.4	40.6	41.5	45.4	49.8	47.9	49.0	55.0	51.7	57.3	55.8
建築（イン）学科	第1回(1年次)	26	41.2	43.8	33.1	41.4	48.3	48.5	51.4	57.2	55.2	61.9	54.6
	第2回(3年次)	26	43.7	44.7	41.1	43.5	48.9	48.4	50.8	57.0	55.2	61.1	54.8
建築土木環境学 科	第1回(1年次)	47	45.4	49.3	42.3	43.2	47.4	44.1	49.5	51.0	46.2	53.7	53.0
	第2回(3年次)	47	39.3	35.9	37.7	39.7	45.7	43.6	46.6	49.4	44.3	51.7	52.3
建築・かわり学科	第1回(1年次)	20	43.0	44.2	38.7	42.2	48.5	45.7	47.8	51.3	50.7	51.3	52.0
	第2回(3年次)	20	39.1	37.2	38.4	38.2	49.0	46.7	45.8	50.2	47.8	51.3	51.4
情報システム学科	第1回(1年次)	117	47.5	50.0	42.0	48.1	48.4	44.6	48.0	53.1	47.9	57.5	53.8
	第2回(3年次)	117	47.1	45.6	48.4	46.3	48.8	44.5	47.6	53.8	47.0	58.9	55.4
情報デザイン学科	第1回(1年次)	98	45.6	46.0	43.2	46.9	45.6	44.0	48.0	51.0	46.3	55.9	50.6
	第2回(3年次)	98	43.0	40.4	42.6	43.1	46.0	45.8	46.7	53.0	47.9	57.5	53.7
総合情報学科	第1回(1年次)	59	39.6	41.2	36.5	38.8	48.8	48.8	49.7	55.5	53.8	58.7	54.1
	第2回(3年次)	59	36.4	35.1	32.3	37.0	50.3	49.9	50.0	56.3	52.8	61.6	54.4

第 5 章 DP 到達度調査

DP 到達度調査の分析結果報告

大学評価委員会
委員長 棚橋 秀行

1.DP 到達度調査の実施状況

DP 到達度調査は、アセスメント・プランにおいて定義された、本学の掲げる学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー「DP」）に求められる学生が卒業時に達成すべき質的水準を確保するための具体的な能力を点検・評価の指標とした調査である。

時代の変化と共に、社会で要求される知識や能力も大きく変わりつつある中で、企業、卒業生、卒研履修生それぞれに対して同一の指標に基づいて調査することで、本学の教育のさらなる充実と時代に即した教育改善に活用することを目的としている。この調査結果の有用性をさらに高めていくためには、卒業生アンケートを中心に、全体的な回答率の向上が課題である。

表 1 DP 到達調査実施状況

回答期間	対象	実施指示	回答数	回答率
2024 年 1 月 22 日 ～2 月 29 日	卒業研究履修生 774 名	学生実態調査項目に追加	435	56.2%
2023 年 11 月 4 日 ～12 月 13 日	学内合同企業 説明会参加企業 455 社	学内合同企業説明会時に QR コード記載の紙面にて依 頼	300	65.9%
2023 年 12 月 20 日 ～2024 年 1 月 31 日	2021 年度卒業生 (卒業後 3 年) 677 名	QR コード記載のハガキを 保証人住所に郵送	100	14.8%

2.考察

○傾向 1
卒業時に本学の学生が身に付けたと感じる能力や姿勢、態度の評価は関連 DP における a.b.が高く、c.d.（専門的な知識・技能など）が低い傾向にあり、企業が大学在学中に身につけて欲しいと期待することも同様の傾向にある。

○傾向 2
役に立っている力について 3 年後卒業生にアンケートした結果では、卒業時よりも c.d.の構成比が高くなっている。これは、本学の卒業生が活躍時に発揮していると企業が感じる能力と同様の傾向にある。

5. 2 DP到達度調査の分析表

DP到達度調査の分析表

基礎集計(選択総数を100%とした構成分析)

学生実態調査【実感】以下にあげる能力や姿勢、態度のうち、あなたが在学中に身に付けたと思うものをすべてお選びください。

企業アンケート【期待】以下にあげる能力や態度のうち、大学在学中に特に身に付けて欲しい能力や姿勢、態度を3つお選びください。

企業アンケート【発揮】大同大学の卒業生が活躍時に発揮している能力や姿勢、態度をすべてお選びください。

卒業生アンケート【実績】以下にあげる能力や姿勢、態度のうち、あなたが社会に出て、「役に立っている」と思うものをすべてお選びください。

[illegible]

評価

学生実態調査	
実感	
関連DP	選択肢
a 倫理観	健全な倫理観
a 規律性	社会人としての規律性
a 主体性	主体的にかつ目標を定めて行動する力
a 課題発見力	現状を分析して目的や課題を明らかにする力
	失敗や困難なことにもめげずに立ち向かう力
a 協働性	コミュニケーションを通じて他者と協働する力
b 豊かな教養	文化・社会や自然・生命に関する一般的知識
b 他者理解	異なる考え方を理解する力
	自分の強み・弱みを理解する力
c 専門知識・技能	専門領域の知識・理論が身についていること
c 専門知識・技能	専門領域の技術が身についていること
c 論理的思考力	専門領域の情報・データを論理的に分析し、課題解決のために応用できること
d 創造力	獲得した知識・技能、態度等を総合的に活用し、新たな知見を創造する力
評価	
S 15%以上	
A 12%以上～15%未満	
B 6%以上～12%未満	
C 3%以上～6%未満	
D 3%未満	

学生実態調査													企業アンケート		卒業生アンケート
実感															
機械	機械シス	電気電子	建築	インテリア	土木環境	かおり	情報シス	情報デザ	経営情報	スポーツ	全体	期待	発揮	実績	
B	B	B	C	C	S	B	B	C	B	B	B	B	B	B	
B	B	C	B	B	S	A	B	B	S	A	B	B	A	B	
B	B	A	B	B	B	B	C	B	C	S	B	A	B	B	
B	B	C	B	B	B	B	B	C	C	B	B	B	B	B	
B	C	B	B	A	C	B	C	B	C	B	B	S	B	B	
A	A	S	A	S	A	A	A	S	A	S	A	S	S	S	
C	C	D	C	C	C	C	D	D	C	D	D	D	D	D	
B	B	C	B	B	C	A	B	B	A	C	B	B	C	B	
B	B	B	A	A	B	B	B	A	S	A	B	B	C	B	
B	B	B	B	B	C	C	A	B	C	C	B	C	B	B	
B	B	C	C	B	D	C	B	B	C	D	B	D	B	B	
C	C	D	D	D	D	C	C	D	D	D	C	D	C	C	
C	D	D	C	C	D	D	C	C	D	D	D	D	C	C	

傾向1

傾向2

第6章 まとめ

まとめ

本報告書は、2024 年度より「アセスメント・ポリシー」および「アセスメント・プラン」が施行されたことを受け、「大同大学アセスメント調査結果報告書」として取り纏めたものである。「アセスメント・ポリシー」および「アセスメント・プラン」は学位授与方針に基づく学修成果の点検の手法に関するものであるが、本報告書では学生生活や就職などに関する他の調査結果も含め分析・考察を行った。本報告書を取り纏めることにより得られた知見と今後の課題について、以下にまとめる。

○学生実態調査

本学では、2022 年度から『学生実態調査』を実施することにより、学生の意見・要望をくみ上げる仕組みを構築している。質問項目には、大学認証評価の留意点として記されている項目を把握できる設問を含めるとともに、他大学との比較のために、日本私立大学連盟の「学生生活実態調査」の設問も参考にした。また、対面の環境で Web 入力させる方法で、かつ 15 分程度で回答できる内容としたことで高い回答率を実現することができた。得られた知見と今後の課題は以下のとおりである。

入学時には「学科・専攻に入学して良かったか」「教員に対する満足度」「カリキュラムに対する満足度」「授業に対する満足度」などの評価は私大連加盟大学と比べて高くはない。これは、近隣競合大学の中における、受験生から見た本学のポジションと無関係ではないと思われる。しかし、入学後は学年の進行とともに評価は高くなる傾向がうかがえる。これは本学に入って、本学教員の工夫された授業や少人数教育による丁寧な指導によって学年進行とともにやる気を起こし、評価が高くなっていると考えられ、本学の良い特徴といえると思われる。

卒業研究については本学では 84%の学生が満足と回答している。私大連加盟大学が 82%であり、本学の卒業研究の満足度は高い。これも本学の良い特徴といえると思われる。しかし詳細にみると学科・専攻間での開きは大きく、95%が満足と答えたところもある一方で、不満と答えた学生が 3 割近いところもある。学生時代の集大成である「卒業研究」は重要な科目であるので、この点の改善は重要な課題である。

近年、多くの業界での人材不足により、本学でも求人状況・就職率は好調である。しかし、就職についての気持ちを尋ねてみると、本学の学生は私大連加盟大学より多くの質問項目で不安を感じていることがわかった。重要であると思われたのは大人が想像するような「就職できるかどうか」の不安ではなく、「就職すること自体」に対する不安がもっとも私大連加盟大学を上回っていることである。本学の学生気質である「自信のなさ」からこのような結果になっていると想定されるが、これが他大学と比較した場合、早期からの活動量が低い（インターンシップの参加率が低い、動き出しが遅い）ことに繋がり、さらに不安を感じる状況になっているとも考えられる。

この状況を改善するためには、本番の就職活動より以前のキャリア教育において、働くと

はどういったことなのかという就業観の醸成が必要ではないかと思われる。こうした科目の設置の必要性は第4期の認証評価にも謳われている。同時に、社会で働くにあたって円滑な人間関係の形成や、集団の中での自己実現といったいわゆる人間力も必要になるが、こうした力を授業の中で涵養するには限界があり、やはり部活動や地域貢献・ボランティアなどの課外活動に期待する部分は大きい。

しかし他大学と比べるとこうしたアクティビティへの参加率は低く、これも「自信のなさ」の遠因と言えなくはない。「大学生活の中で大切だと思っていることは何ですか」といった質問項目に対して、「経験を豊富にし、見聞を広めること」と答えた割合が私大連加盟大学の半分しかないのが本学の学生気質を如実に表している。2024年から導入した学修ポートフォリオでは、学生個人がこうした課外活動などについてどう取り組んだかを每期振り返って記入し、指導教員がコメントをする取り組みを行っている。この仕組みにより学生の課外の活動を活性化させ、学生の成長とその実感にもとづく自信につなげることが今後の課題である。

○学修成果の点検・検証の総括(2020年度入学生)

2020年度入学生に対する学修成果の点検・評価に関する総括を行うとともに、現在進行中の24年度カリキュラムにおける学修成果の可視化においてクリアすべき可視化手法の課題点を再確認した。また2020年度入学生が1-2年生時のコロナ禍・遠隔授業の影響についても考察した。これらの結果を以下にまとめる。

- 1) 今回対象とした2020年度入学生は、昨年の19生までとカリキュラム・履修モデルが異なるものの、多くの学科専攻における学生のDPポイントに関する傾向は、これまでとほぼ同様であった。
- 2) 2020年度入学生に対するコロナ禍・遠隔授業の影響について考察するにあたり、教養部の精緻な分析が大変に参考になった。1-2年生時にほとんどが遠隔であった教養科目に関する項目A~Hの8項目は成績がほとんどで良くなった。理由としてはテストが課題になったことを挙げているが、極端に成績の良い層が出現したことも興味深い。各学科の専門科目を含めた4年生終了時としては大きな影響はなかったとするコメントが多かったが、遠隔授業時に受講していたと思われる低学年時の科目で構成される項番の若いDPでは、専門科目でも教養科目と同じく若干上昇する傾向が伺えた。
- 3) 抽出された20カリキュラムの可視化の課題のほとんどは、学位授与方針と履修モデルに基づいて算出したDPポイントの想定値と学生が獲得したDPポイントの分布状況の乖離にある。こうした点は20カリキュラムでの対応は限界があるため、現在進行中の24カリの策定時にカリキュラムマップと履修モデルの設計段階から再構築が行われた。これにより可視化の課題が解決されることに期待したい。

今後は2024年度より導入された学修ポートフォリオや外部アセスメントテスト(GPS-A)、学生実態調査などを活用し、これまでの正課授業成績による学修成果の可視化以外の活動も含めた点検・評価方法も検討していきたい。

○外部アセスメントテスト(GPS-A)

本学が外部アセスメントテストに位置付ける「GPS-A」は、2024年度から1年生は新入生オリエンテーション内で、3年生は新3年生に進級直前の前期履修ガイダンス内で対面方式によって実施したことにより、受検率が大幅に向上した。特に、これまで4割程度に留まっていた3年生の受検率は、86.8%と大幅に改善され、全国的にみても高い受検率となった。

得られた傾向の1つめは、24生と22生の入学時における全体のスコア比較で、すべての項目において、24生が22生のスコアを下回っていることである。これには18歳人口の減少に伴う入試状況が背景にあると思われるが、本学としては入学した学生の学力のケアのみならず、卒業までの大学生活を通じていかに学生を成長させるかに取り組む必要がある。

得られた傾向の2つめは、本学22生の経年比較で3年進級時のスコアが入学時を下回っていることである。参加大学の全受検者の平均スコアにおいても低下している項目がみられる。大学生になっていろいろな場面で自分を見つめる機会が増えることで高校を卒業したばかりの時点よりいい意味での『謙虚さ・冷静さ』が生じている面はあるのかもしれないが、本学のスコアの低下幅は、参加大学の全受検者の平均の低下幅より大きくなっていることが気になる。それぞれの学生が『自分は成長した』という実感が大学生活を通じて抱くことができるような教育にいかに取り組んでゆくかが今後の課題である。

○ODP 到達度調査

DP 到達度調査は、アセスメント・プランにおいて定義された、本学の掲げる学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー「DP」）に求められる学生が卒業時に達成すべき質的水準を確保するための具体的な能力を点検・評価の指標とした調査である。得られた結果から、卒業時に本学の学生が身に付けたと感じる能力や姿勢、態度の評価は、関連 DP における a.b.が高く、c.d.（専門的な知識・技能など）が低い傾向にあり、企業が大学在学中に身につけて欲しいと期待することも同様の傾向にあることがわかった。一方で、3年後卒業生にアンケートした結果では、役に立っている力について卒業時よりも c.d.の構成比が高くなっている。これは、本学の卒業生が活躍時に発揮していると企業が感じる能力と同様の傾向にある。

卒業時に学生が c.d.（専門的な知識・技能など）に関する力も身につけたと実感していることが内部質保証の観点では望ましいのであるが、これから社会に出ていく直前の学生心理として自分の専門的な知識・技能などが通用するか若干の不安をもつことはある意味健全かもしれない。この調査結果の有用性をさらに高めていくためには、卒業生アンケートを中心に、全体的な回答率の向上が課題である。

以上

あとがき

本年4月、本学は学生の学修成果の点検・評価の方針を定めた「大同大学アセスメント・ポリシー」を改訂すると共に、その具体的な実施方法を定めた「大同大学アセスメント・プラン」を制定しました。このアセスメント・プランでは、本学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下「DP」）に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を、授業科目レベル、学科・専攻レベル、大学全体レベルの3つのレベルで検証することを定めています。

授業科目レベルの検証には、1996年から継続して実施している授業評価アンケートを活用することにしました。授業評価アンケートでは、アンケート結果および学生による自由記述を踏まえて、授業の改善方策を含めた報告書の提出を義務付け、継続的に授業の質の向上を図っています。この取り組みは、専任教員だけでなく非常勤講師を含めた全ての授業を対象とし、每期、実施しています。

学科・専攻レベルおよび大学全体レベルの検証には、学生実態調査（毎年実施）、外部アセスメント調査（1年次、2年次、4年次に実施）、およびDP到達度調査の結果と共に、各部署が有している様々なデータも活用することになっています。DP到達度調査は、卒業する学生、卒業後3年経過した卒業生、企業の人事担当者を対象に実施する調査です。本学がDPに掲げ、学生に4年間で身に付けて欲しい能力・姿勢・態度に対して、学生や卒業生自身がどの程度身に付けたと感じているか、また、企業の方には、業務において本学卒業生の能力・姿勢・態度をどのように評価されているか、さらには在学中に特に身に付けることを期待する能力・姿勢・態度は何かなどを調査しています。これにより、本学の教育によって成長した学生が、企業が求める人材に合致しているかどうかを把握することができます。

今回の調査で学生が身に付けたと感じている能力・姿勢・態度と企業が求めているそれとで乖離が大きい項目は、「コミュニケーションを通じて他者と協働する力」（学生：14.9%、企業：23.7%）や「失敗や困難なことにめげずに立ち向かう力」（学生：7.2%、企業：15.0%）でした。これらの項目は、学生が身に付けたと考えている以上に企業が求めていることが今回の調査で明らかになりました。今後、これらの力が身に付くような機会や取組みを正課および正課外で設けていく必要があると考えています。

このような検証によって、真に企業や社会が求める人材像が把握でき、それを本学の教育に反映することができるようになりました。これは、まさに本学の建学の精神である「産業と社会の要請に応える人材の養成」の具現化に繋がるものと考えています。今後、このアセスメント調査を継続的に実施し、本学の教育の質の改善・向上を図っていきたいと考えています。

今回のアセスメント・ポリシーの見直しおよびアセスメント・プランの制定により、本学の教育を様々なレベルで点検・評価し、改善・向上に繋げる体制が整いました。これらの制定に際し、多大なる労力と時間を割いていただきましたアセスメント検討WGの皆さんに心より感謝申し上げます。また、各種調査に回答していただいた学生の皆さん、そして各種調査を実施し、データを整理・分析していただいた教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

2024年12月

大同大学
学長 渡邊慎一